



文部科学省
地(知)の拠点

THE UNIVERSITY OF SHIMANE
ENMUSUBI
PLATFORM



地域と大学の共育・共創・共生に向けた
縁結びプラットフォーム

MATSUE

IZUMO

HAMADA



平成27年度地(知)の拠点整備事業

成果報告書

(地域連携活動報告書)



公立大学法人 島根県立大学

はじめに

島根県立大学の「地（知）の拠点整備事業」：「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」（COC事業）は平成27年度で3年目となり、5年間の事業実施期間の半ばを過ぎることになりました。COC事業の2本柱は、①地域のニーズと大学の知的資源であるシーズをマッチングさせ、地域課題の解決に向けた共同研究を進めること、②地域の再生、活性化に貢献する地域人材を養成する教育改革を実行すること、です。

教育面では、既に、地域志向の教育である「フレッシュマン・フィールド・セミナー」等、地域をフィールドとする体験型学習を実施しています。本年度は、地域人材を養成する「しまね地域マイスター認定制度」の構築をほぼ終え、その基礎となる「しまね地域共生学入門」を、COC²-Netを活用した遠隔授業として、試行的に3キャンパス同時に開講することが出来ました。

研究面では、「9月連携会議」における地域ニーズと大学シーズのマッチングをより実質的なものとするため、テーマ別に分科会を設け、緻密な意見交換を経て共同研究のテーマを設定することにしました。また、「しまね地域共創基盤研究費」を活用した共同研究の成果は、「第3回全域フォーラム」の場で発表され、同時に、浜田市及び益田市と島根県立大学との共同研究の成果も発表されました。

島根県における地域の再生と活性化を推進する担い手となる人材の育成に向けて、「松江キャンパス」では、現場の専門職と大学教員が過疎地域の課題解決に向けて研鑽し合う専門職者向け履修証明プログラム「地域共生専門コース」の準備を進め、来年度から本格実施する体制を整えました。「出雲キャンパス」では、「しまね看護交流センター」が中心となり、「地域とともに歩む看護・福祉の専門職」の育成に取り組んでいます。「浜田キャンパス」では総合政策学の学びと実践のもと、地域事情に精通し、地域を繋ぎコーディネートしながら課題解決に取り組む「実践力のある専門地域人材」の育成に努めています。

今後とも、「縁結びプラットフォーム」を基盤として地域課題を解決し、地域の再生・活性化に向けて、大学が関係する自治体や団体等の間を繋ぎ合わせる接着剤の役割を果たすことができると願っています。

公立大学法人島根県立大学

理事長・学長 本 田 雄 一

— 目 次 —

はじめに	1
------	---

I. 3キャンパス合同事業

1. 「地（知）の拠点整備事業」平成27年度全域プラットフォームの実施状況	5
1) 9月連携会議	5
2) 縁結びプラットフォーム運営委員会総会	6
3) 第3回全域フォーラム	7
4) しまね地域マイスター認定制度	11
5) しまね地域共育・共創研究助成の研究成果	12
6) 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	60
7) 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	61
2. 3キャンパス合同学生ボランティア	62
1) 3キャンパス合同学生ボランティア企画	62
2) 3キャンパス合同学生ボランティア報告会・研修会	63
3) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会	64
3. 学生災害ボランティア	65
1) 東日本大震災に伴う災害ボランティア活動2015記録	65

II. 各キャンパスの活動

1. 浜田キャンパス	67
1) 学生の地域貢献活動	69
(1) 学生ボランティア活動（災害ボランティア以外）	69
(2) ボランティア・ポイント抽選会	72
(3) 地連caféOPEN！（ボランティア交流会）	73
2) 地域に関する教育・研究活動	77
(1) 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会	77
(2) 山陰地域フィールド体験学習—弥栄の農林業と暮らし	79
(3) フレッシュマン・フィールド・セミナー	80
3) 地域から／地域への応援・情報発信	84
(1) 島根県立大学浜田キャンパス公開講座の開催	84
(2) 学生研究発表会	88
(3) はまだ灯2015	90
(4) 島根中央高等学校学習支援	92
(5) 大学生による小中学校学習支援事業の取り組み	93
(6) 匹見中学校学習等支援	94
(7) 中学生の島根県立大学訪問	95

(8) 県大農園「すこっぷ」	100
(9) MAKE DREAM 2015	101
(10) 高大連携の取り組み	102
(11) NEARセンター市民研究員制度	103
(12) 講演会講師等・審査会委員等	105
2. 出雲キャンパス	107
1) 地域連携活動報告	109
(1) 生涯学習	109
①公開講座	109
②地域・団体主催による出前講座	111
③ぎんざんテレビ出前講座	113
(2) 学生の地域交流・地域貢献	114
①学生ボランティア活動の促進	114
1. 学生ボランティア研修会	114
2. 学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア保険の実施	115
3. 学生へのボランティア情報提供	116
4. 3キャンパス合同学生ボランティア交流会	116
②受託事業および地域活動への学生参加促進	118
(3) 教育機関との連携	119
①小中高校等出前講義	119
②小中学校体験学習	120
(4) 産公学連携	121
①包括協定締結自治体との連携	121
②受託研究・受託事業	121
1. 受託研究	121
2. 受託事業	122
出雲市 国富地区介護予防教室事業（いきいきたぶし会）	122
出雲市 児童虐待防止推進研修事業	123
③NPO法人・関係団体・企業との連携	125
1. 出雲産業フェア2015への出展	125
④各種審議会・委員会等への参加	126
(5) 広報・広聴活動	128
①ホームページ等を活用した最新情報発信	128
②キャンパスモニター会議	129
③第5回島根県立大学出雲キャンパス タウンミーティング in 隠岐の島町	130
④シニア・ジュニアキャンパスツアー	131
⑤島根県立大学出雲キャンパス サテライトキャンパスの準備	132

3. 松江キャンパス	133
1) 地域連携推進委員会の活動	135
2) 地域に関する教育・研究活動	135
3) 公開講座等の開催	140
4) 地域活性化支援	143
(1) 企業・団体・NPO法人等との連携	143
(2) 自治体等との連携	154
5) 学生による地域貢献活動	157
6) 教育機関等との連携一保・幼・小・中・高・大の教育連携	166
7) 教育課程のための地域の施設・機関との連携	170
8) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動	174
Ⅲ. 縁結びプラットフォーム事業	
1. 事業概要	181
3 キャンパス共通の事業概要	
2. 事業の主な具体的取組	182
鳥根県立大学／鳥根県立大学短期大学部	
Ⅳ. その他の地域活動	
1. 地域貢献プロジェクト助成事業	183
2. 鳥根県との連携	184
3. 隠岐の島町との連携に関する協定書締結	185
4. 公益社団法人鳥根県看護協会との連携に関する覚書	186
おわりに	187
参考	
1. 大学憲章	189
2. 自治体・学校等との協定・覚書	190

I. 3 キャンパス合同事業

1. 「地(知)の拠点整備事業」平成27年度全域プラットフォームの実施状況

1) 9月連携会議

地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る、実務者レベルの話し合いの場として、平成27年度「9月連携会議」を開催しました。

【日時】 平成27年9月30日(水) 13:15~15:15(前半の部) / 15:30~17:30(後半の部)

【会場】 島根県立大学浜田キャンパス講義研究棟3階
大演習室1・大演習室2・演習室14・演習室15

〈前半の部〉13:15~15:15

- ・「新規事業開発と雇用創出の強化」
(演習室15)
- ・「ソーシャルビジネスとヘルスケア
ビジネスの推進」(大演習室1)
- ・「文化・歴史の発掘と伝承」(演習室14)



〈後半の部〉15:30~17:30

- ・「地域資源を活かした商品開発と
ブランド化」(大演習室2)
- ・「相互に支え合う地域づくりと定住促進」
(大演習室1)



本年度は島根県立大学浜田キャンパスにて、5つのテーマによる分科会形式で開催しました。連携自治体等関係団体の実務担当者様と本学の教員総勢90名が出席し、それぞれテーマに沿った島根県の現状と地域課題を共有し、意見交換を行いました。今回の会議は、今後の地域課題解決にかかる取組への出発点としていきます。

2) 縁結びプラットフォーム運営委員会総会

平成27年6月2日（火）午後、島根県立大学浜田キャンパスにて、「平成27年度縁結びプラットフォーム運営委員会総会」を開催しました。

以下の議事について、審議がなされ、承認されました。また、「全域フォーラム」、「9月連携会議」の実施方法等、COC+事業への対応について情報共有がなされました。

当日の議事、情報共有事項は以下のとおりです。

■議事

- ・平成26年度事業実績の報告について
- ・平成26年度事業評価（自己評価・外部評価）の報告について
- ・平成27年度事業計画について

■情報共有事項

- ・全域フォーラムの見直しについて
- ・9月連携会議の見直しについて
- ・COC+事業への対応について



3) 第3回全域フォーラム

平成28年2月16日（火）、島根県立大学浜田キャンパス講堂にて、平成27年度島根県立大学「地（知）の拠点整備事業」成果報告会『第3回全域フォーラム』を開催しました。島根県をはじめ、副申をいただいた自治体や関係団体のみなさま、県外の高等教育機関、一般企業、市民のみなさまなど計180名のご来場をいただきました。

冒頭には、公立大学法人島根県立大学の本田雄一理事長、浜田市の久保田章市市長、益田市の山本浩章市長、それぞれより開会挨拶がありました。「基調講演」では滋賀県立大学の濱崎一志教授（滋賀県立大学 理事・副学長 地域共生センター長）を講師としてお迎えし、「地域と大学：共生のために今すべきこと」と題して基調講演も行いました。

「しまね地域共育・共創研究報告会」に加えて、「学生研究発表会」「浜田市共同研究報告会」「益田市共同研究報告会」もあわせて開催しましたが、今年度は会場を分野ごとに分けました。「しまね地域共育・共創研究報告会」「学生研究発表会」では、島根県内の諸課題に対応した3キャンパスの教員の研究成果と、浜田キャンパス学生の地域課題に対する日頃の研究成果を「観光振興」「雇用」「人材育成」「地域資源」の4分野に分けて報告しました。また、「浜田市共同研究報告」「益田市共同研究報告」では、浜田市ならびに益田市と島根県立大学が行った共同研究事業の成果報告を「商品開発」「教育」「観光」「人口問題」「交流人口拡大」の5分野に分けて報告しました。

◆日 時 平成28年2月16日（火）

◆会 場 島根県立大学浜田キャンパス

講義・研究棟1階大講義室1、中講義室3・4・5

◆プログラム

<開会のあいさつ>

- ・公立大学法人島根県立大学 本田雄一 理事長
- ・浜田市 久保田章市 市長
- ・益田市 山本浩章 市長



本田理事長あいさつ



久保田浜田市市長あいさつ



山本益田市市長あいさつ

・浜田市・益田市と島根県立大学の共同研究報告会

SESSION① 「商品開発」 SESSION② 「教育」 会場：中講義室 5	浜田市共同研究発表 SESSION①「商品開発」 「大学生とコラボした水産加工製品の開発」 ～大学文系学部が中小企業の製品開発に果たす役割とは～ 島根県立大学 久保田典男 准教授（浜田キャンパス）
	浜田市共同研究発表 SESSION①「商品開発」 「地元の食を再考する「まち弁」企画」－イカを活用した付加価値創造－ 島根県立大学 田中恭子 准教授（浜田キャンパス）
	益田市共同研究発表 SESSION②「教育」 「Webシーズマップを利用したふるさと教育連携」 島根県立大学短期大学部 山下由紀恵 教授（松江キャンパス） 島根県中山間地域研究センター 檜谷邦茂 嘱託研究員
SESSION③ 「観光」 会場：中講義室 4	浜田市共同研究発表 SESSION③「観光」 「石見トラベルガイドの継続」 島根県立大学 ケイン・エレナ 准教授（浜田キャンパス）
	益田市共同研究発表 SESSION③「観光」 「益田市の観光ニーズと萩・石見空港の二次交通」 ～Webアンケートによる分析～ 島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）
	浜田市共同研究発表 SESSION③「観光」 「広島市民に対する島根県浜田市の観光イメージ調査」 島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）
SESSION④ 「人口問題」 SESSION⑤ 「交流人口拡大」 会場：中講義室 3	益田市共同研究発表 SESSION④「人口問題」 「ワークライフバランスと人口政策」－国の施策と地域の施策－ 島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）
	浜田市共同研究発表 SESSION⑤「交流人口拡大」 「浜田の特産品を用いた地域活性化策」 島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）
	益田市共同研究発表 SESSION⑤「交流人口拡大」 「益田市における体験教育旅行受け入れによる交流人口拡大」 島根県立大学 林秀司 教授（浜田キャンパス）



浜田市・益田市と島根県立大学の共同研究報告会

・基調講演「地域と大学：共生のために今すべきこと」

(講師 滋賀県立大学理事・副学長地域共生センター長 濱崎一志氏)



滋賀県立大学 理事・副学長
地域共生センター長 濱崎一志先生

・しまね地域共育・共創研究の成果報告会、学生研究発表会（浜田キャンパス）

<p>SESSION⑥ 「観光振興」 SESSION⑦ 「雇用」 SESSION⑧ 「人材育成」 会場：中講義室 5</p>	<p>SESSION⑥「観光振興」 「松江市の観光振興に向けた取組み」－地域志向科目における実践－ 島根県立大学短期大学部 工藤泰子 准教授（松江キャンパス） 島根県立大学短期大学部 2年 佐々木麻衣（松江キャンパス）</p> <p>SESSION⑦「雇用」 「石見地方における企業の人材確保に関する基礎的研究」 島根県立大学 林秀司 教授（浜田キャンパス）</p> <p>SESSION⑧「人材育成」 「リーダーシップの養成」 島根県立大学 マニング・クレイグ 講師（浜田キャンパス）</p>
<p>SESSION⑨ 「地域資源」 会場：中講義室 4</p>	<p>SESSION⑨「地域資源」 「地域住民の健康増進活動を促進する温泉施設の活用と活性化に向けた取組み」 ～温泉地しまねの特性を活かして～ 島根県立大学 林健司 助教（出雲キャンパス） 島根県立大学 川瀬淑子 助教（出雲キャンパス）</p> <p>SESSION⑨「地域資源」 「邑南町における稲作の5次産業化に関する研究」 島根県立大学 豊田知世 講師（浜田キャンパス） 島根県立大学短期大学部 酒元誠治 教授（松江キャンパス）</p> <p>SESSION⑨「地域資源」 「伝統的工芸品 石見焼の販売促進」 ※学生研究発表会として開催 島根県立大学 生田泰亮 准教授 ゼミ生（浜田キャンパス）</p>



「しまね地域共育・共創研究助成金」成果報告（口頭発表）



学生研究発表会（浜田キャンパス）

・ポスター展示

○しまね地域共創基盤研究費

- ① 石見地域の伝統的工芸品の認知度向上、販売促進に関する研究
島根県立大学 生田泰亮 准教授 (浜田キャンパス)
- ② 高校生の英語学習に対する英語多読の効果
島根県立大学 ケイン・エレナ 准教授 (浜田キャンパス)
- ③ 道の駅の経営に関する研究
島根県立大学 久保田典男 准教授 (浜田キャンパス)
- ④ 「高津川と人々の暮らしの繋がりから探る地域の魅力
—地域活性化のための基礎的調査2 (高津川と地域の生活に関する聞き取り調査)」
島根県立大学 寺田哲志 准教授 (浜田キャンパス)
- ⑤ 「人の移動の要因に関する基礎調査」
島根県立大学 豊田知世 講師 (浜田キャンパス)
- ⑥ 「島根県の森林価値の再評価：林業による活性化の道を探る」
島根県立大学 豊田知世 講師 (浜田キャンパス)
- ⑦ 浜田市、津和野町など石見地方の食の特産品の販路拡大、高付加価値化を目指して
—産品データベース、CASを活用した6次産業化の可能性を探る—
島根県立大学 藤原真砂 教授 (浜田キャンパス)
- ⑧ 住民組織による買物弱者支援の可能性と課題
島根県立大学 松田善臣 准教授 (浜田キャンパス)

※50音順

○地域活動経費

- ⑨ 地域資源を活かした島根県立大学教職課程履修者の学びの発展と深化
島根県立大学 川中淳子 教授 (浜田キャンパス)
- ⑩ 島根県における地域課題と国際化の現状について
島根県立大学 林 裕明 准教授 (浜田キャンパス)

※50音順



「しまね地域共育・共創研究助成金」
成果報告 (ポスター展示)

4) しまね地域マイスター認定制度

本制度は、島根地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する、本学独自の制度です。1年次に3キャンパス共通科目『しまね地域共生学入門』にて、島根県の地域課題を概論的に学びます。2年次以降では（一部、1年次含む）『選択専門科目』として、地域課題を専門的に研究・学習する機会を設け、『地域共生演習』としてフィールドワーク（現場に飛び出した学習）を取り入れて地域課題について学べるゼミを選択していきます。また、より地域に精通した人材育成の為に、高度な専門科目の取得、キャンパスを越えての『地域課題総合理解』（他キャンパスとのディスカッション等）にて、複眼的に物事をとらえる能力を養います。



カリキュラムマップ

学年	1年	2年	3年	4年
演習科目				地域共生卒業研究
		地域共生演習		
専門科目	選択専門科目			
		地域課題総合理解		
基礎科目	共しまね学入門地域			

『しまね地域マイスター』に認定された学生は、卒業時には自ら課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として社会に飛び出すことが出来る事を目標としています。

地域に対しては『地域事情に精通した人材』、『地域や人をつなぐ、コーディネート力を持つ人材』、『熱意をもち課題解決に取り組める実践力を持った人材』を育成することにより、自ら課題に対して考え・行動出来る人材として受け入れられることを目指していきます。

『しまね地域マイスター』認定を受けた学生が、将来的に自治体・企業等に就職を希望する際に有利にはたらく等、環境整備を行っていきます。

『しまね地域マイスター認定制度』各カリキュラムについて

しまね地域共生学入門

複雑な地域課題において、複数の専門からの知見により学ぶことで、実際に地域に出て実践する力を養います。

地域課題総合理解

キャンパスを跨ぎ、それぞれの専門を交えて演習形式で議論・報告を行うことで、学際的に考えることの必要性を理解・学習します。

選択専門科目

『しまね地域マイスター』を取得するための認定対象科目です。

地域共生演習

関心のある地域課題の解決に向けて自らの仮説を設定し、フィールドワーク等を用いた客観的な論証を通じ、その解決策の提案力を養います。

地域共生卒業研究

地域課題について学んできたこれまでの知識を踏まえ、受講することで『しまね地域マイスター』取得が実現します。



5) しまね地域共育・共創研究助成の研究成果

(1)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス） 准教授 生田泰亮
研究テーマ	石見地域の伝統的工芸品の認知度向上、販売促進に関する研究

1. 研究目的
<p>かつて、江戸時代から明治大正期まで、石見焼は生活の必需品（みずがめ）として全国各地に流通していた。石見部の地域ブランドの先駆的産業、商品である。現在は、窯業、陶器の全国的な衰退の中で、その高い技術力を継承しながらも「日用品としての石見焼」の確立に向けて模索している。本研究は、島根県の経済、産業振興に貢献するために、①石見焼の歴史的価値を検証するとともに、②地域ブランド品としての石見焼の再構築の可能性について研究するものである。</p>
2. 方法
<p>①石見焼の歴史的価値の検証</p> <p>生活必需品としてのはんどは全国各地に普及していた。九州地方について十分な調査が行われていないので、(1)陶器製造技術の伝播と(2)今後の大物（はんど）の販路調査も含めた他地域の窯業の現状を調査する。また、九州地方では焼酎、黒酢等の製造に大がめを使用している業社が多い。九州地方の陶磁器産地、大甕を利用している酒造、醸造酢業社を調査した。</p> <p>②地域ブランドとして再構築の可能性</p> <p>これまでの研究・調査、様々なイベントや活動の中で、島根県、石見地域の住民でも石見焼について、詳しく知らない方が多いということがわかった。また陶器と磁器の違いすら十分に理解されておらず「陶器に近い性質をもつ石見焼」という事実は、生産者やごく一部の者しか理解していない状況にある。マグカップ、食器などの「日用品としての石見焼」というブランドイメージの確立のために、顧客ターゲットを広げ、特に若者が伝統的工芸品に親しむ工夫や商品開発を総合演習（3年生）で、石見陶器工業協同組合の協力のもと行った。また、海遊祭でこうした商品の販売、展示、調査を行った。</p>
3. 結果
<p>各地の郷土資料館や博物館、窯元、また道中、廻船問屋や豪商の家屋が保存展示されているところを訪問し、年代による形状、釉薬の変化、刻印や墨字を確認し、石見焼の流通圏を調査した。今年度の調査では、九州地方を3回に分けて調査した。大分県豊後高田市、宮崎県日向市、鹿児島県いちき串木野市、長崎の平戸市などでは刻印があるはんどを確認した。その他、刻印はないものの形状から行く先々で確認した。</p>

鹿児島県の鹿児島龍門司焼（黒薩摩焼）、福岡県香春徹山窯（上野焼）では、釉薬甕として現在でも使用されていた。香春徹山窯では、先代が浜田市出身の方で窯業を始めた。また、大分県日田市小鹿田焼でも石見の職人が真面目で腕のいい職人として、窯元で活躍されえていたことが聞き取り調査で確認できた。

石見焼の流通圏の調査結果
(2016年2月現在)



3学年の総合演習では、石見陶器工業協同組合の窯元にご協力いただき、商品開発、販売の際に若者が購買意欲を持つような説明方法など学生が学生や地元の方々に認識してもらう方法を検討した。一昨年に続いての販売であり、学生のリピート客も多く、地元の方々からも好評であった。特に、陶芸体験コーナーは、認知度、購買意欲を高め、地元の伝統工芸に触れる機会として大好評であった。

4. 研究成果の公表

平成28年2月16日（火）に「大学COC事業「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」第3回全域フォーラム（しまね地域共創基盤研究費）於島根県立大学浜田キャンパス」にて報告。

5. 地域貢献の成果

石見焼の流通圏の調査では、一時代とはいえ、全国各地に流通したはんだの歴史のかつ技術的価値の高さがいっそう明らかとなった。こうした地場産業の歴史とともに、地域学の対象として石見焼を取り上げることが、地元の認知度向上へとつながり、インフルエンサーとしての口コミなどにもつながる。生産者と地元消費者が交流を一層持つことこそ、地場産業の競争力維持につながることを考えると、地場産業の歴史を学び、後世、世界に広げていくためには、販売促進のための地元教育の活動こそが重要と考えられる。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科 (浜田キャンパス) 准教授 ケイン エレナ
研究テーマ	高校生の英語学習に対する英語多読の効果

1. 研究目的
<p>英語多読を津和野高校の生徒に対して行い、高校生の英語学習にどのような効果をもたらすかを調査することを本研究の目的である。総合政策学部では2008年から1年生全員に対して英語多読を実施しており、英語多読のノウハウを培ってきた。本研究では、高校生に対して英語多読を導入し、高校生の英語学習意欲に効果をもたらすかどうかを調査する。</p>
2. 方法
<p>研究の対象は町営塾の生徒とする。町営塾には各学年役80名程度の生徒が登録をしている。これらの生徒に対して、多読を実施する。多読を行うには学習者のレベルに合わせた多読本が必要になる。春学期中に一部はCDの付いた多読本を300冊購入し(図書費)、レベル分けのシールを貼り(消耗品)とワードカウントを行い(謝金)、教室内での貸し出しができるように整える(消耗品・バイト代)。本学の学生をアシスタントとして雇用し、町営塾の教師および生徒に多読のオリエンテーションを行った後、多読指導を行う(図書費)。多読本とCDプレーヤー(備品)は、町営塾の教室に本棚(備品)に保管する。多読を始める前後に、英語学習意欲や英語力についてのアンケート調査を行い(謝金)、多読の効果を測定する。2014年9月浜田キャンパスで研究者と地域のニーズをマッチング</p> <p>2015年1月町営塾と懇談、本学の多読プログラムについての説明 2015年6月町営塾を訪問、要望を聞く 2015年8月多読用の本を購入、語彙を数え、シール貼り、カタログ作り 2015年9月町営塾を訪問、本を設置、生徒に多読の説明とアンケート 2015年9月～2016年3月毎週多読のレッスン(町営塾の千葉先生の協力) Sustained Silent Readingの授業(生徒は授業中に読む) 2015年11月生徒のフィードバックにより、もっと簡単な本を購入、配達 2015年12月中間フィードバック 2016年2月最終アンケートと集計</p>

<h3>3. 結果</h3>
<p>多読プログラムの最終アンケート（2月）</p> <p>生徒は多読する前と比較、英語の読書能力に自信が増え、英語読書がもっと好きになり、英語読書の時間が増えた。</p> <p>生徒からのフィードバック</p> <p>今回初めて英語の本を読みました。思ったことは、意味がわかれば英語の本も面白いという事です。最初は意味が分からずに大変な事もありましたが、ちょっとずつ英語が分かるようになりました。</p> <p>読むスピードが変わりました。いろんな本を読む事によって、表現の仕方をたくさん学ぶことができました。日本昔話を英語にしてあったりして読むのがとても楽しかったです。</p> <p>模擬試験での長文が読みやすくなりました。前よりスラスラ読む事ができました。またある程度の分の長さがあっても読もうという気が起こりました。</p> <p>英文を読んでくると読解力や単語力がついたと思った。英語の本を読んで、本の面白さがさらに分かった。本を読むのが楽しくなった。</p> <p>まだ英語の読解力が低いですが、授業を受ける前より少し読解力が上がった気がします。もう少し続けたいです。</p>
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<p>2月COCフォーラムでポスター発表</p>
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<p>高校まで教科書しか読んでいない生徒は、多読本から自分の好きな本を選び、自分のレベルにあわせて読むことによって、英語学習を楽しく続けられるようになった。今後、県内の高校や中学校で多読プログラムの設置に協力したい。</p>

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）准教授 久保田典男
研究テーマ	道の駅の経営に関する研究

1. 研究目的	
<p>2015年11月現在で全国に1,079か所存在する道の駅を、地方創生拠点として位置づけるための施策が国土交通省において行われている。また、道の駅における大学との連携・交流を全国的に推進する取組みが国土交通省と観光庁において行われており、産学連携の観点からも道の駅に対する注目が集まっている。国土交通省では、道の駅による地方創生拠点の形成にあたり、「地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型」または「地域の元気を創る地域センター型」として位置づけられる道の駅を支援対象としており、道の駅に求められる役割は複雑化している。</p> <p>道の駅は①休憩機能、②情報発信機能、③地域の連携機能を併せ持つことが登録の要件とされており、公共的な性格を有する一方で、地域の特産品の販路拡大や観光客呼び込みの拠点としての役割を果たすうえで、経営的な側面を強化し持続可能な道の駅にしていくことが求められる。しかしながら、地域振興の拠点として機能している道の駅がある一方で、利用者の減少、収益性の悪化などの課題を抱える道の駅も多いことから道の駅を経営面から考察することが求められる。</p> <p>そこで本研究では、道の駅が地域振興の拠点としての機能を十分に果たすためにはどのような経営が求められるのかについて、島根県における道の駅に対するインタビュー調査等から課題を整理しつつ、県外の道の駅の先進事例のケーススタディなどから考察することを目的とする。</p>	
2. 方法	
<p>具体的な研究方法としては、道の駅を起点とした地域振興に関する文献のサーベイを行うとともに、島根県内の道の駅に対してインタビュー調査を実施し、島根県における道の駅の課題を整理した。</p> <p>次に島根県における道の駅の課題を踏まえ、経営面で先進的な取組みを行っている島根県外の道の駅に対してインタビュー調査等に基づく事例研究を行った。</p> <p>さらに、大学が道の駅との連携・交流においてどのような役割を担うのかを考察するために、法政大学において開催されている観光振興と産学連携に関する研究会に参加し、情報収集を行った。</p>	

3. 結果

道の駅の経営形態は、設置者と運営者の違いによって、公設公営（地方公共団体が直接管理運営を行う方法）、公設民営（指定管理者制度等施設の運営を第三セクター等の公共的団体または民間事業者等に委ねる方法）、民設民営（PFIなど施設の建設から運営までを民間事業者が行う方法）に大別されるが、調査の結果、島根県内の道の駅全28駅のうち19駅が指定管理者制度に基づく公設民営の形態をとっていることがわかった。

また島根県内の道の駅に対するヒアリング調査から、島根県における道の駅の課題は、①通過点でなく最終目的地となる道の駅とすること、②コンセプトとターゲットの明確化及び両者の整合性確保、③地元産品を活用した高付加価値商品の開発の3点に整理された。

島根県外の道の駅の先進事例を考察すると、地産地消をコンセプトとし地域住民をコアターゲットとする、地域産品を軸とした物販・飲食店を展開する、道の駅を他の観光地へと回遊させるインフォメーションセンターとして機能させる、などの形でコンセプトとターゲットの明確化が図られていた。また、道の駅を地域協働の拠点とする、商品開発だけでなく販売促進などのソフト面を強化するといった形で地元産品を活用した高付加価値商品の開発が行われていた。

4. 研究成果の公表

研究成果については、2016年2月16日に島根県立大学浜田キャンパスにおいて開催された「第3回全域フォーラム」において、ポスターセッションによる発表を行った。当該発表内容は、2016年度に公立大学法人島根県立大学地域連携推進センターにおいて発行予定の「平成27年度地（知）の拠点整備事業成果報告書」においても公表される予定である。

5. 地域貢献の成果

本研究を進めていく過程で、総合政策学部1年生の必修科目であるフレッシュマン・フィールド・セミナーにおいて、道の駅キララ多伎の運営会社である株式会社多伎振興の事業展開の取組について、学生とともに考える機会を得るなど、教育活動にも展開することができた。

また本研究を契機として、大田市道の駅整備検討委員会の委員を務めたり、2015年11月1日に仁摩農村改善センターにおいて開催された「大田市『道の駅』シンポジウムにおけるパネルディスカッションのコーディネーターを務めたりするなど、実践的な立場から道の駅を起点とした地域振興に関わることができた。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）准教授 寺田哲志
研究テーマ	「人々の暮らしと高津川の繋がりから探る地域の魅力 ―地域域活性化のための基礎的調査 2（高津川と地域の生活に関する聞き取り調査）」

1. 研究目的	
高津川には地域の魅力の源泉となる可能性があると考えられている。本研究では、高津川には地域の魅力の源泉となる可能性があると考えている。それを川と人との関わりの中から見つけ出したい。先行調査で特定した「淵や瀬、渡し場などの川の地名」における、川と人々の暮らしとの繋がりを聞き取り調査によって探る。	
2. 方法	
<p>1) 益田市、津和野町の教育委員会や公民館などに依頼し、高津川流域に住み川と関わって暮らしてきた方々に聞き取り調査を行う。</p> <p>2) 現地公民館で実際に聞き取り調査を実施。 (教員+学生10名程度、聞き取りと書き起こし、写真記録などを行う)</p> <p>3) 録音を文字に起こし、特定できている地名とともに話をまとめた。</p> <p>平成27年12月19日（1回目聞き取り調査） 平成28年1月11日（特に重要な個所の写真撮影） 平成28年1月13日（2回目聞き取り調査）</p> <p>聞き取り体制 教員1+学生10名程度で現地の方6名程度とお話する。</p>	
3. 結果	
<p>平成27年12月19日（1回目聞き取り調査）地元の方6名に、学生10名でお話を伺った。 平成28年1月11日（特に重要な個所の写真撮影） 平成28年1月13日（2回目聞き取り調査）地元の方3名に、学生8名でお話を伺った。 大まかな聞き取り結果は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風の日に流れてくる材木でサーフィンをする。 ・台風が来たら「それっ」とばかりに家に置いてあった大きなゴミを川に捨ててに行く。 ・高校生のデートスポットは「雄滝」「雌滝」で近くまでは別々に言って人に見えないところで待ち合わせをしていた。 ・先輩に半分濡れさせられながら泳ぎを習う。 ・お金持ち（特に林業関係）日原の街から、優雅に屋形船に乗って対岸の置屋に向かう。 ・女子は好きな人が川で遊んでいるのを見たくて、何人かで盗み見をしに行く。 ・逆に、男性が薄着で泳いでいる女性を覗きにいったりもする。 <p>といった話をたくさん聞くことが出来た。</p>	

4. 研究成果の公表

平成27年2月13日「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)第3回全域フォーラム」においてポスター発表。

5. 地域貢献の成果

高津川は水質もきれいで大事にすべき場所ではあるが、地元住民にとっては今も変わらぬ生活の中心であることが分かった。生活するということはきれいごとではすまず、それを踏まえた上で、高津川の良さと、石見の人の面白みを伝えるような利用法が良いのではないかと思われような聞き取り結果であった。今後の取り組みに生かしたい。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）講師 豊田知世
研究テーマ	邑南町における稲作の5次産業化に関する研究

1. 研究目的	
<p>中山間地域では、6次産業化による所得の増加策が検討されているが、地域の高齢化により6次産業化が困難な状況も見られる。そこで第1次産業部分を高齢者（地元住民）が担い、第2次+第3次産業部分（5次産業）を青壮年層（新規定住者）が担うビジネスモデルを稲作において検討する。</p> <p>5次産業による高付加価値化は可能か、米の販売単価を上げることで新規定住者の所得確保が可能か検証する。</p>	
2. 方法	
<p>①花桃祭り来場者アンケートにてニーズ調査</p> <p>②浜田キャンパスおよび松江キャンパスにて川角米と仁多米の食味調査 アンケート調査の実施、統計分析（ウイルコクソンの符号付き順位検定、マン・ホイットニーのU検定）</p> <p>③川角集落周辺を対象にしたビジネスモデルの検証</p>	
3. 結果	
<p>①花桃祭り来場者アンケート 花桃祭り当日 アンケート回答者：152人（来場者1,200人） 花桃祭りを知ったきっかけ、満足度、希望に関するアンケート 購買の需要があることが明らかになった（特に食べ物）</p> <p>②浜田キャンパスおよび松江キャンパスにて川角米と仁多米の食味調査 373名に食味調査を実施。 川角米は仁多米と同程度美味しいことが明らかになった。</p> <p>③川角集落周辺を対象にしたビジネスモデルの検証 川角米と同一水系の地域では、約260トンのコメ収穫可能。220トン販売すると、年間4,427万円の所得増加効果がある（400円／トンで販売した場合）。ただし、初年度5,600万円、次年度以降毎年141万円の費用が必要。（今回土地代を含めていない。人件費は、所得増加として計上）。</p>	

4. 研究成果の公表
<p>2月合同成果発表会にて口答発表</p> <p>総合政策論叢（予定）</p> <p>川角集落での報告会</p>
5. 地域貢献の成果
<p>花桃祭りでは、地域ならではの商品に対する需要あり。</p> <p>川角米と仁多米の美味しさを比較した結果、味の違いはほとんどない。</p> <p>仁多米と同程度～同程度以下の価格帯で売れる可能性がある。</p> <p>ただしまとまった所得効果を出すためには、地域間の協力が必要。徐々に規模を拡大する、もしくは初期投資のために行政の協力が有効。</p>

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）講師 豊田知世
研究テーマ	「人の移動の要因に関する基礎調査」

1. 研究目的
都市から地方へのIUターンの推進によって、IUターン者は増えつつあるが、転入者の長期定住については課題が残っている。長期的な定住政策を行うためには、転出理由を尋ねる方法が考えられるが、個人情報の関係で転出者への調査は不可能である。そのため、本研究では人が移動する要因についてウェブベースのアンケートを実施し、人の移動の要因の基礎調査を行うことを目的とする。
2. 方法
<p>【対象者】 (予備調査) ・ 現在20－40歳代 ・ 10年以内に市区町村を超える引っ越し経験が1度以上ある人（親の転勤除く）</p> <p>(本調査) ・ 対象：412名 ・ 現在の住まいからさかのぼって時系列順の、引っ越し時の年齢、引っ越しの理由、その後の生活・満足度を調査（過去3回まで）。</p> <p>【方法】 アンケート調査：Webアンケート アンケート結果の相関分析</p>
3. 結果
<p>【アンケート結果】 10年以内に1度以上引っ越しをした20－40代を対象に、引っ越しの要因とその前後の生活満足度の違いについて調査した。</p> <p>20代の人々の移動：結婚と仕事（就職、転職、転勤）が多い。次いで周辺環境（住宅事情や生活環境）など。</p> <p>30代の人々の移動：転職、転勤など仕事関係が最も多い。次いで、家族の移動や結婚、周辺環境などが多い。</p> <p>40代の人々の移動：周辺環境（住宅環境、生活環境、通勤など）が多く、次いで仕事関係の移動が多い。他の年代と比較して引っ越し前よりも全体的に満足度が高まっている。</p>

【アンケート項目の相関関係】

生活環境の総合的な満足度と相関のある項目は？

- ・住居環境が最も高い相関がある。次いで子育て環境、買い物・交通等の利便性。
- ・医療施設や高齢者施設の充実、文化施設や公共施設の充実、地域住民との人間関係も高い相関がある。

4. 研究成果の公表

2月合同成果発表会にて口答発表

5. 地域貢献の成果

年代によって移動の理由は異なる。IUターンをアピールする項目は、年代によって異なる方が望ましい。全体として、住居関係がもっとも移住後の満足度が高く、次いで子育て環境、買い物・交通等の利便性。また医療施設や高齢者施設の充実、公共施設の充実、地域住民との人間関係について、生活満足度が高い。今後の課題として、「都市圏から地方」、「地方から地方」、「地方から都市圏」へ移動した人の生活の満足度の変化を抜き出し、理由とその原因について分析する。とりわけ、地方から都市、地方から地方へと移動した人のデータに注目し、長期移住に向けた政策提言を行うことが課題である。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）講師 豊田知世
研究テーマ	「島根県の森林価値の再評価：林業による活性化の道を探る」

1. 研究目的
<p>森林資源のエネルギー供給機能、CO₂吸収機能、木材供給機能の3つの機能に着目し、島根県において自立して持続可能な産業としての林業の在り方を模索すること。</p> <p>とくに、林業機械化による効率化および木材の新たな利用としてのCLTに関する情報収集する。</p>
2. 方法
<p>1) CO₂吸収能力の評価 森林整備によって増えるCO₂吸収をクレジットとして換算</p> <p>2) 森林資源のエネルギー利用による地域経済への効果 システムダイナミクスを用いた長期シミュレーション</p> <p>3) 島根近隣諸国への木材輸出の可能性等、木材の利用についてまとめること 東京および島根県内関連施設へヒアリングおよび施設訪問（CLT協会および林業機械化協会へのヒアリング、島根県内バイオマス発電施設視察） データ包絡分析法（DEA; Data Envelopment Analysis）による生産効率性分析</p>
3. 結果
<p>【アンケート結果】</p> <p>1) 森林整備によるCO₂吸収能力 ・年間318,893t-CO₂。国内クレジットとして、31.9億円分販売可能（10,000円/t-CO₂）。 ・2020年からCO₂削減義務が課せられる見込みであるため、環境分野と連携した取り組みが必要。</p> <p>2) 木質バイオマス発電の利用について ・廃材や林地残材のみだと、売電価格年間3.6億円、CO₂削減効果17,723t-CO₂（1.8億円） ・積極的に間伐し、主伐材もエネルギー資源として利用した場合、売電価格年間411.5億円、CO₂削減効果82.3万t-CO₂（32.9億円）。 ・面積あたりの費用が利益を上回る。</p> <p>3) 木材としての利用： ・島根県の平均的な木材生産効率は、他県と比較すると効率性が低い。そのため、効率的な山からの切り出しが課題。 ・森林資源の川下では、CLT（直交集成材）など新たな木材の活用が推進されている。また、北東アジア地域における木材需要が増加していたりと、貿易による需要も今後ますます拡大する見込みである。</p>

<p>4. 研究成果の公表</p>
<p>2月合同成果発表会にてポスター発表 ディスカッションペーパー：豊田知世・林田吉恵・李憲・鄭世桓「島根県の森林資源によるエネルギー供給の可能性に関する考察」</p>
<p>5. 地域貢献の成果</p>
<p>2020年以降の温室効果ガス削減義務の導入によって、国内外の木質バイオマスチップが増加することが予測される。またCLT材など、建築用として新たな利用によって国内需要も増加する見込みである。県外、国外の木材需要が増加しているため、森林資源を有する地方にとって、森林資源をどのように活用すれば地域経済の活性化に有効に寄与するのか、経済及び環境的視点を取り入れて評価することが鍵となる。</p> <p>木材は重く、輸送にもエネルギーが必要となるため、できるだけ小規模の範囲での利用が環境と地域経済循環の面から望ましいため、木材をベースにした地域作りが今後課題になるだろう。</p>

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）教授 藤原真砂
研究テーマ	浜田市、津和野町など、石見地方の食の特産品の販路拡大、高付加価値化を目指して — 一産品データベース、CASなどの食品冷凍技術を活用した6次産業化の可能性を探る—

1. 研究目的
<p>①昨年（2014）度に作成した石見地方の2次産品データベース「石見の産品情報サイトいわみのうまいもん」に続き、今年度はその充実を図るとともに、1次産品リストの作成を目指す。</p> <p>②CASシステムなどの食品冷凍処理機を導入している自治体や事業者の事例を学び、食品冷凍技術の適用のメリットと可能性を探る。</p> <p>③上記2次産品データベースを手がかりに、CASなどを活用した高付加価値化が可能であるとみられる産品候補をリストアップし、技術の利用意向を聞き取る。また2015年10月に開催される第2回「石見の国特産品総覧会2015（いわみまるごとフェア）」の会場にて参加企業の聞き取りを行ない、食品凍結処理に対する関心の度合いやCAS利用の意向調査を行なう。</p> <p>④インターネットに生産者・産品情報を公開して生産者と販売者、消費者の縁結びを試みるとともに、あらゆる機会を通じて県内外の生産者、流通業者との交流、情報収集を図る。</p>
2. 方法
<p>アンケート調査、ヒアリング調査、食品冷凍学の権威の招聘による研究会実施</p> <p>a. 食品冷凍技術に対する事業者のアンケート調査（2015年10月－11月実施）</p> <p>b. 石見の国特産品総覧会での聞き取り調査（2015年10月17日実施）</p> <p>c. 食品凍結技術の活用に取り組む6事例ヒアリング調査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 津和野町（津和野町CAS凍結センター） 2. 隠岐・海士町（株式会社ふるさと海士） 3. 隠岐・西ノ島町（株式会社日本海隠岐活魚倶楽部） 4. 有限会社土江本店（浜田市・松江市） 5. ビービー工房（浜田市） 6. 葵屋（AOIYA）（匹見町） <p>d. 食品冷凍学研究者、東京海洋大学鈴木徹氏の講演会開催および研究会実施</p> <p>食品冷凍学の最前線（その1）—冷凍のメカニズムと産業戦略</p> <p>食品冷凍学の最前線（その2）—冷凍のメカニズムと地域産品戦略</p>

<p>3. 結果</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品冷凍技術、機器を用いて地域産品に高付加価値を持たせ、地域振興を図ろうとしている行政、食産品業者の県内の業者の取り組みについて概況を知る事が出来た。 2. 最近話題のCAS、プロトンなどの最新の食品冷凍機器を購入し、それを活用している、活用を計画している自治体の動向を把握出来た。すでに実績を挙げている自治体、業者もあり、先進事例としてそれに倣い追随する動きがあることが分かった。 3. 食品産品業者のいくつかは既存の冷凍機器を用い、試行錯誤の末、独自の冷凍手法を編み出していた。ただ、独自の経験とカン、あるいは独習の「理論」によるもので、理解しづらいものもある。学術的な理論的裏付けがあれば、との感想を持った。 4. 食品冷凍学の研究者の中には、商業ベースのCAS、プロトンの性能、有効性を評価しない者もいることを知った。 5. 食品冷凍学の知見によると、冷凍機器により冷凍された食品の冷温保冷が、品質保持に非常に重要な要素であることを知った。 6. 冷凍食品輸送網を利用して、石見の冷凍食品を県外に輸送するシステムを組むことの重要性も認識出来た。 7. 食の安全を保ちつつ、旨味も消費地に送り届けることの出来る地域の冷凍特産品は移出に有効な商品であり、地域活性化に大いに資するものであり、発展性を秘めている。
<p>4. 研究成果の公表</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 報告書のとりまとめと、地域の関係者への配布。 2. 島根県立大学『総合政策論叢』への論文あるいは研究ノートの投稿、公表。
<p>5. 地域貢献の成果</p>
<p>浜田市中心部と中山間地をつなぐ新たな流通ネットワークの構築を、冷凍技術の活用というキーワードで考えている民間事業者の有志グループがある。それはもともと、中山間地で古くから作られてきた種々の副菜や加工品を急速冷凍して保存し、季節を外れて来訪する旅行客をもてなすことはできないか、という発想から広がった。季節性のある豊かな山村の食材や料理に関して古くからの住人がもつ知識と技量が次第に埋もれていくのは惜しいことである。これらの伝統を発掘・保存、さらに開発し、観光客を歓待すると同時に新世代にも伝授することを狙う。具体的には、現在すでに運用されている民間の配送ネットワークをそのまま利用すれば効率が良い。すなわち町から山村に商品を配送した帰り道は、今は空車で戻ってきていることから、帰りに、山村の食材や加工食品を市の中心部に持ち帰り、急速冷凍機で冷凍することで、空車の無駄を解消することができる。冷凍した食品はまた山村に送り届け、小型の冷凍庫を要所に配置して保存する。そして必要なときに保存庫から出して解凍して用いる。この計画の実現のためには、山村の住人あるいは小規模店舗・事業者の参加意向調査がまず求められると同時に、町の中心部に備える急速冷凍機と山村に配置する複数の保冷库の調達資金が必要になるであろう。</p>

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）准教授 松田善臣
研究テーマ	住民組織による買物弱者支援の可能性と課題

1. 研究目的
<p>自家用車中心の生活を余儀なくされる浜田市では、高齢などの理由により車を運転することができなくなった人たちを中心に、日常の買い物への困難さを訴える声が多く挙がっている。一方、慢性的な財源・人材不足により、こうした人びとへの対策を行政主導で行うことには限界があるため、今後さらに増えることが見込まれる買い物弱者への支援・対策は、地域住民が中心となって行わざるを得ない状況にある。</p> <p>そこで本研究では、地域住民が主導して買い物弱者を支援していくためのプロセスや方法について調査・検討する。</p>
2. 方法
<p>上記目的を達成するため以下の流れで研究を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 買い物支援に関する文献収集・ヒアリング 2. 調査対象地域の選定・対象地域でのヒアリング 3. 調査対象地域でのアンケート調査 4. 抽出課題の取りまとめ
3. 結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物支援の先進地視察・ヒアリングのため、雲南市掛合町波多コミュニティ協議会や掛合タクシー、雲南市役所などを訪問した（平成27年8月10日～11日）。 ・ 調査対象地域をA団地に選定し、A団地の住民ら4人から普段の買い物や生活の様子について話を伺った（平成27年7月23日）。なお、A団地は浜田市内でも古い団地の1つで、市街地に近いながらも急こう配の坂があるなどの立地環境から、クルマを持ってない高齢者にとっては買い物に行くことが困難な地域である。 ・ A団地（90世帯）を対象にアンケート調査を行った。調査期間は平成27年12月23日～平成28年1月15日で、調査票を各戸に配布したのち返信用封筒にて返信を求めた。回収率は48.9%であった。本アンケート調査の結果からは以下のようなことが明らかとなった。 ・ 高齢者のみならず、若年層も買い物に不便を感じる人が多い。 ・ 運転する人とできない人の感じる不便の内容は異なる。現在運転をしている人の中にも、仕方なく運転している人が多い。高齢者は、以前実施されていた買い物送迎サービスの運行の再開を期待するものの、その実施に関しての協力が困難だと考えている。

- ・免許のない人や運転しない人は、送迎やバス・タクシーの充実が必要だと感じている。
- ・送迎を希望する人は「実際に商品を見たいから」の回答が多い。買い物以外の用事もついでに済ませられることがその理由である。
- ・買い物送迎サービスの再開を希望する人は、何らかの協力をする可能性がある。その一方で、送迎サービスは利用したいが、その協力を躊躇する人もいる。

4. 研究成果の公表

鳥根県立大学浜田キャンパス公開講座（平成27年10月28日）にて、報告を行った。
第3回全域フォーラム（平成28年2月16日）のポスターセッションで研究成果の発表を行った。

5. 地域貢献の成果

A団地は比較的市内中心部に立地するが、その買い物環境を「不便だ」という人は多い。さらに、若年層にも不便を感じている人が多いのは注目できる。若年層はマイカーを所有し、その不便を克服している。問題は、モビリティを持たない高齢者層である。

買い物環境を改善するための方策のうち、「お店への送迎（買い物タクシー）」は「商品を見ながら買い物できる」ため、有力な解決策である。また、送迎を必要とする人を中心に、その運営に対する協力の可能性も示されている。

しかし、「自分にできることはないが、利用はしたい」人も一定数存在する。こうした人は、運営にあたって、どのような協力ができるのかイメージできていない可能性がある。運営に際して、具体的な仕事を可視化することで、協力を申し出る可能性を有している。

その際、「買い物」だけを目的に組織化するのは難しい場合がある。そのため、各種サロン活動の一環で「買い物」にも出かけるなどの工夫も求められる。また、人々の交流や協同を支援するという観点から、地域のさまざまな社会資源とネットワークを有する社会福祉協議会には、とりわけ大きな期待を寄せることができる。

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科 (出雲キャンパス) 准教授 長島玲子
研究テーマ	プレパパ・ママ講座の実施と子育てハンドブックの評価

1. 研究目的	
<p>出雲市内で行っている「プレパパ・ママ講座」は、プレパパ・ママが赤ちゃんや先輩パパ・ママと交流することで、妊娠・出産・子育てへのイメージ化や不安の解消に役立っている。一方、先輩パパ・ママも赤ちゃんと共に参加し、これから親になる人たちへの役立ち感を自覚することで、子育てへの自信を強める機会にもなっている(資料2)。</p> <p>今後は、本講座を継続すると共に、参加者から集積した声から作成した「HAPPY♥BOOK ママの気持ちが変わる ～妊娠・出産・子育てが10倍楽しくなる～」の活用について評価することを目的とする。</p>	
2. 方法	
<p>1. プレパパ・ママ講座の開催 2回実施①平成27年6月21日、②平成27年11月15日</p> <p>2. 妊娠出産を10倍楽しくする 『HAPPY♥BOOK』 800部の配布</p> <p>①出雲市 妊娠の届け出時に妊婦へ(初産婦対象)</p> <p>②公開講座:「プレパパ・ママ講座」参加者</p> <p>③出雲市男女共同参画センター主催「パパのためのベビーマッサージ」参加者</p> <p>④関係諸機関</p> <p>3. 妊娠出産を10倍楽しくする 『HAPPY♥BOOK』 の評価</p> <p>①プレパパ・ママを対象にインタビュー</p> <p>4. 倫理的配慮</p> <p>講座の実施においては、冊子作成の趣旨、方法、メッセージや写真公開について、インタビューについては、メッセージの公開等について口頭により説明し、承諾を得た。</p>	
3. 結果	
<p>1. プレパパ・ママ講座の開催 2回実施</p> <p>平成27年6月21日の参加者内訳:赤ちゃん13名(生後2か月～6か月)、両親11組(22名)、母親のみ2名、プレパパ・ママ(4組=8名)であった。</p> <p>平成27年11月15日の参加者内訳:赤ちゃん8名(生後3か月～7か月)、両親6組(12名)、母親のみ2名、プレパパ・ママ(6組)=12名)であった。</p>	

<p>2. 妊娠出産を10倍楽しくする 『HAPPY♥BOOK』 の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレパパ・ママの反応として、先輩の経験談なので参考になる。 ・一緒に読むことで、夫婦の会話につながっている。 ・初めて親になる夫婦だけでなく、子育て中の夫婦にも参考になる。多くの人に読んで欲しい。 <p>3. 妊娠出産を10倍楽しくする 『HAPPY♥BOOK』 の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに読みやすくするための工夫を検討した。 ・改訂版 1,300部作成
<p>4. 研究成果の公表</p>
<p>1) 長島玲子、井上千晶、吉川憂子、岡本康子、森脇都多江：プレパパ・ママ講座の実施と子育てハンドブックの評価、平成27年度特別研究費研究成果報告会、しまね地域教育・共創研究助成金研究報告会、2015、3、出雲キャンパス。</p>
<p>5. 地域貢献の成果</p>
<p>1. プレパパ・ママ講座の開催</p> <p>本講座は、出雲市において「プレパパ・ママ講座」を実施し、先輩パパ・ママ及びプレパパ・ママの不安やニーズについて生の声を集積している。これらの声を活かし、子育て雑誌やネット情報では得がたい「身近でリアルな役立ち情報」を、これから親になる人たちに提供することができている。</p> <p>2. 子育てハンドブック：「HAPPY♥BOOK」</p> <p>「HAPPY♥BOOK」は、出雲市在住の先輩パパ・ママの妊娠・出産・子育てに関する体験やプレパパ・ママへのメッセージを掲載している。プレパパ・ママだけでなく現役パパ・ママにとっても、身近でリアルな役立ち情報として有効活用されると考える。</p>

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科 (出雲キャンパス) 助教 林 健司
研究テーマ	地域住民の健康増進活動を促進する温泉施設の活用と活性化に向けた取り組み～温泉地しまねの特性を活かして～

1. 研究目的								
島根県民にとって身近で、馴染み深い温泉施設を有効に活用することで、温泉施設の活性化、および、地域住民の健康増進活動を促進する。								
2. 方法								
1) 地域住民の健康活動促進：公開講座の実施 対象：A温泉とB温泉の温泉施設利用者 方法：A温泉とB温泉にて、健康に関する公開講座を実施する。公開講座の内容は健康ブースに関する講話（今回のテーマは骨粗鬆症、腰痛予防）および健康ブース（骨密度測定、下肢筋力測定等）を出展する。								
2) 温泉施設の活性化：温泉施設の休憩室に健康ブースを出展 対象：C温泉施設利用者 方法：回覧、健康施設内にポスターを掲示し事前告知を行った後、休憩室に健康ブースを出展する。健康ブースでは学生アルバイトによる健康チェック（血圧測定、体組成チェック等）や教員による健康相談を行う。								
3. 結果								
1) 健康講座と健康チェック 来場者 (定員制：事前申し込み)				2) 健康ブース 来場者 (事前申込不要)				
回数	日時	健康チェックメニュー	人数 (名)	回数	日時	健康チェックメニュー	立ち寄り者数 (名)	
第1回	5月9日 (土)	いきいき生活へのご提案 「骨粗しょう症と腰痛予防のお話」 ・下肢筋力測定 ・体組成測定	9	第1回	7月11日(土)	13:00～16:00	体組成測定／血圧測定	55
				第2回	7月25日(土)	13:00～16:00	下肢筋力測定／血圧測定	25
第2回	10月17日 (土)	いきいき生活へのご提案 「骨粗しょう症と腰痛予防のお話」 ・下肢筋力測定 ・体組成測定	16	第3回	8月8日(土)	13:00～16:00	血管年齢測定／血圧測定	18
				第4回	8月22日(土)	13:00～16:00	ストレス測定／血圧測定	26
				第5回	9月12日(土)	13:00～16:00	肩こり測定／血圧測定	43
				第6回	9月26日(土)	13:00～16:00	ロコモ度測定／血圧測定	22
人数			25	延べ人数			189	

4. 研究成果の公表
平成28年2月16日に開催された「地（知）の拠点整備事業」成果報告会にて、報告・公表を行った。
5. 地域貢献の成果
日帰り温泉施設の空きスペースを有効活用し、健康講座の開催や健康ブースを出展することで集客率の増加につながった。今回の活動において、地域住民の健康増進活動の場としての日帰り温泉施設の新たな可能性が示唆された。


申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科 (出雲キャンパス) 准教授 松本玄智江
研究テーマ	農医連携による限界集落の活性化に関する試み

1. 研究目的																																																	
休耕地を活用し、吉野地区住民との農作業体験・交流会を通して、限界集落である吉野地区の活性化を図ることを目的とする。また、地域住民の教育力を活用し、社会人基礎力の涵養並びに地域を志向する看護職の育成を目指す。																																																	
2. 方法																																																	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 農作業体験：休耕地に農作物の栽培を行う。地域住民の指導の下、現地での農作業を1回／2週間程度実施する。作物の植え付けから、管理、収穫までを体験する。 2. 交流会：農作業体験日の前夜、地域住民との交流会（夜話の会）を開催し、地域住民と学生の双方向からの情報発信を行い、ともに学びあう。 3. 吉野地区行事への参加 4. 冬季（11月～3月）のTV健康教室の開催 																																																	
3. 結果																																																	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 農作業体験&地区行事への参加 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日(曜日)</th> <th>農作業(参加人数)</th> <th>行事への参加(参加人数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4/26(日)</td> <td>防草シート張り・作付け(5)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6/6(土)</td> <td>収穫(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6/21(日)</td> <td>収穫(6)</td> <td>婦人会「押し寿司作り」(6)</td> </tr> <tr> <td>6/27(金)</td> <td></td> <td>ホテル観賞会(5)</td> </tr> <tr> <td>7/5(日)</td> <td>蒔取り(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7/25(土)</td> <td>蒔取り(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8/1(土)</td> <td>蒔取り(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8/21・22(金・土)</td> <td>蒔取り(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8/29・30(土・日)</td> <td>蒔取り、収穫(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9/20(日)</td> <td>蒔取り、収穫(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10/4(日)</td> <td>蒔取り、収穫(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10/18(日)</td> <td></td> <td>ビタミンの里手伝い 地区祭り参加(6)</td> </tr> <tr> <td>11/22(日)</td> <td></td> <td>感謝祭(5)</td> </tr> <tr> <td>1/10(日)</td> <td></td> <td>どんど祭(1)</td> </tr> <tr> <td>述べ参加数</td> <td>33名</td> <td>23名</td> </tr> </tbody> </table>	月日(曜日)	農作業(参加人数)	行事への参加(参加人数)	4/26(日)	防草シート張り・作付け(5)		6/6(土)	収穫(3)		6/21(日)	収穫(6)	婦人会「押し寿司作り」(6)	6/27(金)		ホテル観賞会(5)	7/5(日)	蒔取り(2)		7/25(土)	蒔取り(2)		8/1(土)	蒔取り(1)		8/21・22(金・土)	蒔取り(3)		8/29・30(土・日)	蒔取り、収穫(3)		9/20(日)	蒔取り、収穫(4)		10/4(日)	蒔取り、収穫(4)		10/18(日)		ビタミンの里手伝い 地区祭り参加(6)	11/22(日)		感謝祭(5)	1/10(日)		どんど祭(1)	述べ参加数	33名	23名	<ol style="list-style-type: none"> 2) 交流会「夜話の会」 <p>8月21日：「私の育ったところ(学生)」 8月29日：「将来の夢(学生)」</p>
月日(曜日)	農作業(参加人数)	行事への参加(参加人数)																																															
4/26(日)	防草シート張り・作付け(5)																																																
6/6(土)	収穫(3)																																																
6/21(日)	収穫(6)	婦人会「押し寿司作り」(6)																																															
6/27(金)		ホテル観賞会(5)																																															
7/5(日)	蒔取り(2)																																																
7/25(土)	蒔取り(2)																																																
8/1(土)	蒔取り(1)																																																
8/21・22(金・土)	蒔取り(3)																																																
8/29・30(土・日)	蒔取り、収穫(3)																																																
9/20(日)	蒔取り、収穫(4)																																																
10/4(日)	蒔取り、収穫(4)																																																
10/18(日)		ビタミンの里手伝い 地区祭り参加(6)																																															
11/22(日)		感謝祭(5)																																															
1/10(日)		どんど祭(1)																																															
述べ参加数	33名	23名																																															
	<ol style="list-style-type: none"> 3) TV健康教室 <table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>テーマ</th> <th>担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27 11月11日</td> <td>自律神経を整えよう!</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>12月9日</td> <td>薬のお話し</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>12月16日</td> <td>食事で体を温めよう!</td> <td>林</td> </tr> <tr> <td>H28 1月13日</td> <td>疲れた胃腸を整えよう!</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>1月27日</td> <td>お風呂大好き日本人～正しい入浴法～</td> <td>林</td> </tr> <tr> <td>2月10日</td> <td>季節を楽しむ 24 季節の話</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>2月24日</td> <td>地域再発見 知っている?島根のこんなこと!</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>3月9日</td> <td>香りを楽しむ</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>3月23日</td> <td>自分を知って人付き合いに活かそう</td> <td>井上</td> </tr> </tbody> </table>	日付	テーマ	担当者	H27 11月11日	自律神経を整えよう!	松本	12月9日	薬のお話し	松本	12月16日	食事で体を温めよう!	林	H28 1月13日	疲れた胃腸を整えよう!	松本	1月27日	お風呂大好き日本人～正しい入浴法～	林	2月10日	季節を楽しむ 24 季節の話	松本	2月24日	地域再発見 知っている?島根のこんなこと!	井上	3月9日	香りを楽しむ	松本	3月23日	自分を知って人付き合いに活かそう	井上																		
日付	テーマ	担当者																																															
H27 11月11日	自律神経を整えよう!	松本																																															
12月9日	薬のお話し	松本																																															
12月16日	食事で体を温めよう!	林																																															
H28 1月13日	疲れた胃腸を整えよう!	松本																																															
1月27日	お風呂大好き日本人～正しい入浴法～	林																																															
2月10日	季節を楽しむ 24 季節の話	松本																																															
2月24日	地域再発見 知っている?島根のこんなこと!	井上																																															
3月9日	香りを楽しむ	松本																																															
3月23日	自分を知って人付き合いに活かそう	井上																																															
4. 研究成果の公表																																																	
1) 平成28年3月15日 学内の研究成果発表会でポスター発表																																																	

5. 地域貢献の成果

- 1) 平成26年から継続した活動を通して、地区の有志と学生で復活させた「とんど祭」が今年度より自治会の行事として復活したことは取り組みの成果であると考ええる。
- 2) 学生とともに当該地区に入り、地区の活性化に向けた活動を継続してきたと感じていたが、地区の住民にとっては「一部の住民の活動」という意識がなかなか払拭できなかった。1) に述べたように「行事の復活」は成果の一つであるが、本当の意味での地区の活性化について、本音のところで住民との話し合いがもっと必要であると考ええる。
- 3) 参加した学生にとって、地域住民の方々と農作業や行事を通しての交流は、「地域の特性と課題を探求する能力の育成」の学びに影響を与えた活動となっていた。

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科 (出雲キャンパス) 准教授 松本亥智江
研究テーマ	ライブオン健康教室開催による地域住民の自主活動支援の可能性

1. 研究目的																																																									
知夫村における健康課題を明確化するとともに、ライブオンシステムを活用した「健康教室」を開催し、地域住民の自主活動の支援を行う。																																																									
2. 方法																																																									
1) ライブオン環境を整え、ライブオンによる健康教室の開催。 2) 地域住民の健康調査 (3月)																																																									
3. 結果																																																									
1) ライブオンによる健康教室	<p>＜教室のプログラム (60分)＞</p> <p>25分 リアリティオリエンテーション 参加者の体調確認 歌、ストレッチ、ラジオ体操第1</p> <p>5分 休憩</p> <p>5分 ロコモ体操</p> <p>25分 コグニサイズトレーニング</p>																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月16日</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>12月21日</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>1月25日</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>2月22日</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>3月14日</td> <td>8名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※知夫村役場保健師と連携して実施</p>	月日	参加人数	11月16日	7名	12月21日	6名	1月25日	5名	2月22日	9名	3月14日	8名	 <p>〈大学の様子〉</p> <p>〈参加者の様子〉</p>																																												
月日	参加人数																																																								
11月16日	7名																																																								
12月21日	6名																																																								
1月25日	5名																																																								
2月22日	9名																																																								
3月14日	8名																																																								
2) 地域住民の健康調査	<p>12月に予定していたが天候不良により、フェリーが欠航したため3月に調査を実施した。</p> <p>実施日：3月21日</p> <p>対象者：65歳以上で希望する方 参加人数：32名 (男性11名、女性21名)</p> <p>実施内容：認知機能検査 (HDS-R、FAB、MMSE)</p> <p>体格測定 (身長・腹囲・体組成)、血圧</p> <p>体力測定 (握力、Timed Up & Go、ファンクショナルリーチ、長座位体前屈、開眼片足立ち時間)</p>																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">血圧(mmHg)</th> <th colspan="2">握力(Kg)</th> <th colspan="4">体力測定</th> </tr> <tr> <th>収縮期</th> <th>拡張期</th> <th>右</th> <th>左</th> <th>TUG(秒)</th> <th>長座位体前屈</th> <th>FRT(cm)</th> <th>片足立ち(秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">男性 n=11</td> <td>平均</td> <td>139.82</td> <td>78.82</td> <td>34.25</td> <td>36.15</td> <td>6.53</td> <td>35.41</td> <td>32.32</td> <td>55.12</td> </tr> <tr> <td>標準偏差</td> <td>9.94</td> <td>4.79</td> <td>8.19</td> <td>6.08</td> <td>1.10</td> <td>8.76</td> <td>4.79</td> <td>50.90</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">女性 n=21</td> <td>平均</td> <td>141.71</td> <td>78.00</td> <td>23.78</td> <td>22.44</td> <td>6.44</td> <td>39.86</td> <td>30.16</td> <td>54.57</td> </tr> <tr> <td>標準偏差</td> <td>12.46</td> <td>7.85</td> <td>5.77</td> <td>5.99</td> <td>1.09</td> <td>8.57</td> <td>7.08</td> <td>47.72</td> </tr> </tbody> </table>			血圧(mmHg)		握力(Kg)		体力測定				収縮期	拡張期	右	左	TUG(秒)	長座位体前屈	FRT(cm)	片足立ち(秒)	男性 n=11	平均	139.82	78.82	34.25	36.15	6.53	35.41	32.32	55.12	標準偏差	9.94	4.79	8.19	6.08	1.10	8.76	4.79	50.90	女性 n=21	平均	141.71	78.00	23.78	22.44	6.44	39.86	30.16	54.57	標準偏差	12.46	7.85	5.77	5.99	1.09	8.57	7.08	47.72
				血圧(mmHg)		握力(Kg)		体力測定																																																	
		収縮期	拡張期	右	左	TUG(秒)	長座位体前屈	FRT(cm)	片足立ち(秒)																																																
男性 n=11	平均	139.82	78.82	34.25	36.15	6.53	35.41	32.32	55.12																																																
	標準偏差	9.94	4.79	8.19	6.08	1.10	8.76	4.79	50.90																																																
女性 n=21	平均	141.71	78.00	23.78	22.44	6.44	39.86	30.16	54.57																																																
	標準偏差	12.46	7.85	5.77	5.99	1.09	8.57	7.08	47.72																																																

		認知機能		
		FAB(18)	HDS-R(30)	MMSE(30)
男性 n=11	平均	15.73	27.18	27.27
	標準偏差	2.20	2.86	2.00
女性 n=21	平均	17.90	28.00	27.67
	標準偏差	2.47	2.14	2.39

<平均年齢>

男性：73.09±9.94歳（67歳～85歳）

女性：72.95±8.07歳（60歳～92歳）

		体格測定														
		身長(cm)	腕囲(cm)	体重(Kg)	体脂肪率(%)	脂肪量(Kg)	除脂肪量(Kg)	筋肉量(Kg)	体水分量(Kg)	推定骨量(Kg)	基礎代謝率	体内年齢(才)	内臓脂肪レベル	脚点(点)	BMI	肥満度(%)
男性 n=11	平均	162.89	89.86	66.20	26.36	17.45	48.75	46.19	30.05	2.55	1328.55	58.27	15.55	76.00	24.76	12.88
	標準偏差	7.98	5.23	9.36	5.77	4.47	7.65	7.26	4.48	0.39	201.45	10.37	2.88	5.87	1.80	8.22
女性 n=21	平均	152.71	85.83	53.25	31.97	17.21	36.06	34.09	22.94	1.97	1036.10	54.33	7.71	79.57	22.84	3.83
	標準偏差	6.42	7.68	7.31	5.36	4.46	4.50	4.20	2.98	0.31	121.17	8.48	2.78	6.79	2.75	12.53

4. 研究成果の公表

1) 平成28年3月15日 学内の研究成果発表会でポスター発表

5. 地域貢献の成果

- 1) 65才以上の高齢者の介護予防活動の一つ「お達者教室」として、約9年間、年3回程度、1回2地区で行って来たが、ライブオンでの健康教室は、月1回の頻度で開催する事ができ、継続的な運動習慣の一助になっていると思われる。しかし、現在は知夫村役場1会場であるので、より参加しやすい地区の集会所での開催を検討することで、介護予防に向けての自主活動支援につながると考える。
- 2) 検診の結果はまだ詳細な検討が終わっていないが、男性において認知機能のFAB（前頭葉機能）の得点が低いこと、体格測定の内臓脂肪レベルが高いことが明らかとなった。男女とも比較的運動機能は保たれていた。今後詳細な検討を加え、結果報告会を行い、介護予防啓発活動としていくことが必要である。また、「認知機能検査」を受けることに抵抗感や不安感を感じる事が、受診者が少ない要因として類似の検診でも指摘されていることである。今回の検診受診者も32名と少なかったため、より多くの方に受診していただく関わりが必要である。

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科（出雲キャンパス）教授 山下一也
研究テーマ	出雲市駅前サテライトキャンパス開設プロジェクト

1. 研究目的
<p>空洞化の激しい出雲市駅前の再生を目指す試みがいくつか行われているが、未だ十分でない。また、出雲市の健康のまちづくり推進会議での課題は生活習慣病、がん対策などの健康課題に対して、一般市民への啓発活動をさらに進めていく必要がある（出雲市健康増進計画より）。</p>
2. 方法
<p>政府の教育再生実行会議（座長＝鎌田薫・早稲田大総長）は、大学を若者だけでなく、社会人など多様な主体が学ぶ場に変えるよう促す提言をまとめた。われわれは、昨年度、出雲市の扇町商店街あーけーど市に合わせて、公開講座「扇町健康大学」を開設、計6回の公開講座を実施し、非常に好評であった。</p> <p>島根県立大学出雲キャンパスは出雲市中心部から離れた北東部の川跡地区に有り、看護学部の単科大学で有り、看護の指定規則の中のカリキュラム運営では、現キャンパスでこのような提言には応えにくいのが実情である。</p> <p>そこで、出雲市駅前に島根県立大学出雲キャンパスのサテライトキャンパスを平成27年10月に開設し、「いずも健康市民大学」「いきかたカフェ（既に他所にて開催中）」などを運営しようという試みである。</p> <p>大学と地域の連携を一層推進するため、サテライトキャンパスを開設することにより、まちなかの活性化、市民の健康づくりへの関心への高まりなど、多くの効果が生まれると考えられる。</p> <p>なお本事業は、平成28年度からは島根県立大学出雲キャンパス支援ネットワークからの全面的なサポートを受けて本格的実施をする予定である。</p>

<p>3. 結果</p> <p>平成27年10月1日 オープニング式典開催</p> <p>10:00-10:05 「オロリン体操第1」の発表(本学学生、教職員)</p> <p>10:05-10:10 テープカット</p> <p>10:15-10:20 挨拶(島根県立大学 本田雄一理事長)</p> <p>10:20-10:25 祝辞(出雲市長 長岡秀人氏)</p> <p>10:25-10:40 サテライトキャンパス紹介(山下一也副学長)</p> <p>平成27年度の開講講座は以下の2つであった。</p> <p>1. 健康づくり講座(食をテーマに2講座開催)</p> <p>2. いきかたカフェ(生と死を考えるカフェ形式のつどい)</p> <p>いずも健康市民大学については、外部の方も含めた実施のための運営委員会を設置し、平成28年度の内容について審議し、プログラムを作成した。</p>
<p>4. 研究成果の公表</p> <p>サテライトキャンパスでの論語教室の意義などについて、山陰中央新報の平成28年2月28日の談論風発において公表した。</p>
<p>5. 地域貢献の成果</p> <p>平成28年度より本格的にいずも健康市民大学を開設し、さらに、論語教室も開講する予定であり、円滑な運営を行っていく必要がある。</p>

申請者	島根県立大学短期大学部 総合文化学科（松江キャンパス）教授 岩田英作
研究テーマ	「読みメン」の実態調査～男性の育児参加の向上をめざして～

1. 研究目的	
<p>島根県では、第3次子ども読書活動推進計画（平成26～30年度）に「読みメンプロジェクト」を盛り込み、男性による絵本の読み聞かせを進めている。全国でも女性の就業率が最も高い島根県では、男性の育児参加は喫緊の課題である。「読みメンは育メンの第一歩」として、県は平成26年より「父の日」のある6月を「読みメン月間」として策定し、県内の公立図書館38館で「お父さんにおすすめ絵本」の展示を行うなど啓発に力を入れている。島根発のこの取組は徐々に広がりを見せ、現時点で鳥取県（県立図書館）、大阪府（府教委）が「読みメン」の連携を表明している。申請者も当初からこの取組にかかわり、おはなしレストランライブラリーを拠点に、「読みメン手帳」を配布するなどの活動を行っている。しかしながら、「読みメン」の認知度は県内においてもまだまだ低く、「読みメン手帳」の配布や図書館での父親向けの展示・講演などが、どの程度の効果を上げているか未知数である。そこで本研究ではアンケートや聞き取り調査などを通じて、父親の読み聞かせについて実態を明らかにし、「読みメン」の普及と男性の育児参加の向上に活かしたい。</p>	
2. 方法	
<p>本研究は、①県内全域を対象としたアンケート調査、②おはなしレストランライブラリーを拠点とした父親の読み聞かせの実態調査の2点から行う予定である。①②の開始時期は「読みメン月間」の6月からとする。</p> <p>①県内全域を対象としたアンケート調査について</p> <p>県内の公立38図書館及びおはなしレストランライブラリーを通じてアンケートを実施し、各地域の家庭において読み聞かせがどのように行われているかを調査する。</p> <p>その際、「読みメン手帳」「お父さんにおすすめ絵本」（おはなしレストラン作成）も配布する。</p> <p>②おはなしレストランライブラリーを拠点とした父親の読み聞かせの実態調査について</p> <p>おはなしレストランライブラリーの利用者に「読みメン手帳」「お父さんにおすすめ絵本」を配布すると共に、10組程度の親子連れに協力してもらい、特に父親の読み聞かせの実態について、一定の期間にわたって聞き取り調査を行う。</p> <p>その際、「お父さんにおすすめ絵本」をもとに被調査者をはじめとした親子連れに絵本を提供（貸出）する。</p>	

<p>3. 結果</p>
<p>①県内全域を対象としたアンケート調査について</p> <p>鳥根県内の公共図書館24館で合計305枚のアンケートを回収した。</p> <p>松江市内の保育所・幼稚園・幼保園94園で4022枚のアンケートを回収した。</p> <p>それぞれについて集計し、各質問項目ごとにグラフ化した。</p> <p>②おはなしレストランライブラリーを拠点とした父親の読み聞かせの実態調査について</p> <p>おはなしレストランライブラリーを比較的良好に利用するお父さん7名に「お父さんにおすすめ絵本」を貸出し、家庭において読み聞かせをしてもらった。その効果や、絵本や読み聞かせ、子育てに関する思い・考えを対面式で聴取した。</p>
<p>4. 研究成果の公表</p>
<p>平成28年度の松江キャンパス紀要、COC紀要に結果を公表する予定である。</p> <p>申請者が委員を務める鳥根県の「しまね子ども読書推進会議」（平成27年3月）で、読み聞かせに関するアンケートの一部を公表した。</p>
<p>5. 地域貢献の成果</p>
<p>アンケート結果によると、子どもに読み聞かせを行っているのは母が5割、次いで父が3割となった。母と父が5：3の割合で読み聞かせをしており、父親が比較的に読み聞かせをしている実態が浮き彫りとなった。従来の、「絵本を読むのはお母さんの役割」という認識は崩れつつあるように見える。とはいえ鳥根県発「読みメン」の取組の認知度はまだまだ低く、今後の課題である。</p>

申請者	島根県立大学短期大学部 健康栄養学科（松江キャンパス）准教授 籠橋有紀子
研究テーマ	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討

1. 研究目的	
<p>食肉は、種類や部位により需要が異なる。例えば牛肉では、枝肉全体からみて、用途の少ない部位のより良い調理加工方法が求められている。これまでに、食肉の中でも島根県産の牛肉のテクスチャーについて、その特性およびそれに影響する構造を分析し、基礎データとして集積している。本研究では、用途の少なく積極的な活用が求められている、牛肉その他の食肉に着目し、加熱損失・保水性・水分含量・破断応力という客観的指標からデータを収集・解析した。本年度は、積極的な活用が求められている島根県内のジビエを用い、健康栄養学科籠橋研究室における卒業研究の学生らによる学びの成果物として、研究成果を利用した調理加工方法の検討も合わせて行った。</p>	
2. 方法	
<p>島根県畜産技術センター等にて肥育されたしまね和牛および市販のロース、もも肉、松江市八雲猪肉生産組合で解体された猪肉を用い、本学にて加熱前後に化学的もしくは物理的な処理を行い、家畜改良センター技術マニュアルに基づき官能評価および理化学分析を行い比較した。</p> <p>○官能評価：地域住民を対象とした嗜好型官能評価を行った。</p> <p>○理化学分析：テンシプレッサーおよびデジタル粘度計（購入備品）による物性測定、水分含量の測定を行った。また保水性については、遠心分離法を用い、同部位の比較検討を行った。</p>	
3. 結果	
<p>破断応力の測定により、猪肉ももは、牛肉ももと比較して、やわらかい、噛みきりやすいことが示唆された。さらに、保水性が高い可能性があることが示唆された。また、ペースト状の食肉加工品を作成し、その温度ごとの粘度を測定した。その結果、温度帯により粘度の違いが大きく、口どけや舌触り、なめらかさが異なることが示唆された。</p> <p>また、本年度は、学生の主体的な活動として大学主催のキラキラドリームプロジェクトとのコラボレーションにより、調理加工品としてガンボスープの提案を行った。</p>	

客観的指標からデータを収集・解析した結果、猪肉は、保水性が高く、加熱後もやわらかい食感であることが示唆されたため、この研究成果を利用し、猪肉の特性を活かしたガンボスープ（小泉八雲が愛したニューオリンズのソウルフード）を、小泉凡教授のご協力のもと作成した。学内試食会での味も好評であり、食の機能性と文化の融合による鳥根県立大学のオリジナリティあふれる調理加工品の提案となった。姉妹都市であるニューオリンズの種を松江市内の小学校で栽培しているため、そのオクラ（ガンボ）と猪肉を使い、給食での活用を提案した。平成28年3月15日に松江市でのお披露目会（試食会）を行い、学校給食でのメニュー化をPRし、新聞やニュースで取り上げられた。

4. 研究成果の公表

鳥根県立大学短期大学部「地（知）の拠点整備事業」平成27年度研究連携協議会にて、ポスター発表「タイトル:食肉の特性を生かした調理加工方法の検討」を行った。

5. 地域貢献の成果

全国的に鳥獣対策の重要性が増す中、鳥根県もその例外ではなく、鳥根県西部のみならず東部での対策が必要となっている。この課題解決策として、猪肉の有効活用を松江ゆかりの小泉八雲の愛したガンボスープに利用することで、美味しく、機能性も高い調理加工食品を提案できたことは、大きな地域貢献につながると考える。

申請者	島根県立大学短期大学部 総合文化学科（松江キャンパス）教授 小玉容子
研究テーマ	小学校での「英語読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における英語多読の導入の方法および効果

1. 研究目的	
<p>小学校での英語学習の教科化が進められている中、大学がどのように地域の英語教育に貢献できるかを探るため、第一段階として、小学校では「英語絵本の読み聞かせ」を実施し、中学校では「英語多読」を紹介する。これらの活動を通して、小学校英語学習と中学校英語学習の連携方法の一つとして、同じ教材を用いての、小学生の受動的な「英語を聞く」から中学生の能動的「英語を読む」への連携の可能性を提案したい。</p>	
2. 方法	
<p>①島根県立大学短期大学部総合文化学科専門科目「キッズ・イングリッシュ」受講生15名が、松江市立乃木小学校の「朝の読み聞かせ」の時間に英語絵本の読み聞かせを実施。5年生を対象に、それぞれのクラスで3回実施した。①小学生が楽しんで聞くことができるか。②読み聞かせを通して、小学生の英語学習に対する意欲・関心が高まるか。③読み聞かせを通して、小学生の異文化に対する関心が高まるかなどを明らかにするためにアンケートを実施し、児童の回答を集計、分析した。</p> <p>②松江市立湖南中学校3年生5クラスを対象に、多読本と多読の方法などを紹介し、実際に読書を体験してもらった。①英語多読本を楽しんで、積極的に読む姿勢が育まれるか。②多読本読書活動で、中学生の英語学習に対する意欲や関心に変化が生まれるか。③多読本読書活動で、中学生の異文化に対する関心に変化が生まれるかなどを明らかにするために、アンケートを実施し、中学生の回答を集計、分析した。</p>	
3. 結果	
<p>①小学校での英語絵本の読み聞かせ終了後のアンケート結果：</p> <p>(1) 「英語が好きか」の問いに、「3分の2 (102/154)」が「好き」と回答したが、「3分の1 (52)」が「好きではない」の回答だった。この数字は、文科省調査とほぼ同じだが、読み聞かせを楽しんでいる雰囲気からの予想より「好きではない」が多かった。</p> <p>(2) (1)の回答の割合に関わらず、英語絵本の読み聞かせは「(大変)楽しかった(146)」の回答が圧倒的に多かった。また、読み聞かせの継続を望む声も、(140)と非常に多かった。「読み聞かせの経験」のある児童は3分の1程度であり、児童にとって「読み聞かせ」は新鮮な経験であることが分かる。</p> <p>「絵本の読み聞かせ」を通して英語に触れることは、児童の英語に対する関心を高めるのに有効であると考えます。</p>	

(3) 外国への関心は、(1)の「英語が好きか」の回答比率とほぼ同じであった。また、絵本を通して外国の文化に触れることに関しても、ほぼ同じ回答比率であった。読み聞かせの継続により、この比率がプラス方向へ変わっていくことを期待する。

②中学校での英語多読紹介と多読体験終了後のアンケート結果：

(1) 「英語が好き」との回答は3分の2を超えており、予想より多かった。しかし、「大好き（26人）」の回答数と比べ、「好き（51人）」の回答数の割合が高く、読書を通して、消極的な好きの数をもっと減らすことができたらと考える。

(2) 同じ傾向が、「英語絵本の読書が楽しいか」の間についても見られる。全体に、少し楽しい、少し関心がある、少しそう思う、の回答数が多く、積極的に英語や異文化に触れる姿勢を、英語絵本を数多く読むことで育てられるのではないかと考える。

(3) 多読に関しては、多少の関心はあるが、活動への参加は希望しない、という結果だった。受験を控えた3年生を対象としたことがこの結果の理由でもあったと考える。

4. 研究成果の公表

小学校での実践およびアンケート結果等については、『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』第54号で報告している。中学校での実践に関しては、島根県立大学短期大学部「地（知）の拠点整備事業」成果報告・協議のための「研究連携協議会」（平成28年3月4日 島根県立大学短期大学部体育館1F研修室）で、ポスター発表を行った。

5. 地域貢献の成果

平成28年度も小学校での「英語絵本の読み聞かせ」、および中学校での「英語多読」紹介と実践を継続実施することとなった。今後、より有効な方法などを探るため、それぞれの教育現場との協議をもとに、計画を立てて実施していく。

連携校での実施が軌道に乗れば、県内の小学校や中学校での実施に向けての協議や協力なども行っていく。

申請者	島根県立大学短期大学部 総合文化学科（松江キャンパス）教授 松浦雄二
研究テーマ	『出雲国風土記』の英訳研究

1. 研究目的	
<p>平成23年度より平成25年度までの3年間にわたって行われた、出雲神話翻訳研究会での『古事記』出雲神話翻訳による地域貢献研究活動、さらにCOC助成による平成26年度の「『出雲の国風土記』の英訳研究」の活動を継続し、『古事記』と『出雲国風土記』において相補的に構成される「出雲神話」の英訳と注釈の充実を目指しながら、出雲神話翻訳研究の成果であるホームページに随時公開していく。</p>	
2. 方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 「研究目的」で述べた趣旨を踏まえ、さらに広い成果公開のための「出雲神話翻訳研究会」ウェブサイト充実させていく。インターネットによって継続的に、出雲を中心とする山陰の文化を広め地域振興の一助とするという目標に向かうべく、荒神谷博物館館長・NPO法人出雲学研究所理事長藤岡大拙氏と継続して連携して翻訳研究を重ねていき、藤岡氏の本学における公開講座「出雲神話翻訳研究会」（平成23～25年度）、「風土記の語る神話」（平成26、27年度）を踏まえ、『古事記』と『風土記』の出雲神話にまつわる箇所を英訳する。 ・ 英訳にあたっては、藤岡氏の、地域に住む者だから伝えられる、物語の背景の風景心情が打ち出された解釈を訳に反映させることを目標とするが、解釈を本文の文言に直接的に訳出できない場合は、注釈として出す。 ・ 英語は、高校1～2年生ぐらいの水準の英語を目指し、多くの若い人に利用してもらえるものにする。 ・ 『古事記』『出雲国風土記』ならびにそれらの英訳に関連する最新の研究も盛り込むために、随時担当者研究会を開く。 	
3. 結果	
<p>今年度は、平成27年度松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」の「風土記の語る神話」（担当：NPO法人出雲学研究所理事長 藤岡大拙氏、計5回）の開講と、非公開による研究会により遂行した。英語訳に関する研究会は松江キャンパス総合文化学科の松浦雄二教授が進行役をつとめ、藤岡氏の講演内容について、山村桃子講師からは日本古代文学の専門家の立場からの語学的内容的な補足的説明を得、英語訳については、ラングクリス准教授とキッドダスティン講師がネイティブ・スピーカーの立場あるいは「外国人旅行者」を想定した立場から随時助言を行いながら、英訳の精度を高め、注釈の内容を工夫する作業をしている。英語訳は、作業の進行に合わせて、翻訳成果を順次デジタル化し、平成24年度末に立ち上げたウェブサイト「出雲神話翻訳研究会～出雲人が語る出雲神話～」を随時更新していき、次年度以降も適宜更新していく予定である。</p>	

2015年4月～	適宜Webサイト「出雲神話翻訳研究会～出雲人が語る出雲神話～」修正加筆・調整（立ち上げ2013年3月29日）
2015年6月～9月	NPO法人出雲学研究所理事長 藤岡大拙氏による公開講座「風土記の語る神話」計5回
2015年7月～10月	公開講座「風土記の語る神話」テープ起こし
2015年11月～	学内担当者各自で起こされたテープの内容を確認・研究・訳出作業、年度末の研究会に向けて課題・問題を検討。
2015年12月	松浦が連携会議に参加、島根県観光振興課、島根県古代文化センターとの連携の可能性について示唆を受ける。
2016年1月～3月	学内担当者による研究会、県観光振興課で外国人旅行者の嗜好や動向について研修、WEBサイトの次年度メンテナンス・更新について業者と連絡調整
2016年3月より	継続的に翻訳研究、英訳文推敲Webサイト更新
	<p>連携会議に出席後、年が明けての研究会においては、外国人の興味を引きそうな県内の観光地について意見を出してもらい、神話に関連の有無を問わず、外国人旅行者にアピールする県内観光地あるいは行事を一覧にした。また、女性旅行者・女性旅行者にアピールする『古事記』『出雲国風土記』の中の「地域」とエピソードを挙げ、一覧にした。これらの一覧を携えて県観光振興課に出向き、島根の観光の実際についてうかがったことは、(外国)旅行者の動向の背後に改めて文化の多様性があることを再認識する機会となり、今後も現在の研究会ウェブサイトが観光振興にも一助となれるよう協働していきたい旨確認した。さらに一方で、次年度に向け、古代文化センターとの協働の道も模索していく所存である。</p>
4. 研究成果の公表	
研究成果の公開は、WEBサイト「出雲神話翻訳研究会～出雲人が語る出雲神話～」(http://izumo-kojiki.com/)で行い、随時更新していく。	
5. 地域貢献の成果	
<p>島根県の地域振興に観光が欠かせないことは言うまでもないが、その観光について、本プロジェクトの地域協力者藤岡大拙氏は、「観光マインドとは、地元の観光資源を自信と誇りをもって、来訪者にすすめる積極的な心である」と述べ、ややもすると「控え目」に自己を過小評価する「出雲人氣質」をよく把握することが、観光を推し進めるうえでも肝要であると説く（藤岡大拙『出雲人』）。一方で、氏はまた、風土記の国引き神話は、出雲人の自負と誇りが背景になっていることを力説する（公開講座より）。出雲神話英訳をインターネットで公開することは、観光地としての出雲・山陰の魅力をグローバルな規模で広く世にアピールすると同時に、上のような神話の背景となる精神に触れることによって、現代の出雲地方あるいは山陰に生きる人々をも励ますという、大きな意義がある。</p>	

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）教授 川中淳子
研究テーマ	地域資源を活かした島根県立大学教職課程履修者の学びの深化と発展

1. 研究目的
本研究の目的は、地域資源の一つである島根県立少年自然の家（以下、自然の家）を活用した本学教職課程の学びの発展と深化の検討である。
2. 方法
<p>平成27年11月28日（土）～29日（日）に島根県立少年自然の家で、教職合宿を実施した。実施の目的は、教職課程学生の親睦を深め、学生達が互いに学べる素地を作り、さらに公立学校教員でいらっしゃる自然の家のスタッフの先生方に指導を頂きながら学生の学びを深めることであった。そのために、本合宿では、学生達が寝食を共にし、親睦を深めるための多くの体験活動を行い、教職課程の学習として模擬授業を実施した。</p> <p>参加者は、教職課程2年生12名、3年生8名、4年生1名、教職課程履修者ではないが教職科目のうちの一つの教育心理学を履修している3年生1名、合計22名であった。合宿後に生徒指導論受講生及び教育心理学受講生に実施したアンケートを実施した。</p>
3. 結果
<p>20名のアンケートを回収することができた。</p> <p>「もっとも印象に残っている活動」を問う質問項目（複数回答可）への回答として、模擬授業と答えたものが、20名中16名であった。他方、親睦を深めるための体験活動を答えたものは20名中5名であった。昨今、学生達の勉学意欲を疑問視する声もあるが、「学び」を求める者は決して少なくないことが明らかになった。</p> <p>「本合宿により教職課程での学習意欲が湧いたか」との問いに対しては、「とてもそう思う」と「そう思う」が20名中16名であった。日常とは異なる環境、特に仲間同士が切磋琢磨することは、意欲の向上につながると考えられた。</p> <p>自由に記述できる回答欄からは、学外専門家の指導による学びは大きいことや、学生間の交流や協力、上級生の勉学への姿勢を見ることは、勉学への動機づけとなることが示唆された。本活動は学生達にとって有益なものであったといえる。</p>

4. 研究成果の公表

島根県立大学COC事業「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」第3回全域フォーラム ポスター発表

日程：平成28年2月16日（火）

於：島根県立大学浜田キャンパス講義・研究棟

5. 地域貢献の成果

これまで本大学教職課程では、地域資源を活用した教育についての視点が十分ではなかった。島根県立少年自然の家のような施設の活用に開学以来気づかなかった。しかし、本大学教職員が全ての地域資源を把握することは困難である。地域の方々からのアピールも大いに期待したいところである。

今後も、島根県の大学外教育機関や地域方々の力借りながら、本学の教育をさらに発展させていきたい。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）教授 林 秀司
研究テーマ	島根県石見地方における雇用問題に関する基礎的研究

1. 研究目的
<p>島根県は人口減少が進行しており、とくに進学・就職を機に地域外に転出していく若者も少なくない。一方、中小企業は人材確保に困難をかかえていることもまた事実である。そこには、企業の求人と求職者の求職行動とのマッチングに課題があることも予想される。こうした課題を解消し、人材の地域内定着を促進する必要がある。そこで、島根県、とくに、石見地方の企業の人材確保の実態と若者の就業意識について明らかにすることを試みる。</p>
2. 方法
<p>この研究は、申請者が担当する総合演習（2年生）の教育を兼ねて行った。また、研究に着手するにあたって、9月連携会議（平成26年9月30日開催）において地域ニーズを提案された公益財団法人しまね産業振興財団石見事務所との意見交換を行った（5月13日）。また、浜田公共職業安定所での情報収集を行った（6月3日）。具体的な方法はつぎのとおりであった。</p> <p>①公共職業安定所（ハローワーク）の求人情報を分析する ハローワークインターネットサービスの求人情報の11月23日時点の学生に対する求人情報のうち、就業場所が石見地方9市町のものについて分析を試みた。</p> <p>②若者の仕事観などに関する既存の調査結果を分析する</p> <p>③島根県立大学総合政策学部学生に対する意識調査を実施する おもに3年生が受講する「キャリア形成Ⅱ」の授業を利用し、就職観、希望する就職先、石見地方の中小企業についての認識について、質問紙を用いたアンケート調査を行った。</p> <p>④島根県石見地方の企業に対して雇用に関する聞き取り調査を行う 石見地方に所在する5事業所について、聞き取り調査を行った。</p>

3. 結果

ハローワークインターネットサービスの求人情報の分析から、石見地方を就業場所とする学生の求人の状況は、①地元地域からの求人が多い、②中小企業の求人が多い、③福祉関連の業種・職種の求人が多い、④賃金水準は大都市より低いといったことが明らかになった。また、石見地方の所在する5事業所への聞き取り調査の結果、石見地方の事業所では、①地元採用が多い、②多様な人材を求めている、③定着のためのくふうがみられるといったことが明らかになった。

一方、島根県立大学総合政策学部学生への意識調査の結果から、①石見地方の企業を知らない者が多いものの(80.8%)、知りたいと思う者も一定程度いる(51.4%)。②勤務場所を希望する理由は「地元」と答える者が多いが(71.3%)、石見地方の出身者に限るとその割合は低下する(54.5%)。③石見地方で働こうと思えるための条件としては「交通機関や商業施設、娯楽施設があれば」(34.1%)、「希望する業種があれば」(25.9%)が多かった。④企業を選ぶときに重視することとして、「安定性」「福祉厚生」が重要視されていた。そもそも、石見地方での就職を希望する学生は少ないことが明らかになった(6.5%)。

4. 研究成果の公表

「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」第3回全域フォーラムSESSION⑧「人材育成」(平成28年2月16日(火)、於島根県立大学浜田キャンパス中講義室5)において口頭発表を行った。

5. 地域貢献の成果

島根県立大学総合政策学部の学生で、石見地方での就職を希望する学生は少なかった(6.5%)。その理由のひとつには地域外から入学してきた学生が多いことにある。学生の多くが勤務場所を希望する理由として「地元」をあげているので(71.3%)、このことが影響している。一方、石見地方出身の学生で「地元」を理由に石見地方での勤務を希望する割合は、やや減じる(54.5%)。地元出身の学生でも石見地方で就職することへの「ためらい」があるように思われる。そのことには、彼らが地元企業を知らないことが影響している可能性がある。学生の大企業志向は必ずしも強くないので、石見地方の企業についての魅力発信は有効であることが示唆される。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）准教授 林裕明
研究テーマ	島根県における地域課題と国際化の現状について

1. 研究目的
<p>本研究では、「島根県における地域課題と国際化の現状について」という共通テーマのもと、申請者が担当する総合演習の参加者（12名）が4人ずつ3つのグループに分かれて、自由にテーマを設定し、調査・研究を実施する。島根県における国際化の現状を明らかにするとともに、国際化が地域課題の解決にどのような影響を与えているのかを探ることが目的である。</p>
2. 方法
<p>春学期において、各グループはそれぞれの関心にもとづきテーマを設定し、まず文献資料およびインターネット等を用いて情報収集し、演習時に中間報告をおこなった。文献等では不足する情報がある場合は現地調査（島根県庁の文化国際課および産業振興課等を訪問、佐野神楽社中の方から聞き取り）や電話等での聞き取り調査をおこない、関係者から話を聞いた。調査結果を分析し、7月2日の学生研究発表会にてプレゼンテーションをおこない、研究成果を公表した。加えて、秋学期には、グループワークでのテーマを発展させる形で、卒業研究の準備となる個人研究を実施した。演習の場で、テーマ設定、先行研究の整理、分析手法の検討、準備報告を経て、京都大学および岐阜大学と合同で実施した12月26日－27日の合同研究会（於京都大学）にてゼミ生が研究成果を個別に公表した。</p>

3. 結果

春学期におけるグループワークでは、①「島根県における伝統芸能の海外輸出について」、②「外国人労働者の流入による地域活性化の現状と課題」、③「島根県における貿易の現状と課題－大根島の牡丹輸出を中心に－」という3つの研究テーマが生まれた。①では、島根県の伝統芸能の代表ともいえる石見神楽を取り上げ、他の主要な神楽と比較して、早期からかつ頻繁に海外公演をおこなうことができた背景を探っている。石見神楽の調子、社中間の協力体制、歴史的背景をもとに説明した。②では、島根県には中国（浜田）やブラジル（出雲）出身の外国人労働者が多く、技能実習生として来る人も多いこと、短期的な労働力としては有効だが、長期の労働力・スキル形成という意味では非効率であり、質的な意味での地域活性化にはつながっていないことが示された。③では、牡丹輸出を中心に島根県の貿易の特徴を探り、地域活性化に果たす影響を考察した。島根県の貿易において県庁をはじめとする多くの関係組織（売り手、買い手、支援組織によるトロイカ体制）が重要な役割を果たしていること、金額的には大きくないが、牡丹輸出は島根県の地域活性化に一定の影響を与えていることを明らかにした。秋学期には、他大学とは異なる独自の研究テーマにもとづいて卒業論文作成のための準備報告をおこなうことができた。学生同士の質疑応答も有益であったと考える。

4. 研究成果の公表

学生研究発表会での報告（7月2日）に加え、7月3日に島根県立大学にて、また12月26日－27日に京都大学にて合同研究会を開催し、研究成果を公表した。また、2月16日の全域フォーラムにおいてもポスターセッションにて研究成果を公表した。

5. 地域貢献の成果

第一に、国際化の視点から地域課題に接近することにより、地域の潜在力に触れることができた。たとえば、牡丹輸出を通して、直接輸出によって利益を上げ、利益を生産者に還元することによって、地域活性化に一定の貢献を果たす仕組みを学ぶことができた。また、海外公演を通して石見神楽を見ることによって、石見神楽の独自性・価値を再評価することができた。第二に、地域の魅力は一律の基準で測ることができない点を再確認できた。このことは、これまで欠点と考えられてきた点を長所とみなすような視点の転換が必要とされていることも含意している。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科 (浜田キャンパス) 講師 マニング クレイグ
研究テーマ	リーダーシップの養成

1. 研究目的	
This study aimed to develop effective leadership training methods using a problem-based approach and student-centered projects as a framework.	
2. 方法	
<p>Students worked together to learn four leadership techniques including the following,</p> <ul style="list-style-type: none"> - 共通のビジョン - トップダウン計画 - ダウンチャンキング - SMART 目標 <p>Then, students worked in groups of 2~3 and applied the techniques to various projects including the following,</p> <ul style="list-style-type: none"> - Continual development of leadership skills - Gamification of Kendai's volunteer point system - Developing promotional materials in English for Yoshida cho - Negotiating a bus pass to increase access to the Iwami area for students 	
3. 結果	
The students demonstrated effective application of the leadership techniques to create and carry out plans to overcome problems facing local people. It was concluded that the four leadership skills outlined in the previous section were simple, powerful, and useful techniques for developing effective leadership skills for students. It was also determined that students are capable of applying these techniques to approach a multitude of problems to improve local conditions.	
4. 研究成果の公表	
The results of this study have not been published yet. However, the results were presented to the public at the COC conference on February 16, 2016. Each of projects continue and the results will be published upon completion at a later date.	

5. 地域貢献の成果

- 1) Students gained leadership knowledge and practical knowhow.
- 2) Volunteer point system : The students created a shared vision for future development and obtained approval and support to create a digital feedback system to further stimulate volunteer efforts at Kendai. The point system is now being developed and has the potential to be implemented within the next year or two.
- 3) Yoshida cho English PR : The students translated tourist materials for Yoshida cho, including a map. They continue to translate a tourist guide book and website. They also hope to join efforts with Matsue campus to create original PR materials. These materials will hopefully contribute to increased accessibility and appeal for foreign tourists visiting Yoshida cho.
- 4) Iwami bus pass : The students negotiated with decision makers at multiple bus companies. Unfortunately, the bus companies were not willing to test a student bus pass. However, the students raised awareness about special tickets to explore local hot springs. The students were also able to improve cooperation between Hamada campus and the bus companies. Bus tickets can now be purchased and the small store on campus.

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科（出雲キャンパス）助教 阿川啓子
研究テーマ	看護学生が実践する子どもと高齢者の世代間交流

1. 研究目的
子どもと高齢者の世代間交流の場を学生自身が企画する事で学生のボランティア活動への支援の効果を検討する。
2. 方法
<p>学生が主体的に子どもと高齢者の世代間交流の場が持てるように年3回の会を計画して実施した。会の運営に関しては、教員から誘導するのではなく常に学生が計画・実践した。</p> <p>学生への教育は、学生が子どもと高齢者の交流できる会を開催することで参加者である子どもや高齢者の特性を知り最善の環境で会の運営をするためにはどのようにすべきかと言うことが段階的に学習できるように計画した。</p> <p>第1回目：学生の教育目標）会を企画する際の問題点を知る 第2回目：学生の教育目標）学生自身が楽しめ、会の運営に自信を持つ 第3回目：学生の教区目標）会の運営を楽しむことができる</p> <p>学生が実践する活動内容は一般システム理論を参考に、企画内容などの構成要素から学習を開始して、第3回目の会では広報活動への参加などの動的関係まで介入をするように支援をした。</p> <p>さらに、学生自身の主体的な活動意欲を促進する目的で“ポジティブフィードバック”での支援を行い達成動機づけや、自己肯定感の向上に繋がる関わり方をした。</p> <p>参考文献：青木直子、ほめることに関する心理的研究の概観、Bulletin of the Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University, 52, 123-133, 2005. 高崎文子、ほめの効果研究のモデルの一考察、熊本大学教育学部紀要、62、129-135、2013.</p>

<h3>3. 結果</h3>
<p>1) 第1回ガーベラの会 日程：5月23日12時～15時、場所：地域生活支援センターふあっと、参加者：18名（こども4名、大人8名、学生4名、教員2名）、内容：会食をしながら挨拶と自己紹介、折り紙遊びなど、反省点：子どもにルールを説明していなかったことで子どもの行動にまとまりがなかった。昼の開催ではお昼寝の時間となり開催時間の検討も必要などの反省があった。対応：障がい児のイベントに参加して、専門的な教育の場面での集団の子どもに対する会の開催に必要な知識を学習した。</p> <p>2) 第2回ガーベラの会 日程：10月24日9時～12時、場所：出雲市役所さんびーの広場、参加者：11名（こども3名、大人3名、学生4名、教員1名）、内容：リース作りやかぼちゃのランタン作りなど、反省点：参加する人が少なかった、対応：過去に参加した人への案内やSNSの活用での広報活動の導入した。</p> <p>3) 第3回ガーベラの会 日程：2月20日9時～12時、場所：サテライトキャンパス、参加者：26名（こども9名、大人10名、学生5名、教員2名）、内容：ひな人形作り、魚つりゲームなど、反省点：子どもの人数の増加に伴い協力してくれる学生の確保が必要、対応：プレ的に協力員の学生の参加で問題点を明確にした。</p> <p>上記の3回のガーベラの会を開催した。学生が会を運営するのに支障のない範囲での参加者の募集などを行うことで、学生は反省を繰り返しながら体験を通して学習していった。参加人数も徐々に多くなり第3回目には26名での会の開催になった。</p>
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<p>新聞報道での活動紹介 島根日日新聞／2月21日／1面 平成28年3月15日 平成27年度 研究成果報告会にて発表</p>
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<p>サテライトキャンパスで会の開催をする事で、サテライトキャンパス周辺の保育園や地域住民の高齢者の方への参加を促すなどの地域に暮らす高齢者と子どものふれあう機会を提供することができた。</p> <p>第1回目のガーベラの会を開催したときの学生は、地域で暮らす人々との交流もなく子どもに関する知識も乏しい状況だった。そのような学生の対象者理解や地域支援に関する知識の段階から、学生自身が試行錯誤を繰り返す中で地域住民の方へ協力をお願いをするなどの活動をする事で運営方法の検討をした。学生自身が自ら地域に出向き住民のかたと連絡や調整をする事で地域の人々と交流を持つ機会に繋がった。また、学生自身が困っていることを住民の方へ相談する事は住民の方にとっては地域の力が学生の教育の機会に繋がっている事を実感する機会となり地域の人々にとっても自己肯定感が高まり、学生と同様の相乗効果があったように感じた。今後は、学生の社会性や自己肯定感の向上と地域住民との相乗効果の検討をして地域貢献との関係性を検討する必要があることが示唆された。</p>

申請者	島根県立大学短期大学部 総合文化学科（松江キャンパス）准教授 工藤泰子
研究テーマ	松江市の観光振興に向けた取組み－地域志向科目における実践－

1. 研究目的	
1. 目的	<p>本事業は、申請者の担当する地域志向科目（2科目）「卒業プロジェクト（観光文化ゼミ）」（2年生通年科目）、および、「観光まちづくり学」（2年生後期選択科目）において、NPO松江ツーリズム研究会と連携した教育活動の実践である。活動を通して、松江市の観光振興の一助となることを目的としている。また、本事業により、学生の学習意欲の向上、大学・地域間連携の更なる発展が期待できる。</p>
2. これまでのNPO松江ツーリズム研究会との関わり－前年度までの取組み	<p>(1) 平成25年度</p> <p>「卒業プロジェクト（観光文化ゼミ）」において、NPO松江ツーリズム研究会が管理運営するカラコロ工房にある、ピンクのポストをモチーフとしたクッキーの製作・販売を実施した。</p> <p>(2) 平成26年度</p> <p>同研究会の依頼を受け、「観光まちづくり学」において、カラコロ工房訪問者の実態調査を実施した。（履修生22名）</p>
2. 方法	
(1) 平成27年度「卒業プロジェクト（観光文化ゼミ）」にてボランティアガイドの実施	<p>【6月】NPO松江ツーリズム研究会理事長山本素久氏、ちどり娘上田絵里子氏により、松江城のガイドに必要な情報についてご指導を受けた。通常のガイドブックには掲載されていない情報を観光客に伝えるための工夫など、ご教授いただいた。（ゼミ生10名参加）</p> <p>【7月以降～10月】ゼミ学生のうち、意欲のある3名が、ガイド用の原稿を各自作成し、自主練習を繰り返した。その後、教室での実演、現地にて研究会理事長の前でリハーサルを行い、本番に備えた。</p> <p>【10月末、12月】ボランティアガイド実践（本番）。</p>

<h3>3. 結果</h3>
<p>(1) ボランティアガイド</p> <p>10月末、および、12月初旬に、千葉県、広島県、岡山県からのお客様（計9名）をご案内した。ゼミ生3名が案内する箇所を分担し、自分のパートを説明した。お客様からは「とてもわかりやすい説明だった」「学生さんの気配りが素晴らしい」など、高い評価をいただいた。</p> <p>(2) カラコロ工房調査</p> <p>授業履修生19名と有志学生2名により、アンケート調査を実施し、209名から回答を得ることができた。居住地別アンケート回答者の内訳は、島根県121名（うち松江市91名）、県外86名、海外2名であった。その後、履修学生は5つのグループ（訪問客の居住地別：松江市、島根県、米子市、県外、海外）に分かれ、グループごとに訪問客の特徴を分析し、学内報告会でグループ発表。その結果を報告書にまとめた。</p>
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年2月16日（火）「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」第3回全域フォーラム（浜田キャンパス）にて発表。 ○平成28年3月4日（金）「平成27年度研究連携協議会」（松江キャンパス）にて発表。 ○報告書を作成し、関係者に配布。
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<p>学生たちは、普段の学びのなかで地域に関する授業を多く受講しているが、旅行経験が少ないこと、また、観光客と触れ合う機会が少ないことから、外から見た松江や観光客が求めることを知る機会が少ない。本事業を通して、観光客と直接触れ合い、会話をしたことで、松江の良さに改めて気づく機会となった。地元についての学習意欲や、「松江の良さをもっと多くの人に伝えたい」という意識が高まったようだ。特に、観光ガイドをした学生は、自分で原稿を作成し、自分の言葉で伝える練習を積み重ねたことで、お客様からの質問にも戸惑うことなく応じられた。また、そのうち2名は、松江市内の宿泊施設に就職が決まった。本事業で得られた知識や技術、実践力が、今後も大いに活かされることを期待している。</p>

6) 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成28年2月16日開催）

本学では「浜田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など浜田市の施策に有用なテーマについて浜田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成28年2月16日（火）に浜田キャンパス講堂を会場にして開催された、文部科学省平成27年度「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」成果報告会第3回全域フォーラムの中のプログラムとして、平成27年度の研究成果報告会がおこなわれました。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

なお、本年度の研究テーマは以下の6件です。

《本年度の研究テーマ》

○石見トラベルガイドの継続

島根県立大学 ケイン・エレナ 准教授（浜田キャンパス）

○大学生とコラボした水産加工製品の開発

～大学文系学部が中小企業の製品開発に果たす役割とは～

島根県立大学 久保田典男 准教授（浜田キャンパス）

○広島市民に対する島根県浜田市の観光イメージ調査

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○地元の食を再考する「まち弁」企画－イカを活用した付加価値創造－

島根県立大学 田中恭子 准教授（浜田キャンパス）

○中山間地域における人口推移に基づく地域活性化策についての調査研究

島根県立大学連携大学院 藤山 浩 教授（島根県中山間地域研究センター）

○浜田の特産品を用いた地域活性化策

島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）



7) 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成28年2月16日開催）

本学では「益田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など益田市の施策に有用なテーマについて、益田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成28年2月16日（火）に浜田キャンパス講堂を会場にして開催された、文部科学省平成27年度「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」成果報告会第3回全域フォーラムの中のプログラムとして、平成27年度の研究成果報告会がおこなわれました。当日発表された研究テーマは以下の4件です。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

《本年度の研究テーマ》

○Webシーズマップを利用したふるさと教育連携

島根県立大学短期大学部 山下由紀恵 教授（松江キャンパス）

○益田市の観光ニーズと萩・石見空港の二次交通 ～Webアンケートによる分析～

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○ワークライフバランスと人口政策 –国の施策と地域の施策–

島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）

○益田市における体験教育旅行受け入れによる交流人口拡大

島根県立大学 林秀司 教授（浜田キャンパス）



2. 3キャンパス合同学生ボランティア

1) 3キャンパス合同学生ボランティア企画

平成27年7月12日（日）に、出雲キャンパスのゲストハウスにて、3キャンパス合同学生ボランティア企画の交流会を行いました。「日頃、どんな活動をしているのか」「今後どんなボランティアをしたいのか」など、学部学科の違う学生同士で意見交換しました。



・自己紹介！
・これまでどんな活動してきた？
・これからどんなことしたい？

3キャンパス合同ボランティア活動（秋開催予定）を企画しました。

学生の皆さん！
私たちと一緒に活動しませんか？



今年のボランティア活動は、出雲で開催予定です。

活動内容は、『3キャンパスの学生が一緒になって出雲の観光地の清掃活動を行い、地域の人々や学生同士の交流を深めよう！』です。

問い合わせ先：各キャンパス地域連携推進センター



2) 3キャンパス合同学生ボランティア報告会・研修会

大学生活がスタートして2ヵ月となるとうする平成27年5月20日（水）、学生のボランティア活動への参加意識を高めることを目的として、出雲キャンパスを会場に3キャンパス合同学生ボランティア報告会・研修会を開催しました。

当日は、出雲キャンパスを主会場にして、浜田キャンパスと松江キャンパスにも同時中継され、3キャンパスの学生が参加しました。



I 部

【学生によるボランティア活動の報告】

- ①てんしんはん・いなたひめの活動
- ②3キャンパス合同ボランティア交流会
- ③国際NGO フィリピン

ストリートチルドレンへの支援活動



II 部 【講演：ボランティア活動の魅力】

講師：NPO 法人学生人材バンク

田中玄洋 先生



参加した学生は、「ボランティア活動の企画から参加してみたい!」「自分で時間を作ってボランティア活動に参加しようと思う」などの感想を持ちました。

3) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会

ボランティア活動に取り組んでいる島根県立大学の3キャンパスの学生が一同に会して交流することで、異なった活動視点を認識し刺激を受け合い、今後の学生ボランティア活動の質の向上を図るという目的のもと、学生主体の企画として、平成22年度より毎年「3キャンパス合同学生ボランティア交流会」を実施しています。今年度は平成27年11月8日(日)に、出雲キャンパスが中心となって開催されました。

テーマ：『3キャンパスの学生が一堂に会し、出雲の観光地の清掃活動を通して地域の人々や学生同士の交流を深めよう！』



出雲市大社町の鷺浦地域へ行きました。落ち葉を拾い、地元の有機農法に還元する活動の予定でしたが、当日はあいにく土砂降り

鶴鷺げんきな会の皆さんと、NPO 法人ふるさとつなぎの皆さんに地元の活動の紹介や、古き良き街並みを案内していただきました。



まちづくりに取り組む地域の人々の心情や活動に触れ、ボランティアの意義について考える1日になりました。鶴鷺げんきな会の皆さま、ふるさとつなぎの皆さま、ありがとうございました。

3. 学生災害ボランティア

1) 東日本大震災に伴う災害ボランティア活動2015記録

○いわてGINGA-NET「夏銀河2015」第1クールに参加して

総合政策学部 3年生 原 奈津美

いわてGINGA-NETの今回のプロジェクトの大きなテーマは“岩手の魅力を知る”というもので、私は9泊10日間、岩手県住田町にある五葉地区公民館で過ごしました。今回参加した動機として、1年半前に一度訪れた事のある被災地の変化を確かめ、震災から4年経った今、現地の方々は私達に何を求めているのか、それに加え、私が普段感じている島根県と岩手県の人々との防災意識はどのように違うのかということがありました。

現地での主な活動は、語り部さんや地域の方々との交流でした。岩手県内の様々な地域を訪ねましたが、山田町では震災を経験された漁師さんのお話を聞かせていただく機会がありました。その方に私の知りたかった事でもある、私達のような学生ボランティアに何を求めているかを尋ねたところ、「以前までは、体力のあるような人が優先的に必要であったが、4年経って落ち着いた今だからこそ君達に会えた。」とおっしゃられました。私自身、被災地の方々は復旧作業など目に見える直接的な何かを求めておられるのではないかと思っていましたが、この言葉のように“来てくれてありがとう”という気持ちが凄く嬉しく感じ、参加したからこそできた繋がりや結びつきというものを今後も大事にしていきたいと思いました。他にも復興商店街で出会った方々は私達を歓迎し、「また来てね」と言って下さいました。役場では、子供達や地域の方を招いて楽しんでもらう為の企画を行いました。殆どの学生は、被災した子供達に接する事に少し不安を感じていましたが、来てくれた子供達はとても人懐っこく元気な子ばかりで、私達の考えた遊びを思う存分楽しんでくれました。とにかくまた会いたいと思えるような人達ばかりで、訪ねた場所全てにおいて、人との出会いを大切にする町だなと思いました。通常、形として存在する食文化や景色は魅力的なことが多いですが、目には見えない人柄や優しさ、おもてなしの心もその土地の魅力の一つであることを実感し、だからこそ、次は観光客としてもこの地を訪れたいと強く思いました。

私は今回の参加を通して、岩手の魅力を発見する事が出来ましたがそれと同時に、自分の地元である島根県の魅力とは何だろうと真剣に考えました。私が岩手県で感じたように「また行きたい」と思える継続した気持ちを持ってもらうにはどうすれば良いか、地域活性化の視点からも考えさせられました。加えて防災意識についても、岩手県では子供の頃から「つなみてんでんこ」と言い「自分の命は自分で守る」という教育が徹底して根付いています。月に1回防災訓練がある地域もあり、実際に災害が起きた時、小学生が自分達の判断で逃げ、犠牲者が出なかった例も聞き、そういった面でも防災意識の高さを感じました。私はこの経験を、まずは身近である学生から、そして地元住民の方へ伝えたいです。学生にも出来る事がまだまだ沢山あること、防災意識を持つ重要性、そして岩手県の持つ魅力、私にしか発信出来ない事があるはずだと強く思っています。

Ⅱ. 各キャンパスの活動

《浜田キャンパス》

平成27年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター 浜田キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成27.4.1～平成28.3.31)

職 名	氏 名	備 考
教授	林 秀司	・地域連携推進センター長
准教授	田中 恭子	・地域連携推進センター副センター長 ・事業推進検討会
准教授	金野 和弘	・委員（研究企画検討会）
准教授	西藤 真一	・委員（教育支援検討会）
准教授	林 裕明	・委員（公開講座検討会）
准教授	林田 吉恵	・委員（公開講座検討会）
講師	豊田 知世	・委員（情報発信検討会）
講師	マニング クレイグ	・委員（ボランティア検討会）
地域連携課 課長	草刈 健司	・委員
地域連携課 主任	河部 安男	
地域連携課 主任主事	石倉 義生	
地域連携課 主事	竹口 雄一	
地域連携 コーディネーター	吉田 隆博	
嘱託員	栗栖 考哲	
嘱託員	竹根 美雪	

浜田キャンパス：地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 田中 恭子

平成25年度から文部科学省補助金事業「地（知）の拠点整備事業」を実施してきた。平成27年度は、本事業の実施体制構築を完了し試行的運用を行いつつ、地域と大学がより踏み込んだ課題解決へ向けての意見交換を基盤とした連携を深めることで、広がりのある課題解決の提案を促すことを意識した取組を重点的に実施してきた。

浜田キャンパスの取組としては、教育では3キャンパス必修科目である「しまね地域共生学入門」が浜田キャンパスにて先行実施された。同時に、しまね地域マイスター認定制度担当者準備会議において制度運用についての検討を重ねたことで、マイスター認定の質保証を担保する制度がより具体的かつ運用可能な形として精微化され、本格実施の体制整備が完了した。

研究においても、平成28年度「しまね地域共育・共創研究助成金」に向けた地域ニーズと大学シーズのマッチングを促進する場である「9月連携会議」をテーマ別分科会として開催し、地域と地域、地域と大学間の課題・現状認識の共有、対応策の検討といった一連の意見交換過程を経たうえで、課題解決へ向けての方向性を共有することを目指した。縁結びプラットフォームを通じた全県にわたる広域連携、複数キャンパスが連携しての地域課題研究のマッチングが促進された。

社会貢献においても、地域連携推進センター全学運営活動事項である「3キャンパス合同学生ボランティア交流会」が軌道に乗りはじめ、各キャンパスの専門分野や地域性を考慮したテーマが選択され、キャンパスの特色を活かしたボランティア内容が企画、実践されている。

引き続き、教育・研究・社会貢献の各領域において各キャンパスでの実績を基礎とし、3キャンパスでの総合力を発揮すべく全学的な連携・協働を展開していきたい。

1) 学生の地域貢献活動

(1) 学生ボランティア活動（震災ボランティア以外）

学生の地域貢献活動のひとつとして地域でのボランティア活動に従事している。以下活動依頼者からの感想の抜粋と活動の様子の写真、参加者の感想を紹介し、さらに今年度のボランティア活動の一覧を付す。

○大平桜まつり（4月4日～5日開催）

実行委員の指示を素直に聞き入れ、的確な行動を取ってくれた。状況判断ができ、会場の雰囲気盛り上げることができ、ありがたかった。今後とも失敗を恐れず、むしろ失敗を糧に大きく成長する県大生をしっかり応援したい。

○島根県高等学校体操競技大会選手権大会（4月25日開催）

初めての作業内容であり、事前の説明もなかったが、高校生の動きを見ながら積極的に各作業に取り組んでいた。活動意欲の高さと誠実さ、コミュニケーション能力の適切さを感じた。

○浜田広域子ども交流事業（8月5～7日開催）

今年度も8名の学生にボランティアとして参加していただき、事業を進める上で大変心強く思った。大学生たちには活動メニューの企画や子どもたちの指導など幅広く携わってもらった。大学生も昨年度の反省を活かし、事前に下見や予行練習をするなど準備段階から積極的に活動した。大学生の力なくしては事業の成功はなかったとの声が多く、事業成功の大きな要因となった。引き続き協力をお願いしたい。



～参加学生からの活動の感想～

2月2日に浜田市の紺屋町「こんちゃ」で開催された、節分交流イベントにボランティアとして参加しました。このイベントは、しまね国際センターとこんちゃの共催で、「島根県立大学冬期日本語・日本文化研修」に参加している中国・韓国・台湾の学生と地域にみなさんの交流のためのイベントです。

このイベントで、節分紹介を担当しました。豆まき以外にも、節分いわしや恵方巻の紹介も行いました。そのほかにも、豆まきや各国のおもちゃで交流する時間もあり、とても楽しい時間を過ごすことができました。（2年生・廣井修平）

ボランティア活動の一覧

依頼団体	活動場所	活動日	内容	人数
大平桜まつり 実行委員会	浜田市三隅町	H27.4.4-5	大平桜まつり	34名 (2日間)
浜田青年会議所	浜田市弥栄町	H27.4.25-26	田んぼアート	3名
島根県高体連体操専門部	島根県立体育館	H27.4.25-26	高体連体操大会運営補助	3名
長沢1町内自治協議会	長沢神社	H27.4.26	長沢神社春の例大祭	1名
浜田市ボランティアセンター	陸上競技場	H27.4.26	障がい者スポーツ大会	2名
浜田市商工会議所	浜田市内	H27.4.29	浜っ子まつり大名行列	3名
こんやお茶の間	浜田市内	H27.4.29	浜っ子まつり運営補助	1名
浜っ子春まつり実行委員会	浜田市内	H27.4.29	ゆるキャラ(浜っ子まつり)	4名
ひきみ田舎体験推進協議会	益田市匹見町	H27.5.3-4	匹見峡春祭り	2名
島根県立少年自然の家	左同	H27.5.4	オープンデー	6名
浜田港湾振興センター	浜田港福井ふ頭	H27.5.10	客船浜田港歓迎イベント	4名
島根県高体連体操専門部	県立体育館	H27.5.30-31	高体連体操大会運営補助	4名
ひきみ田舎体験推進協議会	匹見中学校	H27.5.30-31	学習支援と野球部交流	4名
黒沢地区保険委員会	浜田市三隅町	H27.6.14	六地藏ウォーク&交流会	14名
浜田市子育て支援課	子育て支援センター	H27.6.20	すくすく子どもまつり	1名
日本二分脊椎症協会島根支部	大田市	H27.6.21	障がい児の託児	1名
島根県立島根中央高校	邑智郡	H27.6.21	高校学習サポート	8名
こんやお茶の間	紺屋町商店街	H27.6.27	ショーとフォラッシュモブ	4名
島大地域医療支援学講座	浜田市内	H27.7.11	託児	1名
しまね国際センター	子育て支援センター	H27.7.11	外国のお兄さんお姉さんと遊ぼう!	12名
いわみ福祉会	ふれあいジム	H27.7.19	神楽大会	2名
波子の日実行委員会	江津市波子海岸	H27.8.4	波子の日海水浴イベント	1名
浜田地区広域行政組合	浜田・江津市内	H27.8.5-7	広域圏こども交流事業	8名
広浜鉄道今福線を活かす シンポジウム実行委員会	県大・浜田市内	H27.8.8-9	広浜鉄道シンポジウム	7名
黒沢地区生涯学習推進委員会	浜田市三隅町	H27.8.9	かっぱランド夏祭り	3名
山陰中央新報社西部本社	山陰中央新報	H27.8.22	竹迫ふれあいフェスタ	1名
紺屋町商店街振興組合	紺屋町商店街	H27.9.12	月待ちイベント	2名
島根県立島根中央高校	邑智郡	H27.9.26	高校学習サポート	5名

依頼団体	活動場所	活動日	内容	人数
今宮神社総代	浜田市内	H27.10.4	今宮神社秋季大祭	1名
しまね国際センター	学内	H27.10.10-12	海遊祭国際センターブース	7名
浜田医療センター	医療センター	H27.10.18	浜田駅北医療フェスタ	2名
島根県ことばを育てる親の会	浜田市内	H27.10.25	託児	2名
浜田市立美川幼稚園	美川幼稚園	H27.10.25	幼稚園バザー	2名
紺屋町商店街振興組合	紺屋町商店街	H27.10.25	こんやまちの秋まつり	4名
浜田警察署	浜田市内	H27.10.31	安全パトロール	13名
BB大鍋フェスティバル実行委員会	浜田港周辺	H27.11.3	BB大鍋フェスティバル2015	2名
ひきみ田舎体験推進協議会	益田市匹見町	H27.11.6-8	わがまち自慢フェア等イベント	1名
浜田市立美川幼稚園	美川幼稚園	H27.11.8	託児	2名
島根県立体育館	県立体育館	H27.11.8	体操競技大会補助	6名
弥栄支所建設課	弥栄町	H27.11.21	獣肉加工処理施設完成式	4名
島根県立島根中央高校	邑智郡	H27.11.21	高校学習サポート	6名
ひだまりふっくら	浜田市内	H27.12.6	シニアファッションショー	4名
島根赤十字献血センター	学内	H27.12.9	献血呼び込み	2名
浜田市成人式実行委員会	市役所等	H27.12.10	浜田市成人式実行委員	1名
島根県ことばを育てる親の会	松原小	H27.12.12	託児	2名
浜田市成人式実行委員会	石中央文化ホール	H28.1.3	浜田市成人式当日スタッフ	8名
しまね国際センター	こんやお茶の間	H28.2.2	冬期日本語・日本文化研修	2名
島根県ことばを育てる親の会	松原小	H28.2.6	託児	2名
有限会社Plusvalue	お魚センター周辺	H28.2.27	マリン大橋レースマラソン	5名
オレンジカフェはまだ	ひだまりふっくら	H28.3.19	認知症本人とその家族との交流	1名

通年ボランティア

依頼団体	活動場所	活動日	内容	人数
浜田おやこ劇場	子育て支援センター	H27年度	託児	9名
雲雀丘小学校	雲雀丘小学校	〃	小学生体操教室補助	12名
国立三瓶青少年交流の家	左同	〃	セミナー、企画、運営等	2名
出雲市政策企画課国際交流室	出雲市	〃	日本語教室	2名

(2) ボランティア・ポイント抽選会

○ボランティア・マイレージ検討会

学生のボランティア活動を奨励し、学生による地域交流や地域貢献活動を促進させるため、キャンパス・マイレージ事業に取り組んでいます。検討会では学生委員より意見を出し合い、より多くの学生がボランティア活動に従事できるように話し合いをおこないます。

- ・ 第1回検討会 6月24日（水）開催
- ・ 第2回検討会 7月22日（水）開催



○ポイント抽選会（平成28年1月27日開催）

1月27日（水）16：10～17：00に、学生会館（カフェテリア）2階にてボランティア・ポイント抽選会を開催しました。抽選では、ポイント引き換えを行なった989枚の抽選券で賞品の抽選を行い、学外活動にも役立つ「旅行券」、浜田市内各所で利用できる「浜田市共通商品券」、石見地域の美味しいものをいただける「石見の選べるうまいもんセット」、浜田市での活動範囲を広げてくれる「石見交通バスカード」、浜田の魅力を体験できる「アクアス入場券」「かなぎウエスタンライディングパーク乗馬体験チケット」「石州和紙紙すき体験チケット」などの賞品が当選した学生に授与されました。



(3) 地連Café OPEN！(ボランティア交流会)

○第13回 地連Café (平成27年4月17日)

浜田キャンパスカフェテリア2階にて、第13回地連カフェが開催されました。今回は今年度はじめての開催ということで、新入生に地域連携推進センターの活用の仕方を知ってもらうことを目的としました。

地域連携推進センターをよく利用する先輩や団体にそれぞれのテーマで話をしてもらうことにより、「こんなことまでできるんだ!」と幅広く活動のイメージを持ってもらい、それぞれの可能性と気軽に地域で活動できることが伝わったのではないのでしょうか。

○活動紹介

【地域連携推進センターとは(3年生青岸万友さん)】

地域連携推進センターとはなんだろう?どのようにして活用すればいいんだろう?と聞いた、素朴な疑問を簡潔にお話しされました。「何かしてみたいけど、どんな活動依頼があるんだろう?」と気軽に訪れることができる所だとわかりました。

【ボランティア活動について(4年生森山大地さん)】

「国立三瓶青少年の家」や「東日本大震災被災地支援」、「弥栄での農業体験」など、豊富な活動経験からボランティアや地域での活動をする楽しさが伝わるお話しでした。行動に移すのは難しいけれど、1歩を踏み出せばたくさんの経験や仲間が見つかり、明日が待ち遠しくなるような大学生活が送れる。そんなメッセージが伝わりました。

【島根県立大学3キャンパス合同ボランティアについて(4年生黒木大輔)】

島根県立大学には、浜田・出雲・松江と3つのキャンパスが存在し、それぞれに総合政策学部・看護学部・保育学科・健康栄養学科・総合文化学科といった5つの特色ある学部・学科があります。各キャンパスの学生が自分のキャンパスで学んだことを活かし、地域の課題解決や問題発見に取り組む活動の紹介をお話ししました。

○サークル等学生団体紹介

【BBSサークル(2年生渡部佳苗さん)】

地域で活動するサークルとして、日々の活動を多くの写真を用いたスライドでお話しされました。BBSサークルは子どもと合宿やクリスマス会などを数多く行い、その実績から地域からの信頼も厚いサークルです。それだけでなく、商店街の祭りに参加したり、救命講習などの研修会を開いたりするなど地域で積極的に活動する様子が紹介されました。

【YellowKite(3年生青岸万友さん)】

入学式で大学歌を歌うなど、大学行事で大活躍の合唱部。合唱・アカペラ・コーラスといった幅広い活動内容が魅力です。活動範囲は学内だけでなく、地域の祭りやイベントに引っ張りだこで、きれいな歌声で地域を盛り上げる伝統あるサークルです。歌いたい歌はみんなのリクエストで決めたり、わいわい楽しく活動する様子がよく伝わる発表でした。

【県大農園すこっぷ(2年生西村樹一さん)】※学生の任意団体

昨年の「島根県学生地域活動支援事業」で見事採択され、浜田市弥栄町の集落で農業をしている実力ある団体です。毎週のように畑に通い、白菜や大根、にんじんなどの野菜を

栽培・収穫をする様子は生き生きとした写真を通してよく伝わりました。野菜を一から作る大変さと喜びを感じられることや、強いチームワークでの活動は、新入生にとって刺激的な大学生活の一例であったことでしょう。

○フリートーク

新入生も先輩方もそれぞれを象徴する項目を書いたシールを身体に貼り、様々な角度から話のきっかけを作りました。アルバイトやサークル活動、地域活動など気になる話を学年を超えて聞くことができました。多くの新入生が地域に出て、島根を全身で感じてもらえるきっかけとなれば幸いです。（文責：4年生黒木大輔）



○第14回 地連Café（平成27年5月20日）

浜田キャンパスカフェテリア2階にて、第14回地連カフェが開催されました。今回は学内外を問わず、地域連携推進センターの活用方法を知ってもらうとともに、地域と学生の直接の情報交換など、地域の方と学生の新しいネットワークづくりを目的とした「ボランティア・プラットフォーム」を開催しました。

地域の方をお招きし、事業の活動の様子、ボランティアの情報を説明していただくことで、普段はなかなか得ることができない情報を聞くことができ、具体的な活動事例やそこで活躍している学生を見ることで、「自分もやってみよう！」と考える学生も増えたのではないのでしょうか。また、地域の方の熱意、温かさに直接触れることで、地域に出ることへの不安が和らぎ、新しいボランティア活動への活動意欲を盛り上げることができたのではないのでしょうか。

○活動紹介

【地域連携推進センターとは（3年生青岸万友）】

地域連携推進センターとはなんだろう？どのようにして活用すればいいんだろう？といった、素朴な疑問を簡潔にお話ししました。学内外を問わず、“地連”について知る、再確認していただくことができました。

【西部県民センター地域振興課】

実際に学生が考えたビジネスプランを実現させた例を取り上げながら、「学生地域活動支援事業」を分かりやすく説明していただきました。「自分のやりたいことが形にできるかもしれない。」と夢を膨らませるきっかけをいただきました。

【KONYAお茶の間】

こんちゃってどんなところ？何ができるの？など、施設設備、活用方法などをお話されました。毎週、たくさんのイベントが用意され、学生をはじめ、市民が気軽に立ち寄ることができるスペースであることが分かり、お話を聞いて、ぜひ立ち寄ってみようという学生がたくさんいました。

【みはし地域まちづくりネットワーク】

大学とも大きく関係のある、みはし地区の現状と取組を熱くお話いただきました。自分たちが住む地域に何かできることはないかと考える機会になりました。

【浜田市まちづくり推進課】

浜田市において募集しているボランティア情報をたくさん紹介していただき、様々なボランティアのチャンスを得ることができる場になりました。

○意見交換会（ファシリテーター：4年生黒木大輔さん、3年生青岸万友）

活動紹介を受け、ファシリテーターを中心として、学生からの質問、感想、学生からのアイデアの提案など、双方から様々な意見が飛び交いました。初めは緊張していた学生も、自分が地域でやりたいこと、できることを一人一人が真剣に考え、発表をすることができました。

○フリートーク

活動紹介をしていただいた方々に、学生のテーブルに入っていただき、意見交換会でやりきることができなかった質問や相談など、より詳しく知ることができました。時間を忘れてしまうほど、どのテーブルも話が盛り上がり、地域の方と学生が親睦を深めることができました。

（文責：3年生 青岸万友）



○第15回 地連Café（平成27年11月25日）

浜田キャンパスカフェテリア2階にて、第15回地連カフェが開催されました。今回は、在学中に地域活動を熱心に行っていた3名の卒業生をお招きし、その時の様子や思いについて、スライドを使ってお話して頂きました。

まず始めに、大國加苗さんです。大國先輩は在学中、学習支援から通学合宿、地域のお祭りまで幅広いボランティア活動を行ってこられました。その動機として、「浜田で何をして遊ぶかを考えたときに地域活動が一番自分にあっていた。」とお話されました。さらに自身が名付ける「食べ物ボランティア」についても語り、おいしそうなお飯につられて参加した事も多くあったとの事です。

次に、嘉手苺美春さんです。嘉手苺先輩は在学中の韓国留学の経験から、国際交流を中心としたボランティア活動についてお話して頂きました。本学は多くの留学生を受入れる事もあり、特に韓国からの留学生が来られたときにチューターとして身の周りのお世話をされていたお話を伺いました。また、残された時間を有効に使いたい。みなさんならどのように残りの学生生活を過ごしますか？と問い、自らの活動を見つめ直すことができました。

最後に、門上貴さんです。門上先輩は自身の学生生活を時系列で振り返り、インドを旅した話や、大学を休学してバングラデシュでインターシップをしたお話をされました。浜田でも、小学校等でダンス教室を開き、子どもたちとの交流を大切にしてお話をされました。また、紺屋町商店街のフリースペースでの活動として祭りやクリスマス会などいろん

な企画運営をして多くの市民のみなさんとのふれあいを大切にしてきた事がしてきた事がお話から伝わりました。今自分は何を何のために何の目的を持ってするのかを考えて欲しいと締めくくり、その答えを学生とディスカッションをして盛り上がりました。

スライドを聞いた後は班に分かれ、自由にフリートークで盛り上がりました。ボランティア活動の話をはじめ、サークル活動や就活の事、卒業論文の事、アルバイトの事まで幅広い内容で盛り上がり、久しぶりの対話に花を咲かせました。卒業生の先輩の話はこれから社会にでる僕たちにとって勉強になる事ばかりでした。 (文責：4年生黒木大輔)

○第16回 地連Caféボランティア回数上位表彰 (平成28年1月27日)

今年度最後の地連Caféでは、平成27年4月～12月までのボランティア回数の上位者10名を表彰し賞状と記念品を贈呈しました。

上位者の活動回数は以下の通りです。

※サークルでの地域活動含む

順位	氏名	学年	活動回数
1	渡部 佳苗	2	37
	高橋賢太郎	3	
3	中島 結都	2	30
4	常本 真由	2	29
	村上さやか	3	
6	橋本 晃輝	3	27
	森藤 諒也	2	
8	石川 哲大	2	26
9	原 大地	1	23
10	阿南 雄基	4	22

2) 地域に関する教育・研究活動

(1) 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会（平成28年2月19日開催）

島根県立大学浜田キャンパスにおいて、「第13回地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」が開催されました。今年度は17名の学生が奨励賞を受賞し、本田学長から表彰されました。

このうち、最優秀賞には石州和紙を事例として、現状の課題や今後の方向性を研究内容とした小暮里奈さんが選ばれました。また、浜田市長賞には実際に浜田市内を自転車で走行し、自転車利用者の視点に立って危険箇所や改善点を集約したマップを作成した長瀬歩さんが選ばれ、久保田章市市長から賞状と記念品が授与されました。

発表会の後半では、奨励賞を受賞した中から、学部生5名と大学院生1名が自ら得た知見と研究をしてきた内容について発表をしました。

奨励賞受賞者の研究内容は、ポスターにまとめられ、廊下に貼り出されていました。学生、教職員を含めた大学関係者、市民の方々併せて65名もの参加があり、地域の方など参加者から多くの活発な質疑応答が行われました。



奨励賞受賞者一覧

氏名	卒業研究・論文タイトル
学 部	
井戸あゆみ	都市と地方の地域間格差
加藤 恵子	浜田市におけるスポーツツーリズム導入による観光振興の効果と課題 ～ウォーキングのケーススタディ～
北村 幸穂	過疎市町村における地域活性化～京丹波町を対象として～
衣笠ちひろ	発地型・着地型観光の比較研究—観光情報の視点から—
久保 優輝	島根県の人口決定要因
小暮 里奈	伝統的工芸品のマーケティング—石州和紙を事例として—
齋藤 大介	地方と都市部の幸福度の差異について
杉山 聡	「イベント」の地域への影響に関する事例研究
高橋 成美 [*]	島根県西部の活性化について—道の駅を利用した活性化策—
中井 喜一	よさこい祭りと地域活性化
永嶋 裕也 [*]	出雲市における「インバウンド観光」の展望
長瀬 歩 [*]	浜田市自転車危険箇所マップの作成
松林 知佳	IUターンに関する移動理由について
湯川 瑞基 [*]	島根県仁多郡奥出雲町における定住促進に向けた産業体験の在り方
余村 孝輔 [*]	島根県松江市の観光産業の課題とプラン —石川県金沢市との比較を通して見えてきたこと—
大学院	
侯 林珊	中国の公的年金における格差問題
李 奎 [*]	中国河南省の産業構造に関する分析—中原奮起目標の影響を中心に

※：当日の発表者

(敬称略)

(2) 山陰地域フィールド体験学習

「山陰地域フィールド体験学習—弥栄の農林業と暮らし」

2015年9月5日～8日、浜田市弥栄町にて、「山陰地域フィールド体験学習—弥栄の農林業と暮らし」を実施した。本年度は、とくに「農業・農村のもつ多面的機能やそれを守る地域の取組」をテーマとした。受講生は、島根県立大学浜田キャンパスから11名、島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)から2名、島根大学松江キャンパスから1名であった。

【実施状況】

9月5日(土)

熊の山集落を訪問し、山間の条件不利地域における農業について学習した。約1時間、キャベツの追肥作業を体験させていただいた後、集会所に場所を移し、集落のことなどのお話をうかがった。宿泊場所の「弥栄ふるさと体験村」に戻って、夜には、事前学習の学習内容とその日の活動のふり返りを行った。

9月6日(日)

2グループに分かれて活動を行い、集落営農組織などによる地域づくりについて学習した。ひとつのグループは、午前中に小熊集落を、午後に野坂集落を訪ねた。ひとつのグループは、午前中に小坂集落を、午後に門田集落を訪ねた。なお、昼食を兼ねて、浜田市食生活改善推進協議会弥栄支部との交流会を実施した。夜には、その日の活動をふり返るとともに、学習成果発表会に向けた準備を開始した。

9月7日(月)

午前中は、4班に分かれて活動を行い、農産物加工などの取組について学習した。訪問先は、それぞれ、仲三集落、西の郷集落、小角集落、「やさか爺～婆～さん倶楽部」であった。午後からは、活動のふり返りを行うとともに、学習成果発表会に向けた準備を進めた。

9月8日(火)

弥栄ふるさと体験村多目的研修室を会場に、学習成果発表会を開催した。4つの班ごとに、Power Pointを用いて、ひと班あたり、発表12分、質疑応答8分のもち時間で発表を行った。発表会には多くのステークホルダーのみなさまにもお越しいただき、有意義な意見交換の場となった。

(文責：林 秀司)



キャベツの追肥作業のようす



集落内見学の様す

(3) フレッシュマン・フィールド・セミナー

フレッシュマン・フィールド・セミナーは、社会のさまざまな現場（フィールド）に出かけていき、そこでフィールドにおられる人々への調査を通じて課題を発見し、課題の解決策を提案するセミナーである。入学初年次から地域のさまざまな人と接し、自らの学修目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることを目的としている。

このセミナーは、1) 事前学習、2) フィールド調査、3) 調査結果分析、4) 課題解決策の提案、5) 成果発表、の5つのプロセスで構成されている。各セミナーの実施回数にもよるが、概ね10～13回を教室で行い、島根県内・浜田市・近隣地域に向向いてのフィールド調査を2～5回ほど実施する。春学期に実施されるフレッシュマン・スキル・セミナーで学んだアカデミック・スキルを活用しながら、課題発見と課題解決能力を身につけ、2年次から始まる専門教育への橋渡しをするセミナーでもある。また、グループ学習を実施するセミナーの場合、受講生は少人数のグループを組み、協同作業による自発的で能動的な学びを実践する。

平成28年1月28日（木）には、このセミナーの最終プロセスである「フレッシュマン・フィールド・セミナー合同成果発表会」が、浜田キャンパス講堂において開催された。はじめにステージ上で、ゼミ単位で順番に1分間ずつの概要説明をおこなったのち、全16ゼミが各ブースに分かれて成果をポスターセッション形式で報告した。

来場者には「いいね！」シールを配付し、各ゼミのポスター等の掲出物、プレゼンテーション、研究の内容等に対して、「いいね！」と感じたゼミを3つ選び、投票ボードに「いいね！」シールを貼っていただき、同時に3つのゼミに対するコメントも用紙に記入していただいた。その結果、獲得票数上位3ゼミを「いいね！大賞」として表彰もした。

この発表会には学生・教職員はもとより、取材・調査先関係、一般市民、報道関係の皆さんなどの来場もあった。



フィールドワークの様子



合同成果発表会の様子

平成27年度「フレッシュマン・フィールド・セミナー」一覧

ゼミ名	概要	フィールド
赤坂ゼミ	本セミナーでは、「海の治安維持」に注目します。島根県沿岸の海の安全安心の中心的な担い手である浜田海上保安部（海上保安庁の浜田支部）に赴き、海上保安官の方からレクチャーをいただいたり、3年前に浜田に新たに配備された巡視船いわみの船内見学や、石見大崎鼻灯台の実地見学を通じて、県立大学の地元浜田市が、海で日本各地、さらには海外とどのようにつながっているのか、「地域」と「国際」の往来を意識しつつ考察していきたいと思えます。	・浜田海上保安部
瓜生ゼミ	☆新シリーズ「地域の“生活”実態を知る その1：浜田在留の外国人の生活実態を知る」 「地方創生」が叫ばれる中で、地方の若年労働力は年々減少している。従来からの地域産業としては、他のアジア地域から“研修生”の名目で、労働力を確保しているという実態がある。この“浜田在留の外国人の生活実態”を調べ、彼らとの交流を通して、互いの文化的相違や価値観の違いを知ることが、県大生が自らの将来（就職活動）や地域の活性化策を考える上で役立つ材料となろう。	・株式会社中村水産 ・弁護士法人佐和法律事務所
大橋ゼミ	このセミナーでは、島根あさひ社会復帰促進センター（「あさひセンター」）及びグラントワ（島根県芸術文化センター）を取り扱います。 このセミナーの目標は、あさひセンター及びグラントワの現状を調査し、現在いろいろと取られている施策を考え、課題を発見し、さらに出来得ればこれらをより活性化させるための策を提案することです。	・島根あさひ社会復帰促進センター ・グラントワ（島根県芸術文化センター）
川中ゼミ	「島根県立少年自然の家での体験活動」 島根県立少年自然の家での体験活動をとおして、より良い社会教育について検討する。 受講生には体験活動の意義について、知的理解だけでなく実感を伴った理解を得てほしい。そのためにも、自然の家での体験活動を共に楽しんでもらいたい。 本ゼミナールでは研究を深めるだけでなく、自然の家での体験活動をとおして、ゼミ生間の交流が活発になることや各受講生の成長も期待しています。 フィールド調査は11月21日～22日に一泊二日で実施する。	・島根県立少年自然の家
久保田ゼミ	テーマ：地域企業の事業展開 島根県を代表する道の駅／キララ多伎の運営会社である株式会社多伎振興を調査対象として取り上げ、同社の取組を調査することを通じて、企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、企業の抱える課題やその解決策、企業の事業展開の取組みについて学ぶことを目的とする。 具体的には事業所の見学や関係者へのインタビュー、道の駅／キララ多伎における来店客へのアンケート調査等を行う。	・道の駅キララ多伎（運営会社：株式会社多伎振興
西藤ゼミ	テーマ：私たちの暮らしを支えるインフラの役割 インフラは「社会資本」とも呼ばれ、私たちの暮らしを目立たないところで支えています。普段、目立たない存在ですが、それがなければ日常生活が不便になったり、今後の地域の発展も阻害されてしまいます。このゼミでは、私たちの社会や経済を支える様々なインフラについて、「誰が」「どのように」施設を整備・維持管理しているのか学びます。	・島根県浜田県土整備事務所 ・浜田港湾振興センター
田中ゼミ	「石州瓦の伝統と革新－亀谷窯業有限会社の事例から－」 本演習では、販路開拓、異業種連携、各種イベントや情報発信に精力的に取り組まれておられる亀谷窯業様の企業経営・マーケティングに関する取り組みを学ぶ。石州瓦企業の現状・課題について理解し検討を行うことで石州瓦の新たな可能性について考える。	・亀谷窯業有限会社 ・石州瓦工業組合

ゼミ名	概 要	フィールド
豊田ゼミ	国際的な視点で地域資源をみる 日本は世界から見てどのような地域なのでしょう。島根県の地域資源にはどのような特徴があるのでしょうか。このゼミでは、日本が行ってきた国際協力の取り組み事例を調べ、地域資源の新たな海外展開の可能性について探っていきます。また、海外事例から地域が学べることについて調べることを目的としています。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市観光交流課 ・石州和紙会館 ・独立行政法人国際協力機構 JICA中国
中川ゼミ	福祉現場における高齢者とのコミュニケーションに関する調査・分析を通して、高齢者の方とのより良いコミュニケーションのあり方について明らかにすることを目指します。 特定の高齢者福祉施設に赴き、高齢者の方と、スタッフ・学生との間のコミュニケーション（特に会話）についてビデオ撮影取材を行い、得られたデータについて、「会話分析」というアプローチから分析します。	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県内の特別養護老人ホーム
八田ゼミ	里山の自然環境を活かしてコケを栽培し、全国販売を行っている、江津市の「コケプロジェクト」に注目します。 コケは、昨今、ビルの屋上や壁面の緑化材として、また、ガーデニングや盆栽、コケ玉やテラリウムの素材として、大きな関心を集めています。今春、世界的庭園デザイナー・石原和幸氏の手によりリニューアルオープンした渋谷駅・ハチ公前花壇にも、江津のコケが使われ、話題となりました。 「コケプロジェクト」のこれまでの取り組みについて学ぶとともに、地域資源としてのコケの新しい可能性について考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ドクターリセラ ・江津市農林水産課
林秀司ゼミ	島根県の人口は長らく社会減が続いており、その対策として雇用の確保が課題となっている一方で、とくに中小企業について、人材確保（人手不足）と定着（早期離職）もまた課題となっている。そこで、当ゼミでは、とくに石見地方をとり上げ、企業の人材確保の状況や従業員の働き方などについて、聞き取り調査を行い、考察を試みる。	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社原工務所 ・株式会社タカハシ包装センター ・社会福祉法人梅寿会
林田ゼミ	浜田市水産業を復活させるにはどうすればよいか！ まず、浜田市水産業の現状や実態を知るために、浜田市水産振興課で浜田の水産業についての現状をお聞きし、次に株式会社シーライフでは、水産物ブランドや水産加工業についてヒアリングします。そして実際にセリや冷凍冷蔵倉庫などを見学し、そこから、今、浜田市で考えられている「浜田市水産業100億円計画」について、学生の視点から考え提案を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市水産振興課 ・株式会社シーライフ ・漁業協同組合 JFしまね浜田支所
藤原ゼミ	浜田市の産品政策と山海の産品リストの作成（第一次産品（未加工品）を中心に）。 すでに加工品については石見の4市5町の産品データベースおよびホームページを作成している。これを充実させるとともに、本年度は海や山の農林漁業の一次産品に注目し、情報を収集する。自然と生活について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生湯りサイクル農園 ・浜田市産業経済部
別枝ゼミ	「道の駅」を比較検討する 日本国内の「道の駅」の多くは、国道沿いにあり、その地方の特産品や食材などを販売したり、それらを用いた食事を提供する食堂が付設される場合もあります。 山口県萩（はぎ）市の「萩シーマート」も道の駅です。この施設は近年相当に注目をあびています。島根県邑智郡邑南町の「道の駅瑞穂」も近年人気のスポットになりました。これらと「ゆうひパーク浜田」は一体何処が違うのか？これらを比較調査して、道の駅の将来に向けた提言をするのが今年度FFSの目的です。 フィールドを4回訪ね、面接調査を行い、そこで食事もする予定です。フィールド調査の日は大学に戻る時間が夕方になるのでそのつもりでいて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうひパーク浜田 ・萩シーマート ・道の駅瑞穂

ゼミ名	概 要	フィールド
光延ゼミ	<p>「若者の投票率をいかに向上させるかー18歳への選挙権年齢引き下げと合わせてー」</p> <p>平成27年度の通常国会で、選挙権年齢を20歳から18歳に引き下げる公職選挙法改正案が成立した。この改正は、1945年に20歳以上の男女に選挙権が与えられて以来70年ぶりのことである。この結果、現在、高校生である3人に1人は有権者となって、2016年7月の参議院通常選挙からは投票できることになった。こうして新たに有権者になる若者は240万人も増加する。しかし、一方で、有権者の中でも、20歳代の、若い世代の投票率は依然として低い状況にある。そこで、このクラスでは、「若者の投票率をいかに向上させるか、18歳選挙権年齢の引き下げと合わせて、その方策を考えよう」という点から、調査研究を試みた。</p> <p>①島根県の状況を踏まえた上で、 ②中国地方の中でも、2014年度に、若者の投票率の向上方策で成功し、全国的にも有名になった岡山県や広島県の場合を調査し、 ③両者の比較から浮かび上がる方策について検討し、 ④その方策を報告書で提案した。</p>	<p>【行政関係者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県選挙管理委員会事務局 ・浜田市選挙管理委員会事務局 ・浜田市議会議員 <p>【報道関係者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国新聞社編集局 ・同 浜田支局 ・山陰中央新聞社西部本社 <p>【取材協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県選挙管理委員会事務局 ・岡山県選挙管理委員会事務局
渡部ゼミ	<p>津和野町の歴史的な文化財を活用した観光業の現状を調査し、課題を発見し、町の観光業を活性化するための振興策を提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津和野町

(※五十音順)

3) 地域から／地域への応援・情報発信

(1) 島根県立大学浜田キャンパス公開講座の開催

島根県立大学では、地域に開かれた大学として地域の方々の知的好奇心に応えるため、毎年度公開講座を開催している。

表：平成27年度公開講座 受講者数一覧

No.	テーマ カテゴリ	講師	所属	講座名	開催日	受講者数	平均 受講者数
1	石見に生きる～石見の元氣人が話す	林 千夏	グラントワ弦楽合奏団元代表・アンサンブルFlauceチェロ担当	チェロは紡ぐ～音楽のもたらす縁(えにし)～	6月6日	50	33.8
2		神 英雄	安来市加納美術館 館長	缶コーヒー発明物語～三浦義武の生涯～	7月17日	48	
3		益子原 照晶	NPO法人てごねっと石見 理事	住民主体によるまちづくり～観光資源化の取り組みを事例に～	9月30日	34	
4		渡辺 賢世	益田商工会議所青年部	地域の宝 萩・石見空港～益田商工会議所青年部による取り組みについて～	10月21日	20	
5		安藤 達夫	匹見ワサビ生産グループ「葵屋」	地域資源としての匹見わさび復活とその意義について	12月2日	17	
6	税金から見た日本	大橋 達郎	中国財務局検査管理官	90分 de 日本の財政	5月19日	321	211.2
7		永田 寛幸	広島国税局総務部長	税務行政の現状	6月3日	280	
8		大田 孝治	独立行政法人国際協力機構 中国国際センター 所長	税金でなぜ国際協力を行うのか？ 政府開発援助の役割	6月15日	65	
9		隅田 隆之	神戸税関 浜田税関支署長	「税関」その役割 ～安全・安心な社会を目指して～	6月24日	217	
10		太田 明秀	日本年金機構 浜田年金事務所 所長	年金制度ってなんのためにあるんだろう？	7月8日	173	
11	世界を旅する	董 茜	浜田市国際交流員	中国を旅する	6月10日	25	21.5
12		キンバリー・モーガン	浜田市国際交流員	イギリスを旅する	7月8日	19	
13		ナタリア・ポルホドエワ	島根県国際交流員	ロシアを旅する	7月15日	18	
14		ニュン グエン ティー ゴク	浜田市国際交流員	ベトナムを旅する	10月7日	24	
15	大学へ行く	村井 洋	浜田キャンパス	今、平和を考える	6月3日	27	25.2
16		瓜生 忠久	浜田キャンパス	戦後70年 社会の動きとマス・コミ報道～映画・TV・新聞の動向を中心に～	6月10日	25	
17		木村 秀史	浜田キャンパス	ゼロからわかる資産運用入門～賢く財産を守ろう！～	7月1日	44	
18		飯田 泰三	浜田キャンパス	旧那賀郡木田村(現浜田市旭町木田)が生んだ二人の傑物①佐々田 懋	7月8日	24	
19		鄭 世桓	浜田キャンパス	ことばに関するちょっと面白い話～似ているようで異なる日本語と韓国語のことばくらべ～	10月7日	18	
20		久保田 典男	浜田キャンパス	企業の経営分析～フレッシュマン・フィールド・セミナーの取組から～	10月14日	20	
21		西藤 真一	浜田キャンパス	私たちの生活と交通・人を乗せて走る自動車	10月28日	22	
22		松田 善臣	浜田キャンパス	私たちの生活と交通・買い物弱者		21	
23		金野 和弘	浜田キャンパス	マイナンバー制度ってなんだろう？	11月4日	36	
24		飯田 泰三	浜田キャンパス	旧那賀郡木田村(現浜田市旭町木田)が生んだ二人の傑物②服部之総	11月11日	17	
25	村井 洋	浜田キャンパス	「判断力」はいかが？	12月9日	23		

受講者数 計1,588名(1講座あたり64名)

平成27年度は25回の講座が開講され、延べ1,588名の参加者を得た。前年の参加者は23回、576人だったため、参加者が大幅に増加している。もっとも出席者が多かった講座は、大橋達郎氏(中国財務局検査管理官)による「90分 de 日本の財政」で321名の参加が得られた。次いで、永田寛幸氏(広島国税局総務部長)による「税務行政の現状」であり、参加者は280名だった。

平成27年度では、学生によるゼミ研究報告を市民向けに公開する学生研究発表会を2回行った。春学期にヘネベリー・スティーヴンゼミ、林裕明ゼミ、京都大学の溝端佐登史ゼミが、秋学期に生田泰亮ゼミが報告した。

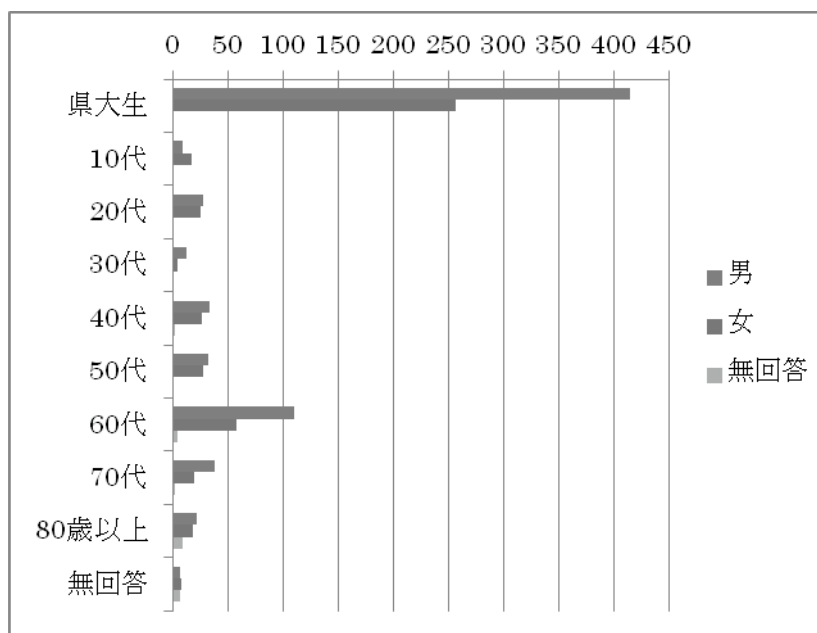
受講者には、できる限りアンケートに回答していただくことにしている。その結果について、以下で簡単にまとめる。

表：アンケートに回答した段階での参加回数

1回目	473名
2回目	286名
3回目	159名
4回目	46名
5回以上	109名
不明	124名
合計	1,197名

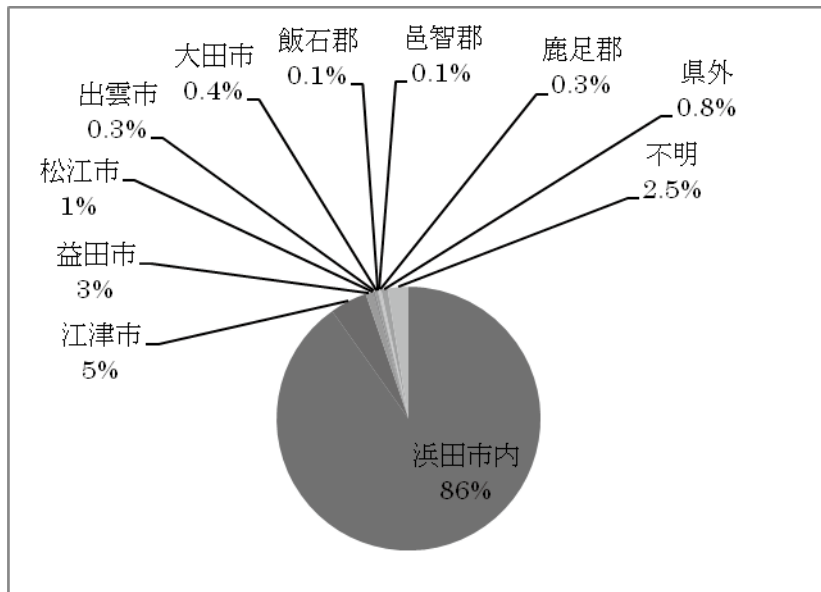
公開講座のリピーター獲得は重要である。この点について、上の表で示される参加者数を確認すると、複数回参加している受講者も比較的多い。

図：回答者の年齢と性別（単位：人）



回答者（出席者）の年齢層は比較的高齢の男性に偏っている。受講者の掘り起しが必要である。

図：回答者の居住地 (N=1,140)



回答者（受講者）のほとんどは浜田市内に在住する方々である。昨年度よりも江津市や益田市など、隣接する市の在住者の参加者が増えたが、それでも8割以上が浜田市の在住者であることから、市内からの参加者を探る必要がある。

表：公開講座会員登録の有無

有	227名
無	855名
不明	73名

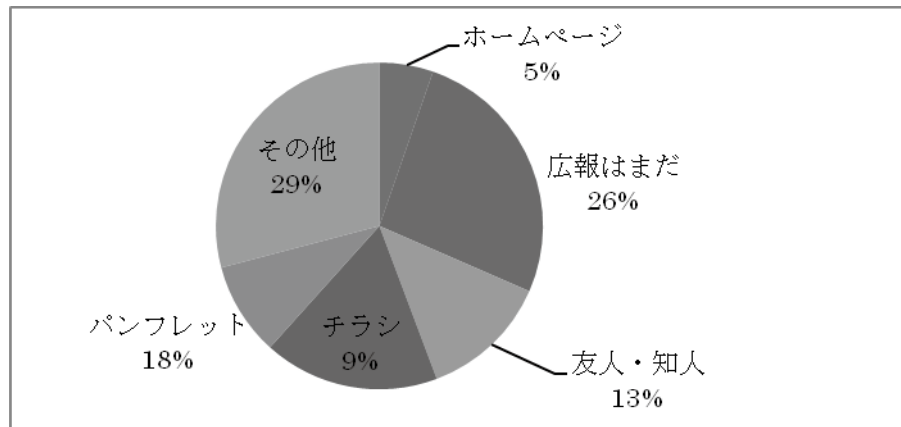
昨年度、公開講座会員登録者は136人だったが、今年度175人に増加した。公開講座参加者の内、公開講座会員は14%である。

表：公開講座に出席する理由

① 知識を深めたいから	565名
② このテーマについて勉強をしているから	142名
③ 知識を獲得し、仕事や地域活動に活かしたい	122名
④ 生涯学習として関心があったから	143名
⑤ 講師（またはゼミ活動）に関心があったから	76名
⑥ 大学主催の行事だから	289名
⑦ 交友関係を広げたいから	1名
⑧ 公開講座に出席することが楽しいから	41名
⑨ その他	150名

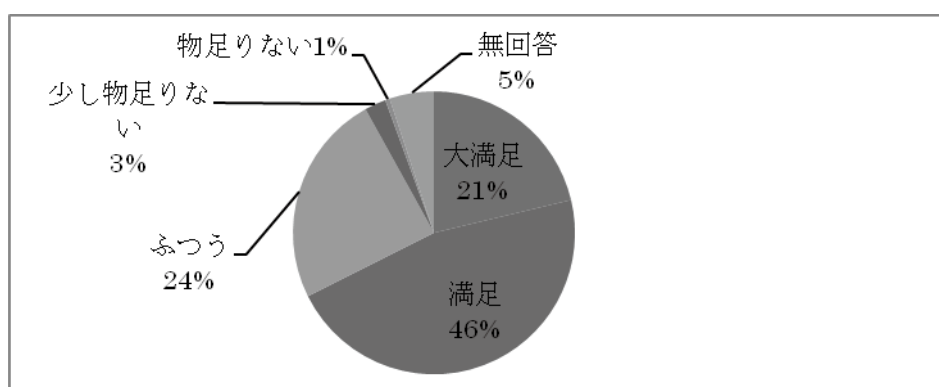
公開講座への参加理由は、「知識を深めたいから」という項目が最も高く、続いて「講師（ゼミ活動）に関心があったから」、という項目が続く。昨年度と比べると、「講師（ゼミ活動）に関心があったから」、「このテーマについて勉強をしているから」、そして「知識を獲得し、仕事や地域活動に生かしたい」という理由による参加者が増加している。受講生の関心の強いテーマで、勉強したことを仕事や地域活動に生かしたいと考える意欲ある受講生が増加しているようである。

図：公開講座を知った経緯（N=1,278）



公開講座を知った経緯は、「広報はまだ」と回答するひとが36%に上り、ホームページなど電子媒体を通じて情報を得る人は少ない(12%)。これは受講者が比較的高齢者に偏っていることも一つの要因であると考えられる。

図：公開講座の満足度（N=1,176）



公開講座に出席する人の満足度は、「満足」「大満足」と答えた人が82%にのぼった。おおむね、公開講座の内容は市民に好評を得たと判断できる。

(2) 学生研究発表会

○第4回学生研究発表会（平成27年7月2日開催）

島根県立大学浜田キャンパスにおいて、「学生研究発表会」が開催されました。本研究会は、本学「大学COC事業」における、浜田キャンパス「キャンパス・プラットフォーム」の研究発表の場のひとつとして位置づけられています。

本研究会を通じて、学内での学生の研究成果を地域の方々へ報告する機会を設け、より広く地域市民の皆さまに知っていただくことと同時に、地域の皆さまからの質問やアドバイスを受けつけることによる学生の教育への効果も期待しています。今回は、ヘネベリー・スティーブン講師のゼミから1組、林裕明准教授のゼミから3組、京都大学の溝端佐登史教授のゼミから1組の報告がありました。学生、教職員を含めた大学関係者、市民の方々合わせて約65名の参加があり、活発な質疑が行われました。

【ヘネベリー・スティーブンゼミ】

テーマ：「石見アクティブライフの提案－若者の地域満足度向上を目指して－」



【林 裕明ゼミ】

テーマ：「島根県における地域課題とグローバル化の進展について」

- 1) 「島根県における伝統芸能の海外輸出について」
- 2) 「外国人労働者の流入による地域活性化の現状と課題」
- 3) 「島根県の貿易および国際観光の現状と課題」



【京都大学 溝端 佐登史ゼミ】

テーマ：「京都からみた島根－地域構造の比較を通して－」



○第5回学生研究発表会（平成28年2月16日開催）

島根県立大学浜田キャンパスにおいて、今年度2度目の学生研究発表会が開催されました。本研究会は、本学「大学COC事業」における、浜田キャンパス「キャンパス・プラットフォーム」の研究発表の場のひとつとして位置づけられており、今回は、平成27年度の成果報告となる「第3回全域フォーラム」のプログラムの一つとして開催いたしました。

本研究会を通じて、学内での学生の研究成果を地域の方々へ報告する機会を設け、より広く地域市民の皆さまに知っていただくことと同時に、地域の皆さまからの質問やアドバイスを受けつけることによる学生の教育への効果も期待しています。今回は、生田泰亮准教授のゼミから報告がありました。



(3) はまだ灯2015（平成27年10月26日開催）

総合政策学部3年生 赤川 陽平

平成27年10月26日、浜田市の「いのちと安全安心の日」に制定されているこの日に、「灯りが繋げる市民の絆」をスローガンに、島根県立大学浜田キャンパスにて「はまだ灯2015」が開催された。「はまだ灯」は当時、浜田キャンパス1回生であった、平岡都さんが犠牲となった痛ましい事件を受け、このような事件を繰り返さないため、忘れないために、学生や市民の有志が集まり平成24年にはじまったイベントであり、今回で第4回を迎えた。「はまだ灯」は平岡さんへの追悼の意を捧げるとともに、事件の風化防止、防犯意識の啓発を目的としている。今回は、浜田市が主催である浜田市安全安心なまちづくり推進協議会と連携して開催し、多くの参加者の皆様にお越しいただいた。また、企画、運営には多くの学生、市民が携わり、地域や学生、市民との繋がりを再確認することができた。



【浜田市犯罪のない安心で安全なまちづくり推進協議会（浜田市主催）】

「浜田市犯罪のない安心で安全なまちづくり推進協議会」は文字通り、浜田市を犯罪がなく安全で安心して暮らすことができる良い街にするための取り組みを推進している会で、2年に一度、推進大会を開催している。そして開催年には、趣旨が重なる「はまだ灯」と連携させていただいている。

今回の大会では、本学の講堂にて浜田市長、警察署長の挨拶、あいさつ川柳優秀作品の発表と表彰、しまね防犯サークルSCOTの活動紹介、島根県警察音楽隊による演奏等が行われた。あいさつ川柳は、挨拶をテーマにした川柳で、地域のつながりを活性化するためのあいさつ運動を広げることを目的としている。市内全小学校児童を対象に「あいさつ川柳小学生の部」の募集を開始して、今年で6年目の取り組みとなった。また昨年より、一般の部を設け、公民館を通して広く市民にも呼びかけるために募集を開始している。今年度は小学生の部で272点、一般の部で136点の応募があった。

【はまだ灯2015】

「はまだ灯」では、学長挨拶、学生代表挨拶、Garden of Hopeの植栽、キャンドルナイト等をコミュニティプラザ、カフェテリアで行った。また、「笑顔でつなぐ、安全安心の光」のテーマをもとに、市民が作る手づくりキャンドルホルダーにキャンドルを灯す「スマイルキャンドルホルダー」、学生・市民の笑顔を撮影しブースに展示する「スマイルピクチャー」、光で夜空に絵や文字を書きスクリーンに映し出す「光でスマイルプロジェクト」を企画し実施した。学生代表による挨拶では、はまだ灯を通して防犯意識を今一度見直し、安心、安全なまちづくりを市民全体で取り組んでいきたいと述べた。



(4) 島根中央高等学校学習支援

平成24年度からおこなわれている、大学生による島根中央高校1年生を対象とした学習支援も今年度で4年目となった。今年度は川本中学校の3年生も参加し、生徒の皆さんの進路意識の向上や学習向上へとつながるようサポートをおこなった。英語と数学の2科目をマンツーマン方式で学習サポートし、定期試験に向けて午前・午後と分けておこなった。今年度も下記の通り年3回実施した。

実施日	参加人数	
	大学生	高校生（中学生）
6月21日（日）	8名	8名（2名）
9月26日（土）	5名	7名（1名）
11月21日（土）	6名	9名



(5) 大学生による小中学校学習支援事業の取り組み

大学生による小中学校学習支援事業は、浜田市内の小中学校に学生（学習支援員）を派遣し、週1～2回（1回1～2時間）程度、放課後の補習時間に学習指導を実施する事業となっている。この事業は島根県立大学と浜田市との連携協力協定（平成19年5月18日締結）に基づき、学力向上を目的として平成19年度から中学生を対象として開始し、平成24年度からは小学生も対象に含め、実施している。平成27年度は2校の小学校、4校の中学校が参加し、延べ187名の学生が従事した。

平成27年度派遣先	
浜田市立第一中学校	浜田市立松原小学校
浜田市立第二中学校	浜田市立三隅小学校
浜田市立東中学校	
浜田市立金城中学校	



(6) 匹見中学校学習等支援

総合政策学部2年生 川本 晃太

5月30、31日の2日間に渡り、匹見中で学習支援と野球部の練習の補佐を行いました。

1日目は、学習支援をしました。前は野球部員のみが対象でしたが、今回は他の生徒も交えて行いました。テストの結果を踏まえて見直しをして、具体的にどこをどう間違えたのか等、生徒の質問に答える形で一緒に勉強しました。私達の中学時代では習わなかった問題もあって、教えるのには苦労しましたが、生徒は積極的に質問してくれて円滑に進めることが出来ました。また、勉強以外にも大学の話もしました。生徒は興味津々に聞いてくれて、時間が経つにつれて仲良くなって、とても楽しい交流になりました。学習支援を終えた後に、一部の生徒が私達の為に琴を演奏して、感謝の気持ちを伝えてくれました。琴の演奏は初めて聞いたので、貴重な体験でした。

2日目は、野球部の練習に参加しました。今回で2回目ということもあって生徒も慣れていて、前回よりも積極的に話しかけてくれて、野球に関するアドバイスも求めてきて、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。3年生にとっての最後の大会が近いということもあり、部員たちは前回に増して一生懸命練習に励んでいました。人数が少ないので、普段は実践的な練習をすることが難しく、私たちが参加したときは実践的な練習に多くの時間を費やしました。キラキラした目でボールを追いかける部員たちを見ていると、中学時代を思い出しました。練習を終えた後は、私たち大学生が1人ずつ話をして、エールを送りました。なかなか的確なアドバイスをするのは難しかったですが、部員たちが真剣に聞いている姿を見てホッとしました。

今回のボランティア活動を通じて、地元の大学生と中学生が交流するということは素晴らしいことだと感じました。このように違う世代の学生同士で話す機会はあまりないですし、お互い良い刺激をもらうことが出来るので、またボランティア活動をしたいと強く感じました。

(7) 中学生の島根県立大学訪問

○益田市立匹見中学校との交流事業

7月8日（水）、益田市立匹見中学校の2年生10名が初めて浜田キャンパスへ訪問頂き、昨年度から交流のある本学ソフトボール部の学生4名とお出迎えをしました。



【ランチ交流会】

はじめに匹見中学生と本学学生と一緒に昼食。自分の好きなメニューの食券を購入し、談笑しながらのランチタイムを楽しみました。



【講義見学】

続いて本学の林田吉恵准教授が担当する3年生のゼミ活動の見学をしました。

匹見中学生は一人ずつ自己紹介をして、その後は本学学生たちの議論を真剣に聞き入っていました。学生主体で進めるゼミ活動に驚きもあったのではないのでしょうか。



【キャンパス見学】

本学2年生の川本晃太さんが案内役となって、浜田キャンパス内の見学を行いました。どの施設に行っても、匹見中学校とのスケールの違いに驚きながらも目を輝かせながら、見学する姿がとても印象的でした。



【学生発表・意見交換】

本学2年生の川本晃太さんが自身の学生生活についてクイズを取り入れながら、学んでいることの紹介や日々の過ごし方を紹介しました。

意見交換では匹見中学生からの質問に答えたり、学習や部活動のアドバイスをしたりと、終始笑顔の絶えない時間となりました。



【記念撮影】

最後に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。学生発表のクイズにも出てきたオロリンの登場に皆さん喜んでくれました。

匹見中学生にとっても本学学生にとっても、大変貴重な時間を共有することが出来ました。



○川本町立川本中学校との交流事業

9月18日（金）、川本町立川本中学校の3年生21名が浜田キャンパスへ訪問頂きました。

【学生発表】

本学3年生の恩田麻有さん、小畑亜稀子さんがキャンパスライフについて発表しました。ボランティア活動、海外研修でのエピソードや自身の中学・高校生時代を振り返り、アドバイスやエールを送りました。



【キャンパス見学】

続いて、浜田キャンパス内の見学を行いました。楽しみにしていたという広い階段教室に大興奮。教壇に立つ姿も見られました。

その他にメディアセンター、講堂を見て回りました。



【ランチ交流会】

待ちに待ったランチタイムです。好きなメニューを選び、本学学生と一緒にランチを楽しみました。



【記念撮影】

バスに乗り込もうと外に出ると、サプライズで本学マスコットキャラクターのオロリンが登場し、あっという間に囲まれ大人気でした。最後にオロリンと記念撮影。

短い時間ではありましたが、川本中学生にとっても本学学生にとっても、大変貴重な時間を共有することができました。



○美郷町立邑智中学校との交流事業

11月20日（金）美郷町立邑智中学校の3年生18名が浜田キャンパスを訪問頂きました。

【ランチ交流会】

邑智中学生の皆さんは自分の好きなメニューを選んで、本学学生と本学教員のマニング講師とランチを楽しみました。



【キャンパス見学】

お昼ご飯を食べたから歩こう！！ということで、続いてはキャンパス内の見学。

両側ガラス張りの廊下から紅葉を眺めたり、普段見ることのない階段教室、600人収容可能な講堂を本学学生と一緒に見学し、メディアセンターでは本学職員の説明を聞いた後、自由時間を設け、大学生活を体験してもらいました。



【学生発表】

本学2年生の廣井修平さんが自身の大学生活やボランティア活動での経験談を発表しました。邑智中学生の皆さんから、沢山の質問もいただきました。廣井さんから邑智中学生へ送った「私の宝物は〇〇です。と言えるもの・ことをいっぱい持ちましょう！」という言葉が印象的でした。



【記念撮影】

最後に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。邑智中学校の皆さんにも大人気でした。

短い時間ではありましたが、邑智中学生にとっても本学学生にとっても、大変貴重な時間を共有することができました。



(8) 県大農園「すこっぷ」

総合政策学部2年 西村 樹一

県大農園すこっぷは、弥栄町の小熊集落で農業を中心に活動する学生団体です。島根県西部県民センターの平成26年度学生地域活動補助事業に採択され、発足しました。

○日々の活動

毎週日曜日がすこっぷの活動日となっています。1日の流れとして、午前は、草取りや畑を耕すなど、すこっぷの活動をメインに作業しています。ちなみに今年度は、里芋、さつまいも、春菊、白菜を作りました。そして午後からは、小熊集落のお手伝いをしています。また、道路清掃などの人数が必要な作業があるときは、1日中お手伝いをすることもあります。



○弥栄産業まつり

11月3日、昨年度に引き続き、弥栄町内で開催された「弥栄産業まつり」に出店しました。里芋の巾着とさつまいもスティックを販売しました。「去年、春菊コロッケを販売していた大学生だよな?」と声をかけてくださる方もおられ、とても嬉しかったです。また、販売ブースの隣には活動の様子を撮った写真の展示も行い、活動の様子を知ってもらうことが出来たと同時に、写真を通して地域の方との交流を深める事が出来ました。



○集落との交流

今年度は、集落の新年会とおつかれ会に参加しました。集落の方だけでなく、浜田市弥栄支所の職員と一緒に食事をしながら、お話をする機会はあまりないので、学生にとって、とても有意義な時間となりました。新年会では学生一人一人がかくし芸を披露して、集落の方が喜んでくれたことがとても嬉しかったです。



(9) MAKE DREAM 2015

平成27年12月11日（金）に、本学交流センターコンベンションホールにて本学の学生が浜田の地域資源を活用したビジネスプランを提案する島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM 2015」最終プレゼンテーションが開催された。

「MAKE DREAM」は、地域の企業や行政などに学生の発案する若者ならではの自由な発想を聞いてもらい、新産業や新事業創出の参考にしてもらう「アイデア提供型」の企画であり、今回で5年連続5回目の開催となる。

同コンテストの運営は主催であるはまだ産業振興機構をはじめ、行政、支援機関の幅広い協力を得て行われている。審査にあたっては、久保田章市浜田市長を審査委員長とし、浜田商工会議所、石中央商工会、日本政策金融公庫浜田支店、島根県商工会連合会石見事務所といった各協力機関からトップクラスの方々が審査員として参画した。

コンテストには合計17組からの応募があり、書類選考を通過した上位5組が最終プレゼンを実施した（表）。

その結果、2年の廣井修平さんが発表した、未成線である「広浜鉄道今福線」の遺構を観光タクシーで巡るプランである「地元の隠れた観光資源を活かして観光タクシーで巡る『広浜鉄道今福線』」が最優秀賞を受賞した。また、3年の近藤晋さんが発表した「浜っこYOSAKOIまつり」が優秀賞を、2年の小瀧真由さんが発表した「Iwami Kagura Stadium」が共感大賞（来場者が最も共感したプランへ投票し、その得票数が最も多いものに対して贈られる）を受賞した。

また今年度は、地元企業と連携し地産地消の取組みを行っている県立大学生の発表も行われた。

表 「MAKE DREAM 2015」最終プレゼンテーション発表者とテーマ（発表順）

氏名	学年	発表テーマ
丸尾一真	3年	金城でライダーズミーティング
廣井修平 （最優秀賞）	2年	地元の隠れた観光資源を活かして 観光タクシーで巡る『広浜鉄道今福線』
小瀧真由 （共感大賞）	2年	Iwami Kagura Stadium
近藤晋 （優秀賞）	3年	浜っこYOSAKOIまつり
石田直也 （準共感大賞）	3年	海産物と石州和紙の奇跡のコラボレーション HAMADA-NOTE

（文責：久保田典男）

(10) 高大連携の取り組み

島根県立大学と島根県立浜田高校及び島根県立江津高校とはそれぞれ平成16年、平成19年に高大連携包括協力協定を締結し、相互の特色を活かした連携活動を行っている。

【島根県立浜田高校】

平成16年11月18日高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講義、ゼミ開放、教育実習生の受け入れ、学生交流など）を継続的に実施

平成27年度の活動状況

- 6月19日 高文連社会科学部門 オリンピアード（生徒研究発表会）（本学教員が審査員として参加）
- 10月13日 高大連携推進会議
- 10月27日 大学見学会（定時制1～4年生34名参加）
- 10月29日 アカデミック・インターンシップ（全日制普通科2年生116名参加）

【島根県立江津高校】

平成19年6月1日高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講義、ゼミ開放、英語授業開放、学生交流など）を継続的に実施

平成27年度の活動状況

- 6月19日 高文連社会科学部門 オリンピアード（生徒研究発表会）（本学教員が審査員として参加）
- 7月3日 高大連携推進会議
- 7月8日 大学見学会（普通科2年生81名参加）
- 8月24日～9月1日 アーリー・エクスポージャープロジェクト授業「地域社会体験」（学生の実習先として江津高校にご協力頂く）
- 12月15日 アカデミック・インターンシップ（普通科2年生18名参加）



大学見学会の様子



アカデミック・インターンシップの様子

(1) NEARセンター市民研究員制度

日本海をはさんで北東アジア地域に接する島根県とその周辺には、様々な視点からこの地域に強い興味を抱き、知識を蓄えている市民がいる。島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEARセンター）では、日本を含む北東アジア地域の研究に強い興味を持っている市民の方々にNEARセンターの市民研究員として共に研究していただく「NEARセンター市民研究員制度」を平成18年度に創設した。



研究会の様子

市民研究員はNEARセンターに所属し、研究会等への参画を通じて自らの興味関心に基づく研究活動に取り組むほか、研究テーマで意気投合した本学の大学院生と研究計画書を練り上げ、学内審査のうえ研究助成を受けて共同研究を行うなど、大学院生の研究に刺激を与えていただいている。平成23年度に立ち上げたグループ・リサーチ・サロンは、平成25年度に「北東アジア地域の歴史と文化」・「北東アジア地域の現在的課題」の2つに再編成され、関連する領域の共同研究や情報交換を行う場となっている。

NEARセンター研究員（本学教員・NEARセンター嘱託助手で構成）は、「NEARアカデミック・サロン」に登壇し、専門研究分野の最前線を市民研究員向けにわかりやすく解説するなどして市民研究員制度を通じた地域への「知」の還元を心がけている。

平成27年度における成果として、市民研究員自らの企画により以下の研究会を開催した。

1. 日時／場所：平成27年7月11日（土）14：00～17：00

講義・研究棟1階 中講義室3

内 容：第1部：市民研究員の発表報告

- ・「日本の戦略的外交」…柳田利雄（市民研究員）
- ・「イスラームの国家原則と法規範」…小林久夫（市民研究員）
- ・「石見焼と石州瓦の流通圏について」…阿部志朗（市民研究員）

第2部：特別講演

久保田章市浜田市長

「『元気な浜田づくり』の取り組みと島根県立大学への期待」

2. 日時／場所：平成27年12月5日（土）14：00～16：30

講義・研究棟1階 中講義室5

内 容：第1部：NEARセンター・アカデミック・サロン

豊田知世研究員「NEARセンター現地調査－朝鮮訪問・視察報告」

第2部：市民研究員発表／大学院生との共同研究中間報告

(1) 市民研究員 研究発表

- ・「服部文庫の島根県関係資料」…若林一弘（市民研究員）
- (2) 大学院生との共同研究中間報告
 - ・岡崎秀紀（市民研究員）
 - ・大橋美津子（市民研究員）

また、年度内に3回開催する市民研究員全体会の一環として毎年度行っている「市民研究員研究発表会」及び「市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会」を以下のとおり開催した。

○平成27年度 市民研究員研究発表会

日時：平成28年1月30日（土）13：30～16：30

場所：交流センター2階 コンベンションホール

内容：市民研究員による研究報告・勉強会成果発表

- 1) 「出版報告『島根とお雇い外国人技術者たち—島根の近代化産業遺産物語』」
…岡崎秀紀（市民研究員）
- 2) 「日本古代史のリスタートをめざして—2015年の取組みのまとめ」
…田中文也（市民研究員）
- 3) 浜田市での地域活性化に関する政策提言勉強会グループ
- 4) 「中国人日本語学習者の漢字能力」…若林一弘（市民研究員）

○平成27年度 市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会

日時：平成28年2月28日（日）13：30～18：00

場所：講義・研究棟1階 中講義室3

- 内容：1) 「内モンゴルのホルチン地方におけるシャマンの成巫前後の生活変化について」
[報告者] 白音淖爾（北東アジア開発研究科 博士前期課程1年）
岡崎秀紀（市民研究員）
- 2) 「戦前日本在満総領事の役割—満州事変前の奉天総領事（事務代理）を中心に」
[報告者] 文雪梅（北東アジア開発研究科 博士前期課程2年）
迫義人（市民研究員）
- 3) 「長白山地域の持続可能な発展に対する長白山保護開発区管理委員会の役割」
[報告者] 石聡（北東アジア開発研究科 博士前期課程2年）
大橋美津子（市民研究員）

(12) 講演会講師等・審査会委員等

◇講演会講師等

教員名	依頼元	名 称	期間
生田 泰亮	島根県高等学校文化連盟社会科学部門	高文連社会科学部門オリンピックアード（生徒研究発表会）審査員	H27.6.19
井上 治	島根県社会福祉協議会	シマネスクくにびき学園講師	H27.5.29
岡本 寛	島根県労働組合総連合	浜田地域労連・新春の集い学習会講師	H28.2.5
八田 典子	島根県社会福祉協議会	シマネスクくにびき学園講師	H27.9.18
松尾 哲也	兵庫県立姫路飾西高校	進路研修会講師	H27.7.3

◇審査会委員等

氏 名	発令元	名 称	期間
本田 雄一	島根県商工会議所連合会会頭	日米学生会議 in 島根サポート委員会役員（委員）	H27.8.8～H27.8.14
赤坂 一念	島根県教育委員会教育指導課	スーパーグローバルハイスクール運営指導委員	H26.8.1～H28.3.31
生田 泰亮	江津市政策企画課	江津市指定管理候補者選定委員会委員	H24.11.1～H27.10.31
生田 泰亮	江津市	江津市都市計画審議会委員	H25.12.2～H27.10.31
生田 泰亮	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会研究課題評価専門委員	H27.4.1～H29.3.31
生田 泰亮	石見ケーブルビジョン(株)代表取締役	「速報！ジャスタタイム石見」番組出演	H27.4.1～H28.3.31
岩本 浩史	浜田市	浜田市情報公開審査会並びに浜田市個人情報保護法審査会及び浜田市個人情報保護審議会委員	H25.10.1～H29.9.30
岩本 浩史	美郷町	美郷町情報公開審査会委員ほか	H26.10.1～H28.9.30
岩本 浩史		大田市情報公開審査委員ほか	H26.10.30～H29.10.29
岩本 浩史	国土交通省中国地方整備局	江の川河川整備懇談会委員	H27.4.1～H28.3.31
江口真理子	島根県教育委員会	島根県総合教育審議会委員	H25.8.26～H27.8.25
大橋 敏博	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員	H28.3.1～H30.2.28
大橋 敏博	益田市市長	益田市公平委員会委員	H25.1.1～H28.12.31
大橋 敏博	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員	H26.3.31～H28.2.29
大橋 敏博	しまね文化ファンド受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社	しまね文化ファンド運営委員	H27.4.1～H29.3.31
大橋 敏博	独立行政法人日本芸術文化振興会	芸術文化振興基金運営委員会地域文化活動専門委員会委員	H27.8.1～H28.6.30
大前 太	浜田市教育委員会	浜田市立図書館協議会委員	H26.4.1～H28.3.31
岡本 寛	浜田市	浜田市情報公開審査会並びに浜田市個人情報保護法審査会及び浜田市個人情報保護審議会委員	H25.2.14～H29.9.30
岡本 寛	益田市総務部総務管理課	益田市行政情報公開不服審査会委員	H26.5.14～H28.5.13
沖村 理史	浜田市くらしと環境課 浜田市市民生活部環境課（H26～）	浜田市地球温暖化対策地域協議会幹事	H26.4.1～H28.3.31
沖村 理史	（財）三瓶フィールドミュージアム財団 （財）しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	H26.4.1～H28.3.31
沖村 理史	島根県環境生活部環境政策課	島根県環境審議会委員	H26.7.1～H28.6.30
川中 淳子	浜田市市民福祉部調整室 浜田市地域福祉課地域福祉係（H24.4～）	浜田市保健医療福祉協議会委員	H26.5.1～H28.3.31
木村 秀史	浜田市総務部行財政改革推進課	浜田市指定管理者選定委員会委員	H27.10.15～H28.10.14
久保田典男	しまね地域産業活性化協議会	しまね地域産業活性化協議会委員	H25.4.1～H28.3.31
久保田典男	NHK広島放送局	日本放送協会中国地方放送番組審議会委員	H25.6.1～H27.5.31
久保田典男	NPO法人石見銀山協働会議	石見銀山基金事業選定委員	H25.6.1～H28.3.31
久保田典男	島根県商工労働部雇用政策課	島根県雇用表彰委員会委員	H26.4.1～H28.3.31
久保田典男	浜田市旭支所産業課	旭温泉水有効活用事業起業プランコンテスト審査会委員	H27.3.5～H28.3.31
久保田典男	石見ケーブルビジョン(株)代表取締役	「速報！ジャスタタイム石見」番組出演	H27.4.1～H28.3.31
久保田典男	大田市政策企画課	大田市道の駅整備検討委員会委員	H27.5.1～H28.3.31
久保田典男	公益財団法人 ちゅうごく産業創造センター	「空き家のリノベーション等を通じた地域振興方策調査」委員会副委員長	H27.5.1～H28.3.31
久保田典男	浜田市総務部行財政改革推進課	浜田市指定管理者選定委員会委員	H27.10.1～H28.10.31
久保田典男	江津市政策企画課地域振興室	平成27年度江津市ビジネスプランコンテスト審査員	H27.10.14～H27.12.13

氏名	発令元	名称	期間
ケイン エレナン	江津市小中高連携英語研究会	江津市小中高連携英語研究会プロジェクト会議	H27.6.26～H27.6.26
小池 律雄	一般財団法人島根県教職員互助会	一般財団法人島根県教職員互助会評議員	H25.1.1～H29.3.31
小林 明子	公益財団法人しまね国際センター	しまね国際センター評議員	H25.5.31～H28.6.30
小林 明子	浜田市人権同和教育啓発センター	浜田市男女共同参画推進委員会委員	H26.4.1～H28.3.31
小林 明子	公益社団法人日本語教育学会	日本語教育学会研究集会委員会委員（中国地区）	H27.7.1～H29.3.31
小林 明子	島根県教育庁教育指導課	平成27年度島根県高校生等留学支援事業に係る選考委員	H27.8.1～H28.3.31
金野 和弘	島根県環境生活部	島根県県民いきいき活動促進委員会委員	H27.4.1～H29.3.31
金野 和弘	石見ケーブルビジョン(株)代表取締役	「速報！ジャスタイム石見」番組出演	H27.4.1～H28.3.31
西藤 真一	浜田市観光交流課	広浜鉄道今福線シンポジウム（仮称）実行委員	H26.9.30～H28.3.31
西藤 真一	浜田市社会福祉協議会	浜田市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員	H27.3.15～H29.3.14
西藤 真一	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H27.4.1～H29.3.31
西藤 真一	川本町まちづくり推進課	川本町「まち・ひと・しごと」総合戦略策定検討委員会委員	H27.5.1～H27.10.31
西藤 真一	島根県浜田県土整備事務所	地域整備方針検討会議オブザーバー	H27.8.25～H28.3.31
田中 恭子	島根県総務部財政課	改革推進会議委員	H23.4.1～H28.3.31
田中 恭子	公益財団法人しまね産業振興財団	（公財）しまね産業振興財団評議員	H24.6.18～H29.3.31 平成28年定時評議員会 終結の時まで
田中 恭子	雲南市産業振興部商工観光課	雲南市地域経済振興会議委員	H26.5.29～H28.5.28
田中 恭子	島根県教育委員会社会教育課	島根県社会教育委員	H26.8.27～H28.6.23
田中 恭子	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト 「MAKE DREAM2015」 最終プレゼン発表会にかかる審査員	H27.12.11～H27.12.11
田中 恭子	島根県しまね暮らし推進課	島根県立しまね海洋館指定管理業務評価委員	H25.4.1～H28.1.31 H28.2.1～H31.1.31
寺田 哲志	島根県技術管理課、薬事衛生課	島根県公共事業再評価委員会委員	H27.4.1～H29.3.31
豊田 知世	株式会社山陰経済経営研究所	島根県の森林資源のエネルギー活用に関する調査	H27.11.2～H28.3.28
西藤 真一	石見ケーブルビジョン (株)代表取締役	「速報！ジャスタイム石見」番組出演	H27.4.1～H28.3.31
八田 典子	島根県土木部都市計画課	しまね景観審査委員会委員	H13.4.1～H28.3.31
八田 典子	国土交通省中国地方整備局	社会資本整備審議会専門委員（道路分科会 中国地方小 委員会委員）の兼任	H26.11.26～H28.11.25
林 秀司	島根県都市計画課	島根県景観審議会委員	H20.2.1～H28.1.31
林 秀司	島根県土木部河川課	島根県河川整備計画検討委員会委員	H24.4.1～H28.3.31
林 秀司	（公財）ふるさと島根定住財団	公益財団法人ふるさと島根定住財団評議員	H24.6.27～H29.3.31 平成28年定時評議員会 終結時まで
林 秀司	島根県農林水産部農業経営課	島根県中山間地域等振興対策検討委員会委員	H27.1.30～H28.12.18
林 秀司	浜田市地域政策課	浜田市総合振興計画審議会委員	H27.4.1～H28.3.31
林 秀司	島根県農林水産部農村整備課	島根県農地・水保全管理支払交付金検討委員会委員	H27.4.1～H29.3.31
林田 吉恵	島根県商工労働部商工政策課	島根県商工労働部指定管理者候補選定委員会委員	H26.8.27～H29.3.31
林田 吉恵	島根県税務課企画・市町村税グループ	島根県固定資産評価審議会委員	H26.12.15～H28.12.14
林田 吉恵	浜田市上下水道部	浜田市下水道審議会委員	H27.1.15～H29.1.14
光延 忠彦	益田市政策企画課	益田市行財政改革審議会委員	H26.3.1～H28.2.28
光延 忠彦	浜田市総合調整室	浜田市行財政改革推進委員会委員	H26.8.27～H28.8.2
福原 裕二	島根県総務部総務課	第3期竹島問題研究委員	H24.10.28～H27.6.30
藤原 真砂	島根県都市計画課	島根県都市計画審議会委員	H26.2.1～H28.1.31
藤原 真砂	浜田市地域プロジェクト推進室	「瀬戸ヶ島埋立地活用研究会」委員	H26.5.9～H28.3.31
藤原 真砂	国土交通省中国地方整備局	中国地方整備局事業評価監視委員会委員	H26.6.27～H28.3.31
藤原 真砂	益田市長	益田市総合戦略審議会委員	H27.7.1～H27.10.31
藤原 真砂	浜田市社会福祉協議会	浜田市社会福祉協議会合併10年の歩み（仮称）編纂委員	H27.7.1～H28.3.31
松田 善臣	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H25.4.1～H29.3.31
光延 忠彦	益田市行革推進課	益田市行財政改革審議会委員	H28.3.1～H30.2.28

《出雲キャンパス》

平成27年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成27.4.1～平成28.3.31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	吉川 洋子	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね看護交流センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
教 授	佐藤 公子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：産公学連携、広報・広聴活動に関すること)
准教授	三島三代子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：生涯学習に関すること)
准教授	吾郷ゆかり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：広報・広聴活動に関すること、学生ボランティアに関すること)
助 教	阿川 啓子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：生涯学習、広報・広聴活動に関すること)
助 教	小川 智子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：学生ボランティア、教育機関との連携に関すること)
助 教	林 健司	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：教育機関との連携、広報・広聴活動に関すること)
助 手	小村 智子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 (担当：産公学連携に関すること)
管理課 企画員	宇原 均	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員
管理課 地域コーディネーター	安食 里美	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員

出雲キャンパスの地域連携活動概要

しまね看護交流センター長

(地域連携推進センター副センター長) 吉川 洋子

しまね看護交流センターは、出雲キャンパスの地域連携活動の拠点として設置され、地域貢献窓口を一元化したことで地域コーディネータによる対応数も年々増え、地域における認知度も上昇してきています。また、しまね看護交流センターでは、島根県立大学出雲キャンパスの全教職員の協力により、キャリア・看護研究支援部、地域連携推進部において、一般住民向け、専門職向けの多くの事業を展開し、概ね高い評価を得ることができました。島根県立大学の大学憲章は「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現することをうたっています。センターの事業はその実現に向けて一步一步進んでいます。

今年度は、新たに2つの事業をスタートしました。一つは島根県からの支援を受け、センターに認定看護師養成部を置き、認定看護師緩和ケア分野の教育機関として、日本看護協会の認可を受けることができました。このことは、センター開設にあたり目指した看護実践の質の向上に資する専門知識や技術の教授をするもので、緩和ケアの充実を目指す看護職および病院関係者の期待に添い、地域の医療を守り社会に貢献するものです。二つめは、地域貢献の一環として、出雲市駅前にサテライトキャンパスをオープンし、半年間の試行期間を経て、平成28年度の公開講座の準備を行いました。「いずも健康市民大学」、「論語教室」のプログラムなどサテライトキャンパスを会場とする市民公開講座を開催予定です。

また、しまね看護交流センターは、COC事業「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」の出雲キャンパスプラットフォームとしての機能を持っています。COC事業も3年目を迎え、地域のニーズに応え、地域と協働していくことを念頭に、教育、研究活動を続け、徐々に成果が出てきています。3キャンパスボランティア研修会・交流会を開催し、3キャンパスの学生がボランティア活動をテーマに準備から実施を通して交流を図りました。

さらに、円滑な事業の推進にむけて、島根県、出雲市、島根県看護協会、県内医療施設、県内看護師等学校養成所、近隣コミュニティセンター等からの代表者を構成員とし、センター事業に関し検討する「出雲キャンパスプラットフォーム会議」を、今年度は2回開催し、センターの活動について意見交換を実施しました。さらに、年度末に外部委員会を開催し、外部からの評価を受け、適切なセンターの事業運営の改善に活かしていきたいと考えています。

地域連携活動報告

プロジェクト名：生涯学習

I. 公開講座

1. 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供することを目的とした。

2. 事業内容

- * 担当教員：助教以上の教員 * 講座内容：健康に関するもの、一般教養など
- * 受講対象：一般 * 開催時期：原則平成27年5月～12月
- * 開催場所：本学、その他県内の施設
- * 開催時間：本学の場合は9：00～21：00とする。ただし、学外の場合は当該施設と相談。
- * 開催方法：

- ①原則として担当教員が運営するが、求めに応じて地域連携推進委員会（地域連携推進部）が支援する。
- ②公開講座の参加申込みの受付は事務局が行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が申込み者に通知する。
- ③客員教授に公開講座に参加していただくこともある。
- ④修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し、準備する。
- ⑤手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し、手配は担当教員が行う。託児を行う場合、大学で傷害保険に加入する。
- ⑥担当教員は、「受講者入館証」を事前に管理課から受け取っておき、当日受付で受講者に配布する。

3. 事業実施状況

対象は看護専門職を除く一般とし、全11講座・計23回の講座を開講した（表1）。広報として地元新聞の折り込み広告の範囲を広げ（山陰中央新報、新出雲地区を追加）、その他、ポスター・リーフレットを県内163施設に送付した。近隣（鳶巣・川跡・高浜）のコミュニティーセンターには客員教授の公開講座の開講前に別途チラシを配布した。さらに今年度は6講座を出雲市市民活動支援課生涯学習係との連携講座とし、広報いずもを活用した広報を行った。公開講座実施後は速やかに講座の様子をホームページに掲載した。

4. 成果

今年度は昨年度の8講座から11講座に増加したが、のべ557名の受講者総数であった。

受講者からは概ね高評価が得られていた。ホームページにもその様子を速やかに更新したため新しい情報を常に提供することができた。

5. 課題

折り込みチラシの配布範囲を拡大したが、受講者は前年度比91.2%に減少した。客員教授の公開講座が専門職向けのテーマであったことも一因であると考えられる。次年度は地

域向けのテーマを考慮すると共に、引き続き他機関との連携も図り、受講者を確保していく必要がある。

表1 平成27年度公開講座実施状況

講座番号	開催日	講師	講座名	受講者数
1	H27.5.9(土)	林健司 川瀬淑子	いきいき生活へのご提案－骨粗しょう症と腰痛予防のお話－ 第1回	9
	H27.10.17(土)	林健司 石橋鮎美・小村智子	いきいき生活へのご提案－骨粗しょう症と腰痛予防のお話－ 第2回	16
2	H27.5.26(火)	松本玄智江 吉川洋子 平井由佳 岡安誠子 川瀬淑子	模擬患者(SP)養成講座①	8
	H27.6.23(火)		模擬患者(SP)養成講座②	9
	H27.7.15(水)		模擬患者(SP)養成講座③	16
	H27.9.15(火)		模擬患者(SP)養成講座④	14
	H27.10.13(火)		模擬患者(SP)養成講座⑤	14
3	H27.6.6(土)	和田由佳	笑いヨガでみんないいきき 第1回	28
	H27.9.12(土)	石橋鮎美	笑いヨガでみんないいきき 第2回	16
4	H27.8.21(金)	濱村美和子 狩野鈴子 嘉藤恵	子そだて・孫そだて 今むかし	8
5	H27.9.5(土)	松本玄智江	アロマで心と身体のリフレッシュPart.10 ①	14
	H27.9.12(土)		アロマで心と身体のリフレッシュPart.10 ②	15
	H27.9.19(土)		アロマで心と身体のリフレッシュPart.10 ③	15
6	H27.9.10(木)	三原かつ江 米原ゆきみ 松原さだ子	病院ボランティアの心を伝えたい	19
7	H27.9.11(金)	別所史恵	生活習慣病シリーズ 第1回「慢性腎臓病」	18
	H27.9.18(金)	三島三代子	生活習慣病シリーズ 第2回「心臓病」	17
	H27.9.25(金)	平野文子	生活習慣病シリーズ 第3回「がん」	17
8	H27.10.3(土)	林健司 茂富良太	インフルエンザの予防と対策	5
9	H27.11.6(金)	吾郷ゆかり 阿川啓子 伊藤将寛	在宅介護を助けてくれるものと人々 ～これからは在宅介護を始めるひとのために～ 第1回	5
	H27.11.7(土)		在宅介護を助けてくれるものと人々 ～これからは在宅介護を始めるひとのために～ 第2回	13
10	H27.6.21(日)	長島玲子 井上千晶 吉川憂子	先輩パパ・ママ&赤ちゃんに学ぼう！ 初めての妊娠・出産・子育て 第1回	45
	H27.11.15(日)		先輩パパ・ママ&赤ちゃんに学ぼう！ 初めての妊娠・出産・子育て 第2回	34
11	H27.6.10(水)	戸枝陽基 山本順久	客員教授公開講座 子どもの在宅支援を促進する医療－福祉の連携	202
合計				557

※第10講座「先輩パパ・ママ&赤ちゃんに学ぼう！」第1回参加者内訳

赤ちゃん:13名(生後2か月～6か月)、両親:11組(22名)、母親のみ:2名、プレパパ・ママ(4組=8名)

※第10講座「先輩パパ・ママ&赤ちゃんに学ぼう！」第2回参加者内訳

赤ちゃん:8名(生後3か月～7か月)、両親:6組(12名)、母親のみ:2名、プレパパ・ママ(6組=12名)

※第11講座「子どもの在宅支援を促進する医療－福祉の連携」参加者内訳

出雲C:185名、浜田C:17名

Ⅱ. 地域・団体主催による出前講座

1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

2. 事業内容

しまね看護交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求め、ホームページに出前講座の様子を掲載する。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

3. 事業実施状況

出雲キャンパスの教員が平成27年度に開催可能なテーマを一覧表にして、依頼方法の詳細とあわせてホームページに掲載した。また、テーマ一覧のチラシを作成し、随時配布し、出雲産業フェア2015でも配布した。

講師派遣依頼は平成27年4月から平成28年3月まで継続的にあり、地域連携推進部生涯学習分野で38件の依頼があった。そのうち5件は調整が困難で断るに至ったが、計33件の依頼に対し出前講座を実施した（表2）。

平成28年度も実施予定であり、平成28年度に開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にしてホームページに掲載し、チラシ原稿を作成した。

4. 成果

今年度は33件の依頼を受けて出前講座を実施した。依頼元は多岐にわたったが、昨年度と比較して依頼時の混乱は少なかった。謝金の用意や依頼に時間的余裕が必要なことをホームページやチラシに記載した事が効果的であったと考えられる。

5. 課題

希望のテーマに関連する教員を紹介するなど、一部の教員に負担がかからないよう、昨年度に引き続き調整を図ったが、実施教員は偏る傾向があった。今後も、希望テーマの偏りについては講座担当教員の負担を考慮し、依頼元のニーズを聞きとりながら、必要に応じて他の教員を紹介するなどの調整を図っていく必要がある。

また、教員からの出前講座の実施報告書の提出が少なく、ホームページに実施状況を十分反映させることが出来なかった。次年度は随時教員に提出を求めるとともに、活動状況の広報の仕方についても検討していく必要がある。

表2 平成27年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

番号	依頼元	実施日	実施教員	テーマ・内容
1	大社コミュニティセンター	4月30日	林健司助教 川瀬淑子助教	「日々笑って元気に過ごすために」 骨粗鬆症の予防、腰痛予防と対策、健康チェック
2	鳶巣コミュニティセンター	5月30日	山下一也副学長	鳶巣慶人会総会講演会 テーマ「高齢者が健康でいきいきと暮らすために大切なこと」
3	大社コミュニティセンター	6月8日	小川智子助教	介護予防教室「白うさぎ」 テーマ「回想法」
4	日御碕コミュニティセンター	6月9日	加藤真紀講師	自主企画事業「健康学習」における介護予防教室 テーマ「熱中症対策」
5	平田楽園クラブ連合会 第5楽園クラブ	6月22日	吉川洋子教授	「出して元気 腸を整える」
6	平田楽園クラブ連合会	6月26日	祝原あゆみ助教	「高齢者の熱中症予防」
7	社会福祉法人たいま山秀峰会	6月25日	山下一也副学長	「認知症にならないためには『きょうよう』と『きょういく』」
8	出雲市食のボランティア連絡協議会	6月30日	山下一也副学長	「認知症予防の食生活について」
9	遙堀コミュニティセンター	7月9日	松本玄智江准教授	「女子カアアップ いきいき講座」 テーマ「うんちのうんちく」
10	川跡長生会	7月19日	山下一也副学長	「認知症予防」
11	大社コミュニティセンター	8月10日	平塚知子助教	介護予防教室「白うさぎ」 テーマ「回想法」
12	ケアはうす寿生の郷	9月16日	山下一也教授	「認知症について」
13	平田楽園クラブ連合会	9月25日	小田美紀子講師	「元気で長生きするための日常生活について」
14	平田ふれんどりーハウス	9月26日	長島玲子准教授	「骨盤底ケアが生む快適ライフ」
15	連合島根	10月20日	和田由佳助教	「笑いヨガ」
16	浜田市健康長寿課高齢者包括支援係	10月25日	山下一也副学長	市民講座 テーマ「認知症の非薬物的予防と治療」
17	川跡長生会	10月26日	伊藤奈美助教	「歯周病と歯周病予防について」
18	島根教弘友の会出雲支部	10月29日	山下一也副学長	「認知症の予防について」
19	大田市温泉津公民館	11月8日	松本玄智江准教授	まちセンフェスタ2015 テーマ「頭と体の筋力トレーニング！ ～介護年齢を10歳延ばそう～」
20	佐香コミュニティセンター	11月29日	山下一也教授	生活習慣病予防講演会 テーマ「生活習慣病の予防について」高血圧を予防しよう！ ～塩分・砂糖は控えめに～
21	大社コミュニティセンター	12月14日	阿川啓子助教	介護予防教室「白うさぎ」 テーマ「回想法」
22	出雲市市民活動支援課	12月14日	石橋照子教授	出雲市生涯学習講座 テーマ「心の健康～ストレスと上手に付き合う方法～」
23	日御碕コミュニティセンター	H28年 1月12日	落合のり子准教授	「人間関係を良くする自己表現」
24	川跡長生会	1月25日	川瀬淑子助教	「腰痛予防とその対策」
25	JAいずも ふれあい福祉課	1月21日	小川智子助教	JA女子大学 テーマ「いつかは誰にもやってくるから」
26	大社コミュニティセンター	2月8日	齋藤茂子特任教授	介護予防教室「白うさぎ」 テーマ「自分の気持ちに寄り添うために」
27	美郷町教育委員会	2月9日	松本玄智江准教授	美郷町 美郷大学 テーマ「認知症予防」
28	上遙堀健康クラブ	2月10日	小田美紀子講師	「幸せになるために・プラス思考・プラス発想法」 「人間関係を良好に保つために必要なこと」
29	はまひるがの会	2月16日	齋藤茂子特任教授	「介護予防（回想法）」
30	出雲中央ロータリークラブ	2月22日	山下一也副学長	「認知症予防」
31	西田地区社会福祉協議会 西田地区明光会連合会	2月27日	山下一也副学長	「認知症予防」
32	川本町社会福祉協議会	3月4日	山下一也副学長	「認知症の症状と対応」
33	出雲医療生活協同組合	3月16日	祝原あゆみ助教	出雲医療生協組合員を対象とした健康教室 テーマ「高齢者の食事」

Ⅲ. ぎんざんテレビ出前講座

1. 目的

島根県立大学の教員が、石見銀山テレビが放映する出前講座を通して、地域住民に健やかな生活をおくるために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

2. 事業内容

出雲キャンパスの教員が担当し、テレビ収録を行う。収録した番組は石見銀山テレビが1年間で随時放映する。出前講座をまとめた記録誌「石見の風にのせて」を発刊する。

3. 事業実施状況

平成27年度ぎんざんテレビ出前講座は11名の教員と6名の協力者により、12講座の番組収録を行った（表3）。

平成28年3月に「石見の風にのせて-ぎんざんテレビ出前講座の軌跡8-」の発刊と、DVDの作成を行い、実習施設等の関係機関に配布した。

表3 平成27年度ぎんざんテレビ出前講座リスト

出演者	テーマ
1 山下一也副学長	島根県立大学出雲キャンパスの紹介
2 山下一也副学長	認知症予防最前線
3 高橋恵美子准教授	前向き子育てのヒント
4 小田美紀子講師	子育てコーチング
5 濱村美和子講師(協力者3名)	親子で楽しむベビーヨガ
6 井上千晶講師	赤ちゃんを迎える家族の心の健康～産後うつ・パタニティブルーズを知っていますか～
7 平井由佳講師	健康・・・それは、あなたの歯から。～歯は一生の宝物～
8 林 健司助教(協力者1名)	インフルエンザ予防と対策～正しい手洗いを覚えよう～
9 松谷ひろみ助教	あなたの“こころ”はお元気ですか？
10 小川智子助教	なぜ必要？本当に必要？がん検診
11 阿川啓子助教(協力者1名)	育児中のお母さんへ耳よりなおはなしかも
12 吉松恵子助教(協力者1名)	健康な生活に向けた食事を考えてみませんか～マクロビオティックについて～

4. 成果

昨年度の課題に地域住民に役立つ情報となるよう視聴者のニーズの見直しを行った。その上で、本年度は乳幼児の育児をしている世代や高齢者を対象としたテーマを多く実施した。今年度収録分は平成27年10月より放送している。

また平成26年度の収録内容を納めたDVDと記録誌を出雲産業フェア2015等で配布した。島根県西部への地域貢献の一つとして役立つと共に出雲キャンパスのPRにも活用できた。

5. 課題

平成27年度は視聴者のニーズについて情報収集し、それらのテーマでの開催を依頼した。次年度は放送地域の自治体との連携を図り、より地域に役立つ内容を工夫する。また、記録誌については十分な活用がなされておらず、費用対効果の側面から再検討する。

プロジェクト名：学生の地域交流・地域貢献

I-1. 学生ボランティア活動の促進：学生ボランティア研修会

1. 目的

研修を通して「ボランティアとは何か?」「学生がボランティア活動をする意義」について学ぶ。また、本学学生が実際に取り組んでいる活動を知り、「自分たちにできることは何か」「大学生活を通して何がしたいのか」について考える機会をもち、ボランティア活動への参加意欲を高める。

2. 事業内容

出雲キャンパスの学生を対象に以下の内容で研修会を計画した。同時に、遠隔テレビ会議システムを使い浜田・松江キャンパスともつないで3キャンパス合同で開催した。

- 1) ボランティア活動の報告（がんを考える学生の会「てんしんはん・いなたひめPJ」、3キャンパス合同ボランティア交流会、国際NGOフィリピンストリートチルドレンへの支援活動）
- 2) 講演会「ボランティア活動の魅力」

講師：NPO法人学生人材バンク 代表理事 田中玄洋氏

3. 事業実施状況

- 1) 日時：平成27年5月20日（水）13：30～15：00
- 2) 場所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室
- 3) 参加者：看護学部看護学科1年次生82名、教職員5名 合計87名、
浜田・松江キャンパスの参加者 若干名

4. 成果

研修内容について、参加した学生の8～9割が「ボランティアに魅力を感じた」、「興味をもった」、「ボランティアをしたいと思った」とアンケートに回答しており、研修会の目的を達成できたと思われる。



5. 課題

研修会では、多くの学生がボランティアへの参加意識が高まったと回答したが、実際のボランティア活動につながっているのかについては、検証する必要がある。

遠隔テレビ会議システムを用いて、3キャンパスをつないだ研修会を実施したが、他キャンパスの参加者は少なかった。今後も3キャンパス合同でのボランティア研修会として開催する際は、早期からの日程調整等、開催の方法、研修会の周知方法について検討が必要である。

I-2. 学生ボランティア活動の促進：学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア保険の実施

1. 目的

学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア保険は、学生が地域でのボランティア活動等に積極的に参加するための、学生ボランティア活動促進の制度である。マイレージ制度およびボランティア保険への学生登録を促し、適切な運用を実施する。

2. 事業内容

- 1) 学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア保険の説明と加入
- 2) 学生のボランティア活動実績に対しての、適切なポイントの付与
- 3) ボランティア活動中の事故に対する保険の手続き

3. 事業実施状況

- 1) 平成27年4月3日の新入生オリエンテーション時に、学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア保険について説明し、登録を促した。

- 2) 学生ボランティア・マイレージ制度実績（平成28年3月31日現在）

- (1) 学生ボランティア・マイレージ登録者数

看護学科1年：82名、2年：82名、3年：58名、4年：61名、
別科助産学専攻：2名 合計285名

- (2) ボランティア保険加入者数

看護学科1年：83名、2年：22名、3年：23名、4年：7名、
別科助産学専攻：2名 合計137名

- (3) ボランティア活動報告件数

1年次生：13件、2年次生：37件、
3年次生：18件、4年次生：23件、
別科助産学専攻：0件 合計91件

- (4) ボランティア保険利用の実績

0件

- 3) ボランティア活動報告書の提出件数が少ないことから、学生が提出しやすいよう様式を簡略化し、学生に周知した。

4. 成果

新入生に対しては、オリエンテーションを通じ、マイレージ制度、ボランティア保険について説明したことにより、ほとんどの学生が登録と加入をした。

5. 課題

今後は、新年度の学年別オリエンテーションにおいてボランティア保険の加入を促すなど、引き続き学生への周知を徹底し、登録と加入を促すよう取り組む。

表4 活動内容の内訳

活動内容内訳	参加した活動件数
障がい児支援・福祉施設イベント	10
大学・病院・行政各行事支援	13
健康イベント（啓発活動）	17
小中学生自然体験・合宿	13
コミュニティセンター等のイベント	1
地域交流・まちづくり	9
ボランティア活動研修	16
その他	12

I-3. 学生ボランティア活動の促進：学生へのボランティア情報提供

1. 目的

地域からのボランティア募集の情報を学生に周知しコーディネートすることで、学生ボランティア活動の推進をはかることを目的とする。

2. 事業内容

地域からの学生ボランティア募集に対し、しまね看護交流センターを窓口にして、学生に対し情報を学内掲示およびメール等で発信し、ボランティア参加学生を募る。その結果を、地域の依頼団体へ連絡する。

3. 事業実施状況

地域からの学生募集の実績（平成28年3月31日現在）：センター窓口を通じての依頼は、54件であった。

4. 成果

ボランティア情報の発信ならびにボランティアに関する相談窓口として、しまね看護交流センターが学生に認知されてきている。また、地域からも多様な依頼があり、学生への期待が伺える。

5. 課題

地域からの依頼に対し、参加する学生が少ない、もしくはいないケースが増えている。学生への情報提供の方法を工夫する等、検討が必要と考える。

また、学生の活動状況については、これまで学生が任意に提出する活動報告書により把握していたが、今後は、学生の活動実態をより把握できるように、ボランティア依頼があった団体に学生の活動状況を提供してもらうなど、依頼先との連携を深めていく。

I-4. 学生ボランティア活動の促進：3キャンパス合同学生ボランティア交流会

1. 目的

島根県立大学の松江、出雲、浜田の3つのキャンパスは、学部、学科が違うことからそれぞれのキャンパスに特色がある。継続的なキャンパス間の学生交流の一環として、3キャンパス合同でそれぞれのキャンパスの特色を活かしたボランティアを企画、実行することを目的とする。

2. 事業内容

3キャンパスの学生有志で構成されるメンバーが集い、平成27年度に実施する3キャンパスボランティア活動を企画して実施した。

3. 事業実施状況

【3キャンパス合同学生ボランティア交流会】

1) 日時：平成27年7月12日（日） 11：00～15：00

- 2) 場所：出雲キャンパス ゲストハウス
- 3) 参加者：学生 出雲キャンパス：5名、浜田キャンパス：8名、
松江キャンパス：4名 合計17名
教職員 3キャンパス合計8名
- 4) 内容：交流会&ボランティア企画
各班に分かれて、どのようなボランティア活動を行うか企画案を作成する
決定案「3キャンパスの学生が一緒になって出雲の観光地の清掃活動を行い、地域の
人々や学生同士の交流を深めよう!!」

【3キャンパス合同学生ボランティア活動&交流会】

- 1) 日時：平成27年11月8日（日）
10：30～16：00
- 2) 場所：鶴鷺コミュニティセンター
- 3) 参加者：学生 出雲キャンパス：13名、
浜田キャンパス：10名、
松江キャンパス：10名
合計33名
教職員 3キャンパス合計9名
- 4) 内容：鷺浦地域の落ち葉を拾い、地元の有機還元農法へ協力する



4. 成果

新たな学生も加わり、活動の拡大が図れた。当日は、悪天候のために落ち葉拾いのボランティア活動が実施できなかったが、まちづくりに取り組む地元の方（鶴鷺げんきな会・NPO法人ふるさとつなぎ）の心情や活動に触れ、ボランティアの意義について考える機会となった。

5. 課題

出雲キャンパスが中心となって実施したが、過密なカリキュラムの中でボランティア活動の企画から運営まで他キャンパス学生と話し合いを重ねて実施することは難しかった。学部の特徴を考慮した交流会やボランティア活動を検討する必要がある。

Ⅱ. 受託事業および地域活動への学生参加促進

1. 目的

出雲保健所などの受託事業および地域活動への学生ボランティアの参加を促進する。

2. 事業内容

出雲保健所の実施する学生コミュニケーション・ボランティアの補助事業協賛により在宅ボランティア・サークルの学生との連絡調整、学生の参加を促す。

また、地域からの依頼により、がんを考える学生の会「てんしんはん（いなたひめPJ）」などのがん撲滅のための啓発活動、その他学生が主体的に実施する活動を支援する。

3. 事業実施状況と成果および課題

表5 学生の活動状況と成果ならびに課題

	在宅ボランティアサークル	がんを考える学生の会 「てんしんはん」	献血推進サークル 「あかえんびつくん」
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ALS等により在宅療養されている方（6件）の自宅・施設に毎月訪問し、一緒に会話を楽しんだり、ネイルや折り紙等、患者さんやご家族の希望する「楽しみ」「趣味」「リラクゼーション」の支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がん・子宮頸がん検診受診率向上のための啓発活動を行った。 【活動の場】 本学大学祭、斐川健康祭り、雲南市成人式、松江キャンパス大学祭、出雲市役所主催街頭啓発活動 出雲市総合ボランティアセンター主催のネットワーク連絡会での活動報告 	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人出雲青年会議所からの依頼により、出雲市成人式典会場で、「二十歳の献血」事業に協力し、献血を呼びかけた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度より、島根大学の学生と共同で活動した。医療依存度の高い在宅療養者の居宅訪問は、療養者及び家族からの評価も高い。また、在宅療養を支えている他の専門職とも良好な関係で連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動に対して、ソロプチミスト日本財団の「学生ボランティア賞」を受賞した（11月11日）。受賞が意欲の向上につながった。 平成26年度に引き続き、子宮頸がん検診車を大学に呼び、検診の機会を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 他団体と協力して活動することにより、他団体の取り組みを理解することができ、今後の活動について考える機会となった。 地方紙で成人式での活動が紹介されたことにより、地域の方々に活動を知っていただくことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 島根大学の学生と共に訪問すると、1軒あたりの訪問人数が増え、利用者の負担があった。今後、訪問方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での活動には連絡調整や事前学習が重要であり、正課外活動として準備をしていく負担感があったが、年度の初めに活動の予定を立てて取り組むようにした。これにより活動を計画的に展開できた。今後も、学生および教員の負担を配慮したうえで計画的に展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域と連携をとりながら、学生が主体的に活動できるよう支援していく。

プロジェクト名：教育機関との連携

I. 小中高校等出前講義

1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施する。

3. 事業実施状況

表6 平成27年度 小中高校等出前講義実施一覧

実施日	テーマ・内容	実施教員	場所
6月11日	「生の楽習講座」	嘉藤恵助教	出雲市立塩津小学校
9月30日	バースディプロジェクト「性に関する学習」	嘉藤恵助教	出雲市立大社中学校
10月6日	「心と性に関する講演会」	狩野鈴子准教授	島根県立三刀屋高等学校
11月19日	バースディプロジェクト「いのちの楽習出前講座」	嘉藤恵助教	出雲市立多伎中学校
12月3日	親子のきずなはぐくみ事業	嘉藤恵助教	出雲市立佐田中学校
12月4日	親子のきずなはぐくみ事業	狩野鈴子准教授	出雲市立第二中学校
12月11日	「心と性に関する講演会」	狩野鈴子准教授	島根県立三刀屋高等学校掛合分校
1月20日	バースディプロジェクト「いのちの楽習」	嘉藤恵助教	出雲市立長浜小学校
1月21日	親子のきずなはぐくみ事業	嘉藤恵助教	出雲市立荘原小学校
1月27日	親子のきずなはぐくみ事業	嘉藤恵助教	出雲市立窪田小学校
1月29日	バースディプロジェクト「性（生）の楽習講座」	嘉藤恵助教	雲南市立加茂中学校
1月30日	バースディプロジェクト「命の楽習出前講座」	嘉藤恵助教	出雲乳児保育所
1月30日	「思春期のこころと体」	狩野鈴子准教授	松江市立八雲中学校
2月9日	親子のきずなはぐくみ事業	狩野鈴子准教授	出雲市立乙立小学校
2月16日	進路学習「プロに聞く」	別所史恵講師	出雲市立斐川東中学校

4. 成果

今年度は、バースディプロジェクト「いのちの楽習出前講座」、「親子のきずなはぐくみ事業」、性教育等15講義に講師を派遣した。講義を受講した児童や生徒からは、多くの質問や感想がでており、講座に関する関心の高さが伺えた。

5. 課題

多くの教員が出前講座のテーマを設定しているが、今年度は助産領域に関するテーマのニーズが多くみられ、担当教員に偏りが生じた。現代の教育現場における保健医療福祉の課題を捉え、出前講座を計画していくことも必要と考える。



Ⅱ. 小中学校体験学習

1. 目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中学校から依頼があった場合、学内教員で体験学習の内容を調整・計画・準備を行い実施する。

3. 事業実施状況

1) 日程：平成27年10月8日（木）

対象：出雲市立高松小学校5年生

内容：保健福祉体験学習

①高齢者の眼の見え方と指先の動き ②車椅子体験 ③ブラインドウォークとてびき

2) 日程：平成28年1月20日（水）

対象：出雲市立神西小学校3年生

内容：①ブラインドウォークとてびき ②高齢者の眼の見え方と指先の動き

③車椅子体験



4. 成果

今年度は、2件の依頼に対し体験学習を実施した。児童にとって、体験したことを生活の中で役立てるという気持ちが育まれている。

5. 課題

体験学習では多様なメニューを準備しており、複数の教員配置が必要となる。そのため、依頼元の小中学校と本学教員とのスケジュール調整が困難な場合がある。多くの教員で体験学習をサポートできるよう、依頼先には時間的余裕をもって開催希望日をお知らせいただくよう周知を図る。

プロジェクト名：産公学連携

I. 包括協定締結自治体との連携

1. 目的

自治体、関係団体、企業との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

2. 事業内容

包括連携協定を締結している松江市・出雲市・浜田市及び益田市との連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために学内調査を行い、合意に至った事業から順次実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 年間を通して、出雲市、松江市、浜田市、益田市との連携を図った。
- 2) 7月14日 出雲キャンパスにて、隠岐の島町との包括協定締結の調印式を行った。今後、人材育成、共同研究等諸分野における連携強化を推進していく。
- 3) 9月19日 出雲商工会館にて公益社団法人島根県看護協会と覚書締結の調印式を行った。覚書の締結により、両者が連携して実施する事業の更なる円滑化を図っていく。
- 4) 出雲市と協働で児童虐待防止推進研修事業、国富地区介護予防教室事業を行った。

4. 成果

今年度は新たに隠岐の島町と包括連携協定の締結、島根県看護協会と覚書の締結ができた。

※出雲市との協働事業については、以下Ⅱ－2、Ⅱ－3を参照。

5. 課題

包括連携協定を締結した自治体との人材育成等に関する事業や共同研究等が実現するように連携をすることが必要である。

Ⅱ－1. 受託研究

1. 目的

島根県独自の地域資源である「脳トレーニング＝七田式教育」「食＝えごま」を活用し、認知症予防を目的に高齢者が集まる仕組みを構築し、新たな「島根式」認知症予防システムの構築を目指す。

2. 事業内容

- 1) 事業名：「島根式」認知症予防システム構築コンソーシアム
- 2) 委託元：公益財団法人しまね産業振興財団
- 3) 内容：公益財団法人しまね産業振興財団が受託した、経済産業省「平成27年度健康寿命延伸産業創出推進事業」において、島根県立大学出雲キャンパスは株式会社しちだ・教育研究所、島根えごま振興会、島根大学医学部、自治体（江津市、

奥出雲町、川本町)と連携し、「えごま」「七田式教育」が認知症予防に効果を有することを検証する。

特に、出雲キャンパスは、「七田式教育」の認知症予防効果検証を担当する。

研究受託費：3,586,280円

4) 出雲キャンパス研究担当者：山下一也、伊藤智子、佐藤公子、加藤真紀

3. 事業実施状況

計画通り実施し、3月完了。

4. 成果

2月に測定完了後、3月中に研究の成果を取りまとめた。

5. 課題

特になし

Ⅱ-2. 受託事業：出雲市 国富地区介護予防教室事業（いきいきたぶし会）

1. 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスとの協働により、国富地区の高齢者を対象に地域のネットワークを活用した介護予防教室を試行し評価を行う。認知症予防プログラムを軸に介護予防教室を実施しながら地域のネットワークづくり、参加高齢者のニーズの把握、スタッフの育成に重点をおいた活動を行う。

2. 事業内容

1) 期間：平成27年4月22日～平成28年3月31日

2) 事業受託料：540,000円

3) 関係機関：出雲市高齢者福祉課・平田支所市民福祉課、国富コミュニティセンター、平田高齢者あんしん支援センター、健康づくり推進委員

4) 出雲キャンパス事業担当者12名

齋藤茂子、山下一也、伊藤智子、永江尚美、松本亥智江、小田美紀子、加藤真紀、祝原あゆみ、小川智子、平塚智子、藤原晃治、野田 純

3. 事業実施状況（★詳細については、平成27年度「いきいきたぶし会報告書」参照）

①地元説明会 出席者数 28名

②介護予防教室（ミニ講話・回想法・調査）13回 出席者数；延べ 323名

③研修会2回 出席者数；延べ 65名

④地元報告会；出席者数 18名



介護予防教室（回想法）

4. 成果

参加者がなかなか固定しない状況はあったが、毎回24～25名程度の参加があった。参加者の提案で、「ふるさと」を斉唱したり、ほけない5箇条を読み上げたり、片付けを皆さんでしてくださったりなど自主的な取り組みもみられた。健康づくり推進員の方々の板についた健康体操も効果的であった。また、あんしん支援センター作成の健康手帳も高血圧管理や一言メモに活用できた。

5. 課題

地域の高齢者支援ネットワークがさらに充実強化され、参加者のアイデアを活かした取り組みになることを期待したい。

Ⅱ－3. 受託事業：出雲市 児童虐待防止推進研修事業

1. 目的

年々深刻化する児童虐待の現状を市民一人ひとりが理解し、適切に対応できる力量を高めること、また、児童虐待が複雑、多様化する中で当事者を支援する地域の支援ネットワークづくりの強化が必要とされている。今年度は、日常の親子関係のあり方や虐待を予防する日常の子育て支援について理解を深め、また、保健医療福祉のネットワークづくりの強化に向け、関係者の行動につながる研修会とする。

2. 事業内容

事業は5年目を迎え、出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市子育て支援課）と出雲キャンパス（スタッフ9名）協働により3回の児童虐待対応講座を実施した。

会場は、島根県立大学出雲キャンパスの大講義室、217講義室を利用した。

事業受託料：400,000円

◆詳細については、「平成27年度児童虐待防止推進研修事業報告書第5巻」参照

3. 事業実施状況

プログラム概要と参加者数

第1回 日 時：平成27年7月19日（日）13：20～16：30

テーマ：「親子関係や子育てのあり方を考える」○参加者数：164名

第2回 日 時：平成27年9月19日（土）13：20～16：30

テーマ：「周産期における産み育てやすい環境づくり」○参加者数：79名

第3回 日 時：平成27年12月5日（土）13：20～16：30

テーマ：「ともに進める児童虐待防止のネットワークづくり

～顔の見える関係づくりをめざして～」○参加者数：52名



4. 成果

- 1) 児童虐待の現状については常に情報収集、情報提供に努め、市民の皆様にも周知する機会になっている。外部からの相談や問い合わせが増えている。
- 2) 講座の企画の段階から関係者を増やし、講座の内容を検討しているが、医療関係者の参加も増えてきた。
- 3) 顔の見える関係づくりを意図して多職種によるグループワークを実施し、ネットワークづくりにつなげた。

5. 課題

講座の内容や方法をさらに吟味し、市民の方々とともに虐待防止の機運を高める必要がある。

Ⅲ. NPO法人・関係団体・企業との連携：出雲産業フェア2015への出展

1. 目的

NPO法人・関係団体・企業との連携を図る。

2. 事業内容

NPO法人21世紀出雲産業支援センター主催の「出雲産業フェア2015」に出展した。

3. 事業実施状況

- 1) 日時：平成27年10月31日（土）、11月1日（日）10：00～16：00
- 2) 場所：出雲ドーム
- 3) 参加者：10月31日（土） 教職員 4名 学生 11名
11月1日（日） 教職員 6名 学生 6名
- 4) 展示内容：2ブース使用 看板は「島根県立大学 しまね看護交流センター」
 - 健康コーナー：血圧測定・血管年齢測定・体組成測定・オロリン体操映像放映
 - 研究コーナー：山下一也：エゴマ化粧品展示
石橋鮎美：ポスター展示
 - がんを考える学生の会「てんしんはん」による乳がん検診啓発活動
 - 学生の学習活動紹介：学習成果物展示
 - オロリン塗り絵・缶バッジ作成コーナー
 - 出雲市共同・受託事業の紹介

【配付】

- サテライトキャンパス公開講座チラシ、大学紹介冊子、広報誌オロリン
- ぎんざんテレビ出前講座の冊子とCD

4. 成果

- 1) 健康コーナーは、特に血管年齢は昨年同様、常に行列ができ関心の高さが伺えた。血圧測定では説明用のパネルを準備したが分かりやすく効果的であった。
- 2) 学生のボランティア活動の実演として、がんを考える学生の会「てんしんはん」の協力が得られ特に関心が高まっている乳がんについて啓発活動ができた。
- 3) 子どもたちの入場も多くオロリン塗り絵の缶バッジコーナーは好評であった。
- 4) メールや直接の声かけにより学生の参加が多くあり、健康コーナーでの測定や子どもたちへの対応を笑顔で積極的にしてくれた。学生からも「参加して楽しかった」「勉強になった」との感想があった。

5. 課題

- 1) 学生が自ら産業フェアで学習成果を発表したいと思うような仕掛け作りを考える。
- 2) 血管年齢や体組成測定の結果について改善の方法などわかりやすく説明できる工夫をする。



IV. 各種審議会・委員会等への参加

1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

2. 事業実施状況

平成27年度は60件の各種審議会、委員会へ所属し、活動を行った。

表7 平成27年度に教員が参加した審議会・委員会

依頼元	名称
厚生労働省健康局	保健師に係る研修のあり方等に関する検討会構成員
文部科学省初等中等教育局	教科用図書検定調査審議会専門委員
国土交通省中国地方整備局	「斐伊川河川整備アドバイザー会議」委員
島根大学医学部	医の倫理委員会委員
島根県環境生活部	島根県人権施策推進協議会委員
	島根県男女共同参画社会形成促進会議委員
島根県健康福祉部	島根県障がい者自立支援協議会発達障害者支援部会委員
	島根県自死総合対策連絡協議会委員
	島根県自立支援協議会 退院支援部会委員
	島根県准看護師試験委員
	島根県福祉サービス第三者評価推進委員会委員
	介護職員の行う医療的ケア関係業務に関する検討委員
	島根県介護保険審査会委員
	島根県社会福祉審議会委員
	島根県がん対策推進協議会委員
	平成27年度島根県看護教員継続研修検討会委員
出雲圏域健康長寿しまね推進会議構成員	
島根県商工労働部	島根県ヘルスケア産業推進協議会委員
島根県土木部	島根県立都市公園指定管理業務評価委員
	島根県河川整備計画検討委員会委員
	島根県建築審査会委員
	島根県都市計画審議会委員
	島根県営住宅（〈仮称〉松江市大輪団地）高齢者支援施設設置委員会委員
島根県出雲県土整備事務所	出雲地区新型インフルエンザ等対策推進会議構成員
島根県企業局	島根県企業局経営計画評価委員会委員
島根県立中央病院	島根県立中央病院地域医療支援病院運営委員会委員
	島根県立中央病院臨床研究・治験審査委員会委員

依頼元	名 称
島根県教育委員会	島根県立松江南高等学校（全日制課程）学校評議員
島根県立青少年の家	島根県立青少年の家運営委員会委員
出雲市総合政策部	出雲市ひと・まち・しごと創生総合戦略推進会議委員
出雲市健康福祉部	出雲市子ども・子育て会議委員
	出雲市介護保険運営協議会委員
	出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員
	出雲市健康のまちづくり推進会議及び食育のまちづくり推進会議委員
出雲市市民文化部	出雲市男女共同参画推進委員
	出雲市生涯学習委員
出雲市経済環境部	出雲市環境審議会委員
出雲市都市建設部	出雲市建築審査会委員
出雲市教育委員会	出雲市特別支援教育推進委員会委員
(社) 日本看護協会	統括保健師人材育成プログラム検討委員会委員
(社) 日本助産師会	日本助産学会誌専任査読委員
(社) 島根県看護協会	島根県看護協会 緩和ケアアドバイザー養成研修運営委員 →緩和ケア推進委員
	島根県看護協会 在宅ケア・訪問看護推進委員
	助産師出向支援事業協議会委員
	島根県看護協会 教育事業委員会委員
	島根県看護協会 学会委員会委員
	島根県看護協会 看護師職能委員会委員
	島根県看護協会 看護師職能委員会Ⅰ委員
島根県看護協会 保健師職能委員会委員	
(社) 鳥取県看護協会	鳥取県看護協会 委員会委員
(社) 島根県看護協会出雲支部	島根県看護協会 出雲支部役員
島根県住宅供給公社	島根県住宅供給公社理事
	島根県住宅供給公社職員採用試験委員
島根県土地開発公社	島根県土地開発公社役員
全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員
(財) 島根県建築住宅センター	一般財団法人島根県建築住宅センター評議員会委員
(財) 島根県環境保健公社	健診データ活用委員会委員
出雲市社会福祉協議会	社会福祉法人出雲市社会福祉協議会理事
島根県藤楓協会	島根県藤楓協会役員
(公財) 東京都医学総合研究所	難病ケア看護プロジェクト 研究協力

プロジェクト名：広報・広聴活動

I. ホームページ等を活用した最新情報発信

【ホームページによる情報発信】

1. 目的

センター事業の全体を把握し、情報発信の方針に基づきタイムリーに情報の精選と発信を行う。

2. 事業内容

地域連携推進部の事業内容について適宜ホームページにアップするよう、各事業担当者に働きかける。

3. 成果

他の部と連携を図りながら、センターの組織改正・事業計画に基づき、ホームページの構成を整理した。

各事業担当者が、地域に対し、タイムリーに情報発信するよう心がけ、年間を通じてセンターでの取り組みについて広く紹介することができた。

4. 課題

事業実施後の情報発信がタイムリーに行えないときがあった。定期的に事業担当者に成果報告について発信を促し、今後も、事業内容がよりわかりやすく、タイムリーに伝わるよう広報を実施していく。

【ラジオ番組による情報発信】

1. 目的

島根県立大学出雲キャンパスの教員、学生達が、FMラジオを通じて、等身大の話題や「看護学部」としての活動、研究内容等の情報を広く届けることにより、地域住民の方々に出雲キャンパスをより理解していただく機会とする。さらに、学生が「社会に向けて発信する」ことの楽しさ、難しさを学ぶことにより、人材育成を図る。

2. 事業内容

出雲キャンパスの教材編集室スタジオにおいて収録し、「FMいずも」(80.1MHz)で放送している。毎回、山下一也副学長と1～3名の学生が出演し、様々なテーマを取り上げ、学生の視点でメッセージを発信している。テーマは、時事問題から若者が日ごろ考えている世の中の悩みや疑問まで幅広く扱っている。

3. 事業実施状況

番組名：IZUキャンLife（毎週金曜日 20：30～21：00放送）

4. 成果

学生の目線で、大学生活の状況や学生が感じていること・考えていることを語ることで、出雲キャンパスの新たな魅力や出雲キャンパスの学生の「いま」を地域住民の方へ発信することができた。

5. 課題

将来的には本学の学生が、学生生活の様々な話題や課題を取り上げながら、学生主体で運営するのが理想と考える。

Ⅱ. キャンパスモニター会議

1. 目的

地域近隣および本キャンパス卒業生・修了生から成る出雲キャンパスモニターの方々へ、本キャンパスの運営や事業、地域貢献活動について説明し、理解を深めていただくと同時に、出された意見を本学の今後の活動に反映させることを目的とする。

2. 事業内容

本キャンパスの教育内容及び入試、就職・進学、国家試験状況に関する説明、並びに年間行事、地域貢献活動の説明、本学に関する意見交換、モニターへの委嘱状交付。

3. 事業実施状況

1) 第1回キャンパスモニター会議

- (1) 日時：平成27年6月26日（金）10：40～12：00
- (2) 場所：島根県立大学出雲キャンパス 大会議室
- (3) 参加者：キャンパスモニター（地域近隣モニター11名、卒業生・修了生モニター5名）、オブザーバー、副学長、しまね看護交流センター長、看護学部長、別科長代理、教務部長、キャリア副センター長、地域連携推進委員会委員（合計31名）

2) 第2回キャンパスモニター会議

- (1) 日時：平成28年3月8日（火）10：30～12：00
- (2) 場所：島根県立大学出雲キャンパス 217講義室
- (3) 参加者：キャンパスモニター（地域近隣モニター11名）、副学長、しまね看護交流センター長、看護学部長、別科長、教務部長、キャリア副センター長、地域連携推進委員会委員、事務室長、管理課長、教務学生課長（合計29名）



4. 成果

今年度から、地域近隣モニターの地域を5地域に拡大したことから、例年よりモニター希望の申込件数が多かった。意見交換会ではモニターの方々から本学の教育や事業に対する質問や、貴重な意見を沢山いただいた。

5. 課題

対話型の会議にすることで、より活発な意見交換会へとつながった。また、会議後もモニターの方々からメールやFAXで多くの意見をいただいたことから、引き続き対話型の会議にするなどの工夫が必要である。

Ⅲ. 第5回島根県立大学出雲キャンパス タウンミーティング in 隠岐の島町

1. 目的

隠岐の島町の保健医療福祉の取り組みや成果・課題を、町民・保健医療福祉の関係者・大学が共有し、これからの人材育成について意見交換を行う。

また、出雲キャンパスは、出された意見を今後の大学運営に反映する。

2. 事業内容

第一部は話題提供として隠岐広域連合立隠岐病院の小出病院長より「島後の地域医療の現状と課題」、崎看護部長より「隠岐病院看護部の役割」について話され、「島根県立大学看護学部紹介」として看護教育の立場から吉川教授より、学生の立場から齋藤愛莉さん（3年）・若葉志保さん（2年）より大学の学習内容やキャンパスライフなど話題提供をした。



第二部は第一部の内容を踏まえ、参加者からの感想や意見（隠岐病院や保健所職員より疾病予防対策啓発の必要性、行政への要望など）の交換が活発に行われた。

3. 事業実施状況

1) 日 時：平成27年9月13日（日）9：30～12：00

2) 場 所：隠岐の島町役場二階

3) 参加者：90名（隠岐の島町住民、保健・医療・福祉・教育関係従事者、行政関係者、高校生、山下副学長、吉川しまね看護交流センター長、松村事務室長、地域連携推進委員5名、看護学部学生13名）

4. 成果

意見交換により町民の方から「現状を知り有意義であった。なぜ隠岐病院で働くことを選ばないのか。この問いを学生に向けることで対策が見つけられる気がした。」などの意見が出された。アンケートの結果では「大変よかった」「よかった」の肯定的評価を合わせると93.5%の人が事業内容に「満足した」と回答していた。自由記載には「隠岐の島町や大学の人たちが頑張っていることがわかった」「各々の立場で今後何をすれば良いのか考えることができた」などの感想があった。平成27年度は5月より隠岐の島病院の関係者と連携して企画し、協力体制や学生の現地体験の機会を得るなど相互に成果があった。

5. 課題

開催にあたり病院や町の関係者と連携し種々の方法で広報を行ったが、当日は他の行事と重複したこともあり参加者は一般住民参加者が全体に占める割合としてはやや少なかった。主体的な住民参加型の仕掛けや仕組みづくり、テーマ設定などさらに広報を工夫する必要がある。参加者の要望より、看護師の継続教育の機会を大学運営に反映すること、大学生や高校生など若者の参加を促進し、多様な世代間の意見交換の機会にすること、タウンミーティング実施後も開催地で継続して取り組めるようにすること等が求められる。

Ⅳ. シニア・ジュニアキャンパスツアー

1. 目的

ツアーをとおしてキャンパスの広報活動を行うとともにシニア・ジュニアの健康学習の場とする。

2. 事業内容

しまね看護交流センターの紹介、授業見学、ミニ講話、施設見学、学食体験

3. 事業実施状況

【シニアキャンパスツアー】

1) 日 時：平成27年7月13日（月）11：00～14：00

2) 参加者：北浜コミュニティーセンター サロンボランティア27名

4. 成果

講義および施設見学にて大学における看護基礎教育について理解を深めていただく機会となった。

参加者の中には、学生に質問をする方もあり、関心の高さが伺えた。

5. 課題

ジュニア・シニアキャンパスツアーの応募は1件のみと少なかった。今後、多くの方に本キャンパスについて知っていただき、あるいは健康学習や社会学習として活用していただくためにも、ホームページ等の広報活動で広くPRしていく必要がある。



V. 島根県立大学出雲キャンパス サテライトキャンパスの準備

1. サテライトキャンパス設置目的

地域のニーズに応える効果的な市民公開講座・セミナーなどを開催し、市民の生涯学習の支援を行うと共に、大学と市民の交流の場とし、本学の教育研究、社会貢献を推進するための新たな活動拠点とする。

2. 事業内容・実施状況

出雲市、出雲市内の経済団体、出雲市議会で構成する「島根県立大学出雲キャンパス支援ネットワーク」の支援により開設。10月1日にオープニング式典を開催した。

公開講座の試行プログラムとして、「健康づくり講座」1)「アンチエイジングのための“食事”と“健康”」(全5回シリーズ)、2)「『食べ方』でここまで違う！医者が教えるお得なお話し」(全3回シリーズ)と、住民が大切ないのちについて話のできる場所となる“いきかたカフェ”(毎月第3土曜日)を開催した(表8)。また、平成28年度からの本格始動に向けて、市民の専門的な健康に関する学習要求に応え、学習機会を提供する公開講座について検討する「いずも健康市民大学」運営委員会の開催や「論語教室」などの新規事業について検討・準備を行った。

3. 成果

「健康づくり講座」の参加者は、60代から70代の参加者が多かった。参加者の感想には、「改めて食事の大切さを学んだ」などがあり、参加者の満足度は高かった。

4. 課題

駐車場がないため、参加者の理解を得る必要がある。また、次年度に向けての講座のプログラム作成にあたり、住民ニーズを踏まえた計画をしていく必要がある。

表8 サテライトキャンパス事業実績

健康づくり講座			
I. アンチエイジングのための“食事”と“健康”			
日程	テーマ	講師	参加人数
1 10月28日(水)	お口の変化 感じていませんか?～おいしく食べよう～	佐藤公子	10名
2 11月20日(金)	出してスッキリ腸元気～美肌健康法～	吉川洋子	12名
3 12月16日(水)	若さを保つ身体づくり～上手にとろうカルシウム～	加藤真紀	15名
4 1月19日(火)	からだが欲しがる栄養素～1日に必要な食品の目安、食品の選び方・食べ方について～	名和田清子	悪天候のため中止
5 2月16日(火)	簡単クッキング♪～不足しがちな食材(タンパク質、カルシウム)はこうして補う!～	名和田清子	16名
II. 「食べ方」でここまで違う！医者が教えるお得なお話し			
日程	テーマ	講師	参加人数
1 11月18日(水)	ここまで分かった！健康長寿な人の食べ方	秦 幸吉	9名
2 11月25日(水)	がんにならない食べ方(免疫老化を防ぐ)	秦 幸吉	7名
3 12月16日(水)	ボケない食べ方	秦 幸吉	8名
いきかたカフェ			
日程	テーマ	講師	参加人数
1 11月21日(土)	5歳の子どもの子どもが突然になくなった事例で自分ならば・・・	阿川啓子	10名
2 12月19日(土)	自分が旅立った後にしてもらいたいこと	花田梢	9名
3 1月19日(土)	私の神様、あなたの神様	園山純代	5名
4 2月20日(土)	スピリチュアルケアってなあに	今田敏宏	12名
5 3月19日(土)	“いのちをみつめる”とはどういうことだろう	園山純代	9名

《松江キャンパス》

平成27年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成27.4.1～平成28年3.31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	山下 幸恵	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね地域共生センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進会委員長
准教授	籠橋有紀子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (研究連携・COC研究紀要)
准教授	飯塚 由美	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (公開講座・学生ボランティア推進)
准教授	工藤 泰子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (教育連携)
管理課長	岩本 幸治	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員
嘱託員	藤原香緒里	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員
ソーシャルラーニング・ コーディネーター	赤名 文	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員 (学生ボランティア推進担当)
しまね地域 共生センター	片寄 成美	<ul style="list-style-type: none"> ・健康栄養学科専門コーディネーター
	山尾 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・保育学科専門コーディネーター
	小倉佳代子	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化学科専門コーディネーター
	鳴尾 朋子	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員

平成27年度 松江キャンパスの地域連携活動概要

平成27年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、(1)地域自治体との共同研究を含む研究連携事業、(2)新たな「社会人の学び」体制構築に向けた「履修証明プログラム」制作および公開講座推進、(3)学生地域ボランティア活動を含む地域教育連携事業の3つを軸に活動した。正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科、グループ・個人の単位でも、活発な地域貢献活動が行われた。

文部科学省「地（知）の拠点事業（大学COC事業）」の推進にむけて、キャンパス・プラットフォームとして設置された「しまね地域共生センター」により、地域連携活動の窓口の一本化をはかり、地域志向の研究と教育活動の推進につとめた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

1. 地域連携推進委員会の活動
2. 地域に関する教育・研究活動
3. 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催
4. 地域活性化支援
 - (1) 企業・団体・NPO法人等との連携
 - (2) 自治体等との連携
5. 学生による地域貢献活動
6. 教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携
7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携
8. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

平成27年度の特筆すべき活動は、「しまね地域共生センター」による「履修証明プログラム」の平成28年度開講にむけた体制構築であった。本学では、地域志向の研究や授業の進展に伴い、地域で学ぶ姿勢が学科を超えて浸透しつつある。これらの地域志向教育と研究の成果を基盤として、地域社会人向けの120時間以上の「履修証明プログラム」コースを8コース開設するよう、3学科で取り組んでいる。20年以上続く公開講座「椿の道アカデミー」、ならびに科目等履修生制度とあわせて、本学が地域社会人の新たな学びの拠り所となるよう、平成29年度事業完成年度を目指して鋭意構築を推進している。

学生サークルの自主活動にも、大きな進展があった。本学のボランティアサークル「ボルケーノ（火山）」が、平成27年度県民いきいき活動奨励賞（ユース部門）を受賞するなど、学生と地域の連携による学生ボランティアの発展が見られた。また、大学間連携を進めるサークル「学生交流ネットワーク」は、松江市観光振興公社と連携して堀川の活性化を目指す「みんなの堀川委員会」を立ち上げるなど、地域と密接に関わりつつ貢献している。ほかにもさまざまな地域連携事業で活躍する学生の姿があり、これらの学生活動を支えた教職員の真摯な地域貢献の姿勢も、学生の活動とあわせて特筆すべきと考える。

今後とも、「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

しまね地域共生センター センター長 山下 由紀恵

1. 地域連携推進委員会の活動

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会の活動内容を「公開講座および学生ボランティア活動の推進」「教育機関・その他高大連携および地域志向教育の推進」「地域志向研究の推進」の3部門に分け、それぞれ委員により窓口を分担した。

- ・委員長（地域連携推進センター副センター長） 山下由紀恵（保育学科教授）
- ・研究連携協議会、「しまね地域共生センター紀要」発行を含む地域志向研究の推進
籠橋有紀子（健康栄養学科准教授）
- ・教育連携協議会、連携協定機関を含む教育機関、ならびにその他高大連携および地域志向教育推進
工藤泰子（総合文化学科准教授）
- ・公開講座・学生ボランティアの推進 飯塚由美（保育学科准教授）

2. 地域に関する教育・研究活動

【地域志向科目の位置づけ】

平成27年度授業計画書には以下の授業を「地（知）の拠点整備事業における地域に関する学修を行う授業科目一覧」と位置付け授業計画書に掲載し、地域志向教育の推進をはかった。前期末・後期末に、FDセンターの授業評価とあわせて学生に授業アンケートを行い、実際に学修した地域の範囲と、今後希望する地域について意見をもとめた。ほぼ山陰地域を網羅した本学の地域志向教育の状況が浮かび上がっている。

平成27年度「地（知）の拠点整備事業」における地域に関する学修を行う授業科目一覧
健康栄養学科

分野区分		科目名
専門科目	専門基礎	栄養士スキルⅠ
		栄養士スキルⅡ
	食品と衛生	食品機能論
	地域と食生活	地域の特性と食材利用
	卒業研究	卒業研究

保育学科

分野区分		科目名
専門科目	福祉・保育	地域福祉論
		社会的養護
		障害児保育Ⅰ
		障害児保育Ⅱ
	卒業研究	卒業研究

総合文化学科

分野区分		科目名
共通専門科目	世界を知る	アジア文化交流
		アジア文化演習A
		アジア文化演習B
	山陰を知る	小泉八雲入門
		へるん探求
		へるん作品鑑賞
		島根の祭りと芸能
		山陰の民話とわらべ歌
	基幹科目	出雲古代史
	文化資源学系	地域を「知る」「考える」
地域文化研究		
地域探検学		
ミュージアム論		
しまねツーリズム論		
住生活学		
地域を「歩く」「書く」		観光資源学
		文化情報誌制作Ⅰ
		文化情報誌制作Ⅱ
		歴史的建造物の検証
英語文化系	英語とコミュニケーション	地域デザイン論
	英語コミュニケーションの実践	観光まちづくり学
日本語文化系	日本のことばと文学	文化とガイド
		観光フィールド・トリップ
		日本古典文学入門
	日本の文化と歴史	日本古典文学を歩く
		社会言語学
		松江の文化と歴史
		しまね歴史探訪

【履修証明プログラム開発】

拠点となるキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」は、地域研究に関しては「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指すことを掲げた大学憲章に合わせ、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした共同研究を推進している。平成25年度以降、その成果を活かした社会人向け「履修証明プログラム」の開発に着手していたが、平成28年度の開講に向けて、規程等の整備を行い、プログラムの準備が進行した。

健康栄養学科は、「ライフステージを通じた食育」「地域特産品と食品開発」の2つのコースを開発している。「ライフステージを通じた食育」は、栄養管理を実践してライフステージ別の栄養・食生活に関する課題や食育に関する施策について学び、管理栄養士・栄養士が専門職として食育を実践するための力を育成することを目的としている。「地域特産品と食品開発」は、食品学の基礎から、食品加工の理論と実践、島根県内の特色ある農産品および加工食品について事例を交えながら学ぶことを通して、地域の資源とその活用につ

いての理解を深めることを目的としている。

保育学科は、「障害児保育・相談支援体制」「地域子育て支援人材養成」の2つのコースを開発している。「障害児保育・相談支援体制」は、就学までの子どもの発達の偏り・遅れについて、どのように理解し、どのように支援・指導すればよいのか、保育・教育現場で悩んでいる専門職のためのコースである。「地域子育て支援人材養成」は、乳幼児から小学生までの子どもにかかわる子育て支援の理論や実践を中心に学び、地域の人材を活かした子育て支援や地域の子ども活動をリードしていくことができる人材を養成するコースである。

総合文化学科は、「地域で支える生涯学習・教育基盤」「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」「地域情報の発信」の4つのコースを開発している。「地域で支える生涯学習・教育基盤」は、学校司書のための学校図書館基礎講座、および日本の古典・近現代文学、英文学等の解釈、子ども向けの読み聞かせ実践を通して、地域の教育基盤に関わる人材育成の講習を行う。「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」は、多様な文化の学習、子ども塾の活動を通して、地域のさまざまな文化資源をみつめなおし、それらを社会で活用、発信できる人材の育成をめざす。「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」は、地域の歴史、文化、観光に関する理解を深める学習や実地研修、ならびに英語による観光ガイドの実践を通して、新たにボランティア活動などを始めようとする人向けの講習を行う。「地域情報の発信」は、e-ラーニングを使った英語での伝統文化の表現方法の学習や、伝えるためのツールとしてのパソコンの実習、専門的なソフトを利用した「まち歩きマップ」の作成などを通して、地域情報発信に関わる人材向けの講習を行う。

これらの8つのコースの平成28年6月開講をめざして、平成27年度中に広報を開始したところである。

社会人の 8つの学びが 始まります

学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、鳥根県立大学短期大学部がIT+SNSで行う履修証明プログラムは、履修証明プログラムは、大学が主として社会人向けに200時間以上の体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、「履修証明書」を交付するものです。プログラムの詳細は、ホームページ等で公表していきます。

社会人の

8つの学びが

始まります

申込みの受講までの流れ

- 1 応募資格を確認する**
◎ 高等専門学校卒業またはこれと同程度の学力を有する者で、地域の職業従事者、知識や技術の習得を目指す方。
◎ 各コースに該当する専門職および、関連する団体等で活動経験がある方。または、今後の活動に際し学習目的のある方。
- 2 受講環境を確認する**
◎ パソコンのメールで送受信ができること。
◎ メールアドレスの調整がある場合は、パソコンでインターネットを利用して受講できる環境であること。
- 3 受講内容を確認する**
◎ ホームページ(www.u-shimane.ac.jp)から申し込み地域共生センター・履修証明プログラムのご案内ページをダウンロードし、「従来の学習」「履修証明プログラム」による履修証明プログラム講座一覧・授業計画表(PDF)をダウンロードしてください。
【電話予約】
◎ 「履修証明プログラム講座一覧」で、希望する講座の講師(〒)と受講料を確認してください。
◎ コース(または単科)は複数受講できますが、その場合は「対面・公開講座」の履修証明を受けることができません。ご了承ください。
◎ 教科書、受講料等の発費が別途必要となる場合がありますので、シラバスを確認してください。
- 4 申込書を作成する**
◎ 3でダウンロードした「履修証明プログラム受講申込書」に必要事項を記入してください。写真貼付欄に貼付する場合は、必ず貼付してください。
◎ 申込書は電子データを送付してください。
- 5 申込書を提出する**
【応募受付期間】
平成28年4月18日(水)～4月22日(金)午後5時までは、郵送またはメールで提出してください。
郵送の場合は必ず「2」の冊子に封入し、封入された日付で提出されたもの、コースごとの受講料に申し込まれた場合は受講料を納める必要があります。
【お問い合わせ先】
〒890-0044 鳥根県短大市街地内7-2-2
鳥根県立大学短期大学部ITキャンパス
しまね地域共生センター 履修証明プログラム係
TEL: 0850-28-4922
E-mail: ssew@matsum.u-shimane.ac.jp
- 6 決定通知を受け取る**
◎ 応募受付期間後に、提出された申込書をもとに総合的に判断し、選考の後、おおよそ1か月以内で受講決定の通知を通知します。
- 7 受講料を振り込む**
◎ 受講料は受講決定通知と併せてお知らせする口座に、指定の期日までにお振込みください。
- 8 受講生証、シラバス、受講ガイド等を受け取る**
- 9 受講開始**

**鳥根県立大学短期大学部
履修証明プログラム**

2016年6月から順次開講

しまね地域共生センター TEL: 0850-0044 鳥根県短大市街地内7-2-2 鳥根県立大学短期大学部ITキャンパス TEL: 0850-28-4922 http://matsum.u-shimane.ac.jp

鳥根県立大学短期大学部 ITキャンパス | しまね地域共生センター | 学びの拠点

【『しまね地域共生センター紀要』 vol.2の発刊】

平成25年度の研究協議会での発表を掲載した創刊準備0号、平成26年度Vol.1につづいて、平成27年9月に「しまね地域共生センター紀要」Vol.2を刊行した。本学教員の地域試行研究にあわせて、第1執筆者に一般の地域専門職が2名加わり、地域志向研究の発表のためのセンター機関紙としてさらに充実した。



【『地域研究と教育』 vol.4の作成】

今年度も、本学の過去5年間の地域と共同した研究や地域とつながる授業の取り組みをセンターが取りまとめ、紹介した。巻末に、掲載した地域志向研究と教育のリストをまとめ、連携先の地域や団体を明示した。

【研究連携協議会】

平成28年3月4日に、しまね地域共育・共創助成金採択研究をはじめとして、平成27年度中にさまざまな学内研究費を獲得して実施された地域志向研究を発表した。講評者として昨年度に引き続き松江市観光協会観光文化プロデューサーの高橋一清氏を迎え、地域志向研究の継続と進展について講評を受けた。

今年度発表研究の、発表者（共同研究の場合は代表発表者）、研究題目と、獲得研究費は以下のとおりであった。

平成27年度研究連携協議会（口頭発表題目・発表者）

<口頭発表>

・健康栄養学科 教授 酒元誠治

「浜田市高齢者健康栄養調査」

北東アジア地域学術交流研究助成金「地域貢献プロジェクト」助成事業費

「高齢者の介護予防研究のための健康調査」

島根県立大学短期大学部学長裁量特別研究費

「邑南町における稲作の5次産業化に関する研究」

しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費

・保育学科 教授 山下由紀恵

「島根県川本町におけるインクルーシブ相談支援プロジェクト」

北東アジア地域学術交流研究助成金「地域貢献プロジェクト」助成事業費

「Webシーズマップを利用した『ふるさと基盤教育』」

益田市・島根県立大学共同研究事業費

- ・総合文化学科 准教授 工藤泰子
「NPO松江ツーリズム研究会との教育連携」
しまね地域共育・共創研究助成金地域活動経費
「戦後復興期松江観光における小泉八雲—松江国際文化観光都市建設法成立を中心に—」
学術教育研究特別助成金
- ・健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子
「島根県産米の特性分析」
北東アジア地域学術交流研究助成金「地域貢献プロジェクト」助成事業費
- ・総合文化学科 教授 小泉凡
「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の文化資源的活用に関する実践と研究」
学術教育研究特別助成金
- ・総合文化学科 教授 松浦雄二
「『出雲国風土記』の英訳研究」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費

<ポスター紹介>

- ・健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子
「食肉の特性を生かした調理加工方法の検討—基礎研究および学生による成果物の検討—」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費
- ・保育学科 講師 梶間奈保
「音への興味関心を育む研究」
学術教育研究特別助成金
- ・保育学科 教授 山下由紀恵
「民話蘇生研究」（共同研究）
学術教育研究特別助成金
- ・総合文化学科 教授 岩田英作
「島根県の民話資料の保存と整理」
学術教育研究特別助成金
- ・総合文化学科 教授 小玉容子
「小学校での「英語の読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における英語多読の導入の方法及び効果」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費
- ・総合文化学科 教授 岩田英作
「『読みメン』の実態調査」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費

3. 公開講座等の開催

【平成27年度公開講座の概要】

生涯教育、地域教育の拠点として、松江キャンパスの魅力づくりを図るため導入した「椿の道アカデミー」会員制度は、平成27年度で5年目となった。

平成27年度は、まつえ市民大学、山陰民俗学会、松江ツーリズム研究会との連携講座を含む全14講座90回を開講し、延べ受講者数は1,531名であった。（参照：平成27年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況）また、申込者及び受講決定者は254名、そのうち、約96%の243名が会員登録をした。

平成27年度 公開講座会員登録者数（H28、3月末）

講座名	定員	受講決定	会員登録	登録率
1. 総合文化講座	100	79	75	95%
2. 源氏物語を読む—恋に殉じた青年の話<結編>—	100	100	96	96%
3. 風土記の語る神話・伝説—出雲国風土記を中心に—	100	110	106	96%
4. 英語絵本の音読を楽しもう	10	7	7	100%
5. 椿の道読書会	15	19	18	95%
6. 子どもがいる家庭のための英語教育実践講座2015	15	9	8	89%
7. ～続々～子育て・孫育て世代のための子ども理解講座	15	10	9	90%
8. 健康栄養講座：続 高齢者の食と健康	20	21	19	90%
9. 栄養士のためのステップアップ講座	40	13	12	92%
10. 山陰民俗学会連携講座： 民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part 3	100	24	23	96%
11. 民族音楽の楽しみ：ガムラン教室	25	12	12	100%
12. 案外知っているようで知らない「人」の話2	20	27	25	93%
13. 子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座	20	2	2	100%
14. 文化資源探求講座：①松江ゴーストツアー	25	26	26	100%
14. 文化資源探求講座：②「奥出雲のたたら文化」を訪ねる	40	45	45	100%
合計	645	504	481	96%
申込者実数	*	254	243	96%

【椿の道読書会】

平成27年度のこの講座では、『銀の匙』中勘介著に始まり、『火花』又吉直樹著、『春にして君を離れ』アガサ・クリスティー著、『武士の娘』杉本鉞子著、『驚きの介護民俗学』六車由実著など、様々なジャンルの本を全9冊読み、意見や感想を話合った。（講座は、全9回）受講者の方々からは、「普段読まないジャンルや著者の本を読むことで読書の幅が広がった」「他の人の意見を聞いてもう一度読みたくなった」などの声を聞くことができた。また、恒例となっている学生図書委員との合同読書会も行った。学生図書委員と受講者の方々が一冊の本を通じて意見を交わし、交流をするというこの企画もとても好評なので今後も是非続けていきたいと思う。（図書館主任司書：北井由香）

【案外知っているようで知らない「人」の話2】

H26年度年から継続して開催している「心理学」のことをやさしく解説する入門講座です。これまでに扱ったテーマは、導入編「しんりがくの世界って？—どんなことやってるの」では、知覚や認知など身近な生活の中での心理と行動を紹介し、また、自分自身を知るきっかけとして、パーソナリティなどをテーマに紹介をしました。今年、H27年度に開講した続編の2では、特に、人との関わりや集団に関することが中心で、第1回が、私たちの住んでいる社会って？—自分の世界は人と同じ世界なのか、第2回は、仲間、グループ、コミュニケーション、第3回は、人との関わりどうなってるの？—身近なことと心理学、について講義をしました。若手からシニア世代の方々まで、熱心にメモをとりながら、また、質問等をされながら聴講され、こちらも楽しく勉強させていただきました。

(保育学科准教授：飯塚由美)



島根県立大学短大部松江キャンパス
公開講座



【子どもがいる家庭のための英語教育実践講座】



この講座では、子どもが小さいうちから英語に親しませたいという方のために、家庭で実践できる英語教育をテーマに、理論と実践の両面から3回に渡ってアプローチした。

まず、子どもの言語習得の仕組みを研究データを交えてお話し、言語能力を効果的にアップする方法として、家庭でできる英語環境作りを提案した。また、おすすめの教材・絵本の読み聞かせ法・手遊び・歌などを紹介し、受講者同士で実際に絵本を使った実践や、お子さんに話しかける育児英語を練習していただいた。楽しい言語環境をすることによって子どもは自然に英語を習得するという研究に基づいて、そのための具体的な方法を提案したが、家庭で行う英語教育のヒントになればという思いで今後も隔年で開講する予定である。

(総合文化学科准教授：ラング・クリス・アレキサンダー)

【文化資源探求講座】

学外に出て、山陰の文化資源を五感で観察、探求しようという趣旨の講座で、27年度もNPO法人松江ツーリズム研究会と連携し、2講座を開講した。

①松江ゴーストツアー：8月7日（金）に実施。小泉八雲が採集、再話した怪談の語りを堪能する夜の文化探訪ツアーで、今年度は日没後、堀川遊覧船に乗船し、怪談の語りを聞きながら夜の城下町の風情を楽しんでもらった。また、小泉凡教授の講演と松江の郷土料理も楽しんでもらった。参加者は19名。

②「奥出雲のたたら文化」を訪ねる：11月3日（火・祝）に実施。NPO法人出雲学研究所会員で元山陰中央新報社論説委員の岡部康幸氏と小泉凡教授が講師として同行し、金屋子神社、羽内谷鉦山鉄穴流し本場跡などを訪問した。また、奥出雲町教育委員会の協力による現地のガイドにより、地元ならではの興味深い話を聞く機会を得た。参加者は36名。



羽内谷鉦山鉄穴流し本場跡

【客員教授による講演会の公開】

27年度も各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

①健康栄養学科

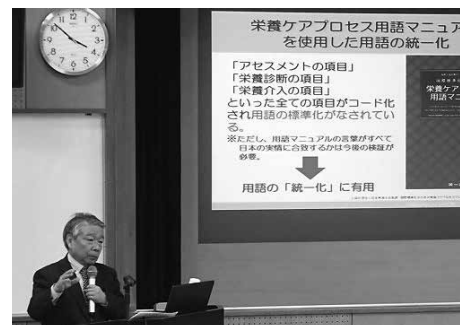
* テーマ：

「チーム（多職種）による栄養管理」「地域連携」

講 師：公益社団法人日本栄養士会会長
同志社女子大学生生活科学部
食物栄養学科 教授 小松龍史氏

日 時：平成27年11月28日（土）

参加者：学生66名、教職員12名、
学外専門職44名 合計122名



客員教授講演会 小松龍史氏

②保育学科

* テーマ：「社会的養護における支援と子育ての知恵」

講 師：児童養護施設神戸少年の町 野口ホーム
野口啓示氏

日 時：平成27年10月17日（土）

参加者：学生、教職員、学外専門職、行政関係者
合計175名



客員教授講演会 野口啓示氏

③総合文化学科

*テーマ：「田植囃子と田植草紙」

講師：島根大学名誉教授 田中瑩一氏

日時：平成27年7月15日（水）

参加者：学生154名、教職員17名、
地域の方々20名 合計191名



客員教授講演会 田中瑩一氏



客員教授講演会 田尻悟郎氏

*テーマ：「英語の学習法」

講師：関西大学教授 田尻悟郎氏

日時：平成27年10月30日（金）

参加者：学生142名、教職員19名、
地域の方々8名 合計169名

4. 地域活性化支援

(1) 企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスにおいては、27年度もNPO法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科による食育推進での連携活動、島根県特産品の振興を図る取組み、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成27年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
邑南町における稲作の5次産業化に関する研究	松江キャンパス 健康栄養学科 教授 酒元 誠治 浜田キャンパス 総合政策学部 講師 豊田 知世	邑南町川角集落産の米の食味評価部分を分担研究。松江・浜田両キャンパスで開催された大学祭において、川角集落産の米と仁多米（横田町馬木産）との食べ比べによる比較検討を行った。	平成27年4月～ 平成28年1月	両キャンパスで開催された大学祭参加者から373名	酒元・豊田両研究室の卒論生20名が参加。
高齢者の介護予防研究のための健康調査	健康栄養学科 教授 酒元 誠治	介護予防を推進するために必要な、高齢者のMNA®-SFを用いたアセスメント、加速度式歩数計を用いた身体活動状況、体組成の実態を調査した。	平成27年4月～ 平成28年3月	浜田市在住の高齢者89名	酒元研究室の卒論生7名が参加。
浜田市高齢者健康栄養調査	健康栄養学科 教授 酒元 誠治	介護予防を推進するために必要な、高齢者の習慣的な食事摂取状況を知るために、4日間の食事実態調査を実施し、栄養素ベース、食品ベース、料理ベースの解析を行った。	平成27年4月～ 平成28年3月	浜田市在住の高齢者89名	酒元研究室の卒論生7名が参加。
平成25年度牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成27年 10月12日		健康栄養学科1年生5名
炎症性腸疾患患者会陽だまりの会	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成27年 10月31日	16名	健康栄養学科1年生4名
第42回小児糖尿病大山サマーキャンプ	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成27年 8月2日～9日		健康栄養学科2年生2名
新産業創出研究会助成研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 事務局 管理課長 岩本幸治	糖尿病予防および治療のための栄養価計算ソフトの開発	平成27年度	新産業創出研究会定例会議に11人出席	新産業創出研究会からの外部資金獲得による健康栄養学科教職員と企業との共同研究
産学官連携によるジビエガンボスープの考案・試作	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 事務局 教務学生課 主任主事 雪吹重之	卒業研究成果をもとにジビエガンボスープの考案・試作（キラキラドリームプロジェクトとのコラボレーション）	平成27年6月～ 平成28年3月		健康栄養科学2年生2名参加
産学官連携企画ジビエガンボスープ試食会実施（松江市、松江市八雲猪肉生産組合、Greens Babyとの連携企画）	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 総合文化学科 教授 小泉凡 事務局 教務学生課 主任主事 雪吹重之	松江市長を訪問しジビエガンボスープの試食会実施（キラキラドリームプロジェクトとのコラボレーション）	平成28年 3月16日	試食会に松浦正敬松江市長をはじめ松江市から4名、本学学生2名、教職員3名、その他報道関係機関など多数出席	健康栄養科学2年生2名参加 産学官連携企画

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	島根県産米の特性分析	平成27年4月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生3名参加 島根大学生 物資源科学部 およびとの共 同研究
島根県農業協同組合石見 銀山地区本部 受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	「石見銀山和牛」の特 性を生かす加工食品開 発の研究	平成27年6月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名 参加
島根県畜産技術センター 受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	新たな評価基準「保水 性」に着目したおおい しい「しまね和牛肉」の 生産に係る牛肉品質の 評価	平成27年7月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名参 加 島根県畜産 技術センター との受託研究
しまね地域共育共創研究 助成金事業	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	食肉の特性を生かした 調理加工方法の検討	平成27年4月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名参 加 加工生産 者との連携に よる
H27年産米の食味ランキ ング(日本穀物検定協会 主催)出品材選定のため の最終選抜審査会	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	H27年産米の食味ラン キング(日本穀物検定 協会主催)出品材選定 のための最終選抜審査 会への参加協力	平成27年 12月1日		島根県農業協 同組合斐川地 区本部からの 依頼
県政番組(CATV)の取 材・ケーブルテレビでの 放映	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	つや姫のおいしさの見 える化の取り組みへの 技術協力および広報へ の協力	平成28年3月		島根県からの 協力依頼
島根県農産園芸課、島根 県農業技術センター 受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	「つや姫」のおいしさ の見える化に係る物性 及びテクスチャーを中 心とした官能評価試験	平成27年12月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名参 加 島根県農産 園芸課、島根 県農業技術セ ンターとの受 託研究
松江市子どもとメディア 推進協議会	保育学科 准教授 福井一尊	福井研究室と連携し、 所属学生が啓発用のポ スターをデザインした。	平成27年5月～ 平成28年2月		保育学科学生 7名
島根県障がい者アート 作品展	保育学科 准教授 福井一尊	関係施設職員の研修の 場としても位置づけら れている公開審査会に おいて、審査委員長を 務める。	平成27年 12月2日～ 12月6日	福祉施設職員 40名	島根県立美術 館にて一般公 開
松江市保育研究会造形展	保育学科 准教授 福井一尊	子どもへの造形指導の ための講義や解説、ま た展示、飾り付けの方 法についての指導。	平成27年 12月4日	保育専門職員 80名	島根県立美術 館にて一般公 開

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
島根県保育所（園）・幼稚園造形研究会	保育学科 准教授 福井一尊	本学体育館にて公開審査会を開催。関係教職員の研修の場に位置づけられる公開審査会において、審査委員を務める。	平成27年 11月27日	保育・ 教育職員 200名	島根県立美術館にて一般公開
「子ども塾－スーパーヘルンさん講座－」 (松江市観光振興部)	保育学科 准教授 福井一尊	小学生を対象とした本事業において、造形表現活動を指導した。作品は松江市役所にて公開した。	平成27年 8月4日～ 8月25日	小学生10名	
大田市民営保育所協議会	保育学科 准教授 福井一尊	加盟園の全職員研修会において、子どもへの造形指導のための講演を行う。	平成27年 7月29日	保育職員 150名	
松江福祉会職員研修会	保育学科 准教授 福井一尊	松江福祉会所属の全職員を対象に、子どもへの造形指導のための講演を行う。	平成27年 9月15日	福祉職員 180名	
島根県中央児童相談所 (安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携)	保育学科 准教授 藤原映久	被虐待児童等の増加により児童養護施設等では心理・行動面に不安定さを抱える児童が多数生活している。これらの児童の安心・安全な生活環境を保障することを目的とする取り組み。	平成27年 4月～ 必要な期間		
NPO法人松江ツーリズム研究会への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	同NPO法人が管理・運営する小泉八雲記念館の顧問として、企画展「ラフカディオ・ハーンとアイルランドー記憶のはじまりー」の展示解説作成・監修を行う。また、ミステリーツアー（8月22日）の講師をつとめる。	平成27年4月～ 平成28年3月	ミステリーツアー参加者 約40名	
焼津小泉八雲記念館（焼津市教育委員会）への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	焼津小泉八雲記念館の名誉館長として、焼津ゴーストツアー（8月1日）、講演会「妖怪談義Part1 一つ目小僧の文化史」（8月2日）、文芸作品コンクールへのメッセージ執筆、28年度企画への助言等を行う。	平成27年4月～ 平成28年3月	参加者： 講演会・ゴーストツアー 約50名	

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
「子ども塾—スーパーヘルンさん講座—」(松江市観光振興部観光文化課主管・子ども塾実行委員会主催)への参画	総合文化学科 教授 小泉 凡 保育学科 准教授 福井一尊 しまね地域共生センター 小倉佳代子	子どもの五感力を育む教育実践第12回「子ども塾」の塾長をつとめる。テーマは「子どもヘルン八景」。島根大学属小学校の教員らと連携して実施。	平成27年4月～平成28年3月 子ども塾実施日: 7月31日、 8月4日、 8月6日	参加児童10名	
八雲会創立100年記念事業への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	八雲会創立100年—第一次創立100年・第二次創立50年—記念講演会・シンポジウムの企画・実施への協力、シンポジウムパネリストをつとめる。	平成27年 7月4日	参加者 約150名	
BSS山陰放送特別番組制作への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	BSSの特別番組「水木しげる93歳の探検記—妖怪と暮らした出雲国—(9月5日、12月31日放送)」制作監修、出演を行う。	平成27年 6月～9月		
鳥取県日野町「KWAIIDANナイト」(KWAIIDANナイト実行委員会、鳥取県日野町図書館)への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	八雲作品「幽霊滝」の伝承地、日野町の地域活性化イベント「KWAIIDANナイト」で、審査委員長として応募作品の審査、講評、講演を行う。	平成27年 8月8日	参加者 約100名	
彦根ゴーストツアー(滋賀大学・彦根観光協会主催)への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	滋賀県の湖東地方・湖北地方の超自然的な文化資源を探求する「彦根ゴーストツアー」で、企画への助言、当日の講師をつとめる。(1月:白と黒の章、3月:井伊直弼の章)	平成28年 1月9日・10日、 3月20日・21日	参加者 約50名	
「小泉八雲 朗読の夕べ」(松江市観光文化課)への参画	総合文化学科 教授 小泉 凡	プラバホールで開催された佐野史郎氏・山本恭司氏による「小泉八雲 朗読の夕べ—稀人:彼方より訪れしもの」の企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。	平成27年 12月13日	参加者 約500名	ティンホイッスルサークル学生5名がボランティアとして参加
アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2016(松江市観光振興部国際観光課主管、アイリッシュ・フェスティバル実行委員会主催)への参画	総合文化学科 教授 小泉 凡 准教授 工藤泰子 しまね地域共生センター 小倉佳代子	3月13日開催の同事業の実行委員長・委員として企画・運営にあたる。	平成27年10月～平成28年3月	パレード参加 300名	ティンホイッスルサークル学生など10名がボランティアとして参加
島根県立美術館「ねこまみれ」	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 5月31日	100名以上	総合文化学科おはなしゼミ学生8名参加

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
横田コミュニティーセンター	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 8月8日	20名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
掛合公民館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 8月25日	30名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
石川県金沢市立玉川こども図書館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 8月25日	10名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生8名参加
古志原公民館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月12日	50名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
八雲公民館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 10月17日	50名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
大田市立中央図書館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 12月12日	20名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生5名参加
JR西日本 「山陰みらいドラフト会議」	総合文化学科 准教授 藤居由香	地域調査を実施し、その報告書を作成提出し、山陰両県の行政担当者・JR関係者・一般市民の前で地域活性化の提案を含めたプレゼンテーションを行った。	平成27年 4月～11月	4大学から 計6チームの 参加	総合文化学科 1年生11名が 参加・浜田C 職員2名がプ レゼン見学
浜乃木7丁目 国尾自治会	総合文化学科 講師 山村桃子	グランドゴルフ大会 (8月) 防災訓練 (8月) とんど祭 (1月) くになこ 昔遊び会 (1月)	平成27年 4月～1月	ボランティア サークル volcano部員	

【健康栄養学科の地域活性化支援】

健康栄養学科では、平成27年度牛乳コンクール（島根県牛乳普及協会）（10月5日、於島根県立大学短期大学部松江キャンパス）では、学生5名がボランティアを務めた。

また、難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動した〔炎症性腸疾患患者会研修会「陽だまりの会（松江市）」（10月19日、教員1名、学生4名）、小児糖尿病患者会「第40回小児糖尿病大山サマーキャンプ（主催：日本糖尿病協会島根県支部「大山家族）」にて教員1名、学生2名（8月5日～12日）〕。

健康栄養学科における島根県産品の振興を図る継続的な取り組みとして、西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発、西条柿冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿の開発および西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発、しまね和牛のおいしさの科学分析、およびその成果を活かした食品加工への提案、出西生姜や米味噌とのコラボレーションによる食品開発等を行った。島根県産米「つや姫」や「きぬむすめ」、有機栽培米の分析を行い、品種や栽培方法の違いによる特性について検討した。



熟柿ピューレを用いた「美肌の国キーマカレー」



西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発では、松江市東出雲町の柿農家と健康栄養学科教員（赤浦和之教授）および学生2名が協力し、松江市商工企画課の支援も受けて熟柿ピューレを用いた秋鹿ごぼうと熟柿ピューレ入りレトルトカレー「美肌の国 キーマカレー」の商品名で商品化した。平成27年10月29日に松江市長他市関係者、ピューレ生産者、販売業者、開発を担当した卒業生2名も出席し、松江市庁舎で試食会が開催された。平成27年11月25日には、松江フォーゲルパークで、一般の人向けの発表会が開催され、施設内レストランメニューにも加えられた。次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、西条ガキ熟柿の生産技術の開発と熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。

「しまね和牛肉」の食味研究では、新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価について、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名が島根県畜産技術センターとの受託研究において協力し、官能試験および理化学分析を用いて「しまね和牛肉」の食味を科学的に評価し、データの提供を行った。また、しまね地域共育共創研究助成金事業において、島根県産の食肉、すなわち牛肉

および猪肉について、その加工方法の提案を健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名が行った。出西生姜の機能性も加え、松江市八雲産の猪肉の特性を活かしたガンボスープ（小泉八雲が愛したニューオリンズのソウルフード）を、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名で、小泉凡教授のご協力のもと作成した。食の機能性と文化の融合による島根県立大学のオリジナリティあふれる調理加工品の提案となった。平成28年3月16日、松江市庁舎で試食会が開催され、給食への展開や商品化への提案もなされた。JA石見銀山地区本部との受託研究では物性測定による「石見銀山和牛」の特性評価を健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名で行った。次年度も引き続き、「しまね和牛肉生産技術の開発および品質評価手法の検討」を目的として、「しまね和牛肉」の食味について理化学分析および官能評価等の手法を用い、基礎データの集積・提供および加工に関する技術協力を行う。また、研究成果を活用方法の提案および加工食品の開発を行う。



(上) 島根県産猪肉を使ったガンボスープ
(下) 松江市での試食会の様子

また、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金（地域貢献プロジェクト）において、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生3名が参加した。松江市西長江エコ米グループおよび島根大学生物資源科学部と健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生3名との連携により、有機農産物の中でも今年度より有機米に着目し、食味について官能評価、理化学分析を行い、試食販売等にその成果を活用した。島根県農業技術センターにおいて栽培された有機米の官能評価および理化学分析も合わせて行った。また、島根県産米「つや姫」の科学分析では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、「つや姫」の普及拡大を目的に、島根県、島根県農業技術



島根県産米の官能評価



理化学分析の様子

センターと共同で官能試験、理化学分析（電子顕微鏡で炊飯米断面の構造を観察、テンシプレッサーで炊飯米物性（粘りと硬さ）を機械的に測定）を行った。品種や栽培地域の違いによる品質特性について検討した。また、現代のライフスタイルに合った島根米活用方法の提案を行った。

健康栄養学科教員（酒元誠治教授）および学生7名が、浜田市の高齢者89名を対象として、介護予防を推進するために必要な、高齢者のMNA®-SFを用いたアセスメント、加速度式歩数計を用いた身体活動状況、体組成の実態について浜田市と連携して調査を行った。さらに、介護予防を推進するために必要な、高齢者の習慣的な食事摂取状況を知るために、4日間の食事実態調査を実施し、栄養素ベース、食品ベース、料理ベースの解析を行った。

健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）は、平成24年度に取得した「糖尿病予防及び治療に寄与する2件の発明に対する特許を活かして、産学官の連携による糖尿病予防のための栄養価計算ソフト、経管栄養剤の実用化を検討している。平成25～26年度の基礎研究の強化および山陰発技術シーズ発表会 in とっとりへの参加をへて、企業とのマッチングをはかり、平成27年度は、新産業創出研究会から研究助成金を獲得し、産学官連携による糖尿病予防および治療のための栄養価計算ソフトの試作に着手した。



特許の内容パンフレットおよび新産業創出研究会助成金によるソフトウェア開発の試み（会議の様子）

【保育学科の地域活性化支援】

保育学科においては、福井一尊准教授が、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成27年11月27日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成28年1月14日から18日まで「第11回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示・公開された。また、島根県西部からの入選作品は、1月21日から24日まで浜田市世界こども美術館でも展示・公開された。

また福井一尊准教授は、平成27年12月4日に社会福祉法人島根県社会福祉協議会主催の「平成27年度島根県障がい者アート作品展」において、審査委員長として絵画・書・写真・デザイン・工芸等作品の公開審査を行った。本展覧会は12月4日から6日まで島根県立美術館で開催された。

また、平成23年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO法人あ

しぶえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発－保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、昨年度に引き続いて本年度も保育学科の正課「児童文化」にNPO法人あしぶえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

【総合文化学科の地域活性化支援】

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」(ラング・クリス准教授)の開催、英語絵本の読み聞かせ(小玉容子教授)、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施(岩田英作教授)、NPO松江ツーリズム研究会と連携した文化資源をツーリズムに生かす実践活動(小泉凡教授)、(一社)鉄の歴史村地域文化研究所と連携した観光教育の実践(工藤准教授)など、昨年引き続き、活発な活動が行われた。

*「キッズイングリッシュ」の英語絵本読み聞かせ活動

平成27年度の「キッズイングリッシュ」(担当は小玉容子教授、ダスティン・キッド講師、総合文化学科2年前期)受講生15名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。6月から7月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20分程度の時間で計20回実施した。



キッズイングリッシュでの活動

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子供たちだけでなく保護者も一緒になった活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

*医療英語勉強会

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成20年4月から平成28年3月にかけて、月に一度金曜日の午後に2時間ほど勉強会を実施している。勉強会参加者は、10名程度である。(担当はラング・クリス准教授)勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なう他、医療に関する研究報告をビデオでみてから、ディスカッションすることで、医療用語を身につけることを目的とした。

*おはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施

総合文化学科の卒業プロジェクト「おはなしゼミ」(担当は岩田英作教授)の学生たちは、毎週金曜日、松江市立忌部小学校で読み聞かせの活動をしている。この取組みは、平成21年度から継続して行われており、1学年20名程度のクラスで、全学年で絵本を開いて子どもたちと向き合っている。

*ミステリー・ツアーの企画・実施

昨年度に引き続き、山陰地方の文化資源をツーリズムに活用する実践としてミステリー・ツアーを企画・実施した。実施日は8月22日（土）で、訪問先は参加者に事前に明かさな
い。小泉凡教授がNPO法人松江ツーリズム研究会旅行事業部と連携して企画・運営・当
日の講師をつとめた。27年度は、「水木しげると小泉八雲」をテーマとし、境港の正福寺（地
獄絵が水木少年に衝撃を与えた）、水木しげる記念館、美保関地区の小泉八雲ゆかりの場所、
美保関町諸喰（水木少年に多大な感化を与えた「のんのんばあ」の出身地）などを訪問した。

*雲南市吉田町における観光教育の実践

工藤泰子准教授は、平成25年度から（一社）鉄の歴史
村地域文化研究所をはじめとする吉田町の人々と連携し
た観光教育を実践している。「観光資源学」（総合文化学
科1年後期選択科目）において、履修生46名が、たたら
製鉄の歴史と文化を観光に活かすことをテーマに、鉄の
歴史博物館、菅谷たたら山内、生活伝承館などを訪問した。



雲南市吉田町における観光教育の実践

*松江カラコロ工房の実態調査

「観光まちづくり学」（総合文化学科2年後期選択科目、担当は工藤泰子准教授）の履修
生19名と有志学生2名（計21名）は、NPO松江ツーリズム研究会の依頼を受け、観光施設（カ
ラコロ工房）来訪者のヒアリング調査を実施した。10月3日（土）、4日（日）に来訪者
209名を対象に調査した後、グループに分かれてデータの入力・分析を行い、12月17日に
報告会を実施した。調査結果は報告書にまとめ、関係機関に配布した。

*松江城ボランティアガイドの実践

卒業プロジェクト（観光文化ゼミ）では、山本素久氏
（NPO松江ツーリズム研究会理事長）のご指導を受け、
学生3名が松江城のボランティアガイドを行った。千葉
県、岡山県、広島県からのお客様をご案内し、参加者か
らは「わかりやすい案内だった」「学生さんの気配りが
よかった」などの声をいただいた。



松江城ボランティアガイドの実践

*出雲市佐田町における地域活性化をめざしたフィールドワークの実施

卒業プロジェクト「民俗・文化資源ゼミ」では、出雲市地域づくりアドバイザー・吾郷
秀雄氏と連携し、出雲市佐田町毛津地区をフィールドに生活文化伝承の聞き取り調査を行
い、報告書をまとめて地域に配布した。また、学生が生業・食文化・年中行事・人生儀礼・
信仰など分野ごとに伝統文化を文化資源として活用するための提案を行った。さらに同地
区で郷土料理の作り方を学び、JA出雲創作おにぎりコンテストに「けづおこわ」として
応募した。

(2) 自治体等との連携

松江キャンパスは、平成19年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成28年2月9日に包括協定を結ぶ松江市と「松江市・島根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師派遣について実務的な連携について協議した。

【平成27年度 松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

実施要綱

- ◆ 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス
- ◆ 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室
- ◆ 日時 平成28年2月9日（火） 16時00分～17時00分
- ◆ 議事
 - (1) 松江キャンパス新学部・学科の特色及び育成する人材像の概要
 - (2) 松江キャンパス4大化に係る課題解決に向けた連携体制について
 - (3) 実習（栄養士・保育士・幼稚園教諭）受け入れ協力について
 - (4) 講師の相互派遣についての実績と計画
 - (5) 松江市の諸団体との連携・協力状況について
- ◆ 出席者
 - ・松江市政策部次長 須山敏之
 - ・松江市政策部政策企画課主任主事（包括協定担当）平塚 稔
 - ・松江市教育委員会次長 小塚 豊
 - ・松江市健康福祉部子育て課長 林 忠典
 - ・松江市産業観光部観光課長 二村 眞
 - ・松江市発達・教育相談支援センター（エスコ）所長 小脇 洋

 - ・松江キャンパス副学長 岸本 強
 - ・松江キャンパス健康栄養学科長 名和田清子
 - ・松江キャンパス保育学科長（兼しまね地域共生センター長） 山下由紀恵
 - ・松江キャンパス総合文化学科長 鹿野一厚
 - ・松江キャンパス地域連携推進委員会（教育連携担当） 工藤泰子
 - ・松江キャンパス事務室長 柴田政樹
 - ・松江キャンパス管理課長 岩本幸治

【松江市主催文化教育行事への協力】

* 「第12回子ども塾—スーパーヘルンさん講座」への協力

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授（塾長）、保育学科の福井一尊准教授（特別講師）、小倉佳代子地域連携コーディネーター（実行委員）が企画・運営・実施に協力し



第12回子ども塾—スーパーヘルンさん講座

た。実施日は、平成27年7月31日、8月4日、8月6日。会場はおもにカラコロ工房周辺。テーマは「子どもヘルン八景」。

* 「小泉八雲 朗読の夕べ 稀人：彼方より訪れしもの」への協力

松江市観光文化課主催により平成27年12月13日にプラバホールで開催。総合文化学科の小泉凡教授が、佐野史郎氏・山本恭司氏出演による上記イベントの企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。本学、ティンホイッスル・サークル学生5名もボランティア・スタッフとして参加した。

なお、同行事は2015年10月にアイルランドの3都市でも開催され、ダブリン市・ウォーターフォード市開催時に、小泉凡教授がレクチャーを行った。

* 「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2016」への協力

松江市国際観光課・山陰日本アイルランド協会・南殿町商店街が実行委員会・松江京店商店街協同組合等が組織してアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成27年3月13日に開催。

総合文化学科小泉凡教授・工藤泰子准教授・小倉佳代子地域連携コーディネーターが実行委員として、松江キャンパスのティンホイッスル・サークル、総合文化学科1・2年生約10名の学生がボランティア・スタッフとして参加した。

* 「共創・協働マーケット」

松江をよくする提案を共有し事業につなげる場として、昨年につき、松江市主催「2015・12松江共創・協働マーケット」（2015/12/16）が開かれた。学外からは、大学への求めを知る機会となり、大学からは、しまね地域共生センターおよび学生ボランティア活動などの紹介を中心に、大学にできることの可能性を広報した。

* 「地域力醸成コンファレンス」

県内公民館等と連携・協働の可能性を探る場として、平成27年度地域力醸成コンファレンスinしまね（文部科学省委託事業）（2015/11/27）が開かれた。公民館等はアイデアの実践化を目指し、大学は地域のニーズを知る場として参加し、協議した。

【松江市立女子高等学校との連携】

平成27年10月21日、松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力して、1年生全員(119名)のキャンパス見学と模擬授業、および卒業生交流会を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から工藤泰子准教授により「近代松江の観光」というテーマで行われた。講義後は、松江市立女子高等学校卒業の本学学生(4名)との交流会があり、質疑応答が行われた。

【正課授業における連携協力】

*保育学科専門科目における、学外の専門職現任者および経験者による講義——保育学科専門科目「障害児保育I」(1年後期必修科目・1単位)の非常勤講師として、松江市立発達・教育相談支援センター相談支援係長の小脇洋講師、同指導主事の金山由美子講師、山根司津子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。保育学科専門科目「児童館(児童クラブ)の機能と運営」(1年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、松江市立東津田児童館の石倉優子講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。保育学科専門科目「乳児保育」(2年前期必修科目・2単位)の非常勤講師として、元松江市子育て支援センター所長の井上恵美子講師により、長年にわたる豊富な現場経験を基に講義が行われた。保育学科専門科目「地域福祉論」(2年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、元松江市社会福祉協議会常務理事で、松江保健生協 まちづくり事業推進室の須田敬一講師により、松江市における地域福祉の実践例を通じた講義が行われた。

*総合文化学科専門科目においては、以下の通り、学外の専門職現任者および経験者による授業や協力が行われた。「しまねツーリズム論」(文化資源学系2年後期選択科目・1単位)の学外講師として、鳥根県商工労働部観光振興課長の藤井洋一氏、松江市産業観光部観光文化課観光係長の井川浩介氏が授業(各1回)を担当した。また現地研修において、「地域探検学」(文化資源学系1年生前期選択科目・1単位)では奥出雲町地域振興課、「日本文化演習」(日本語文化系2年生前期選択科目)では鳥根県立美術館、「ミュージアム論」(文化資源学系1年生後期選択科目)では鳥根県立美術館と松江歴史館の全面的な協力を得て授業を実施した。

松江市立施設・学校における実習協力——健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている(実習欄に別掲)。

このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成28年2月9日に松江市以外の自治体・団体と「鳥根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師派遣についての、実務的な連携について協議した。

【平成27年度 島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

実施要綱

- ◆ 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス
- ◆ 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室
- ◆ 日時 平成28年2月9日（火） 14時40分～15時40分
- ◆ 議事
 - (1) 教育研究上の協力連携の実績と計画について
 - (2) 本学の教育研究についての意見・評価
- ◆ 出席者
 - ・ 特定非営利活動法人あしぶえ 有田美由紀
 - ・ 出雲町地域振興課企画員 石富仁志
 - ・ 一般社団法人 鉄の歴史村地域文化研究所代表理事 高木朋美
 - ・ 特定非営利活動法人 松江ツーリズム研究会 山下武之
 - ・ 出雲市地域づくりアドバイザー 吾郷秀雄

 - ・ 松江キャンパス副学長 岸本 強
 - ・ 松江キャンパス健康栄養学科長 名和田清子
 - ・ 松江キャンパス保育学科長（兼しまね地域共生センター長） 山下由紀恵
 - ・ 松江キャンパス総合文化学科長 鹿野一厚
 - ・ 松江キャンパス総合文化学科教授 小泉 凡
 - ・ 松江キャンパス地域連携推進委員会（教育連携担当） 工藤泰子
 - ・ 松江キャンパス事務室長 柴田政樹
 - ・ 松江キャンパス管理課長 岩本幸治

5. 学生による地域貢献活動

【学生の自主的なボランティア活動】

平成22年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。27年度の学生のボランティア保険加入は、502名。また学生の活動先は、以下のとおりであった。

- 東日本災害ボランティア
 - いわてGINGA-NETプロジェクト春銀河2015（岩手県沿岸部）
- 障がい者・高齢者支援ボランティア
 - 「東部島根医療福祉センター」「泉の園」「かんの里」「まるベリーパンまつり」ほか
- 障がい児支援ボランティア
 - 「出養ほかほかクラブ」「島根大学教育学部たんぽぽまつり」ほか
- 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア
 - 松江市立保育園のぎ「のぎっこまつり」「運動会」、みのり保育園「夏まつり」
 - 松江市立乃木小学校「放課後のぎっこ広場」ほか

- 島根県立青少年の家 サン・レイク
- 国立三瓶青少年交流の家
- 大田市山村留学センター「冬の山村留学」ボランティア
- 出雲市「地域日本語教室」ボランティア
- 松江市保育所保護者連合会「子ども美術展」運営ボランティア
- 「第22回えびす・だいこく100kmマラソン大会」運営スタッフ
- 「松江シティフットボールクラブ」試合運営スタッフ
- 「2015松江市環境フェスティバル スポーツ清掃大会」運営補助
- 「第9回ひらた100km徒歩の旅」運営スタッフ
- 「NHK歳末・海外たすけあいフェア」運営ボランティア
- 「平成28年松江市成人式」運営ボランティア

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園（所）・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。また学生サークルによるボランティア活動が活発に行われた。

■ 学生交流ネットワーク

国尾自治会と共催で「くにっ子昔 あそび会」を開催。地域のお年寄りと小学生・大学生の交流会に30人が参加した。

■ ボランティアサークルvolcano（ボルケーノ）

自治会行事へのボランティア参加、ボランティア報告会開催などの地域貢献活動が認められ、島根県の平成27年度県民いきいき活動奨励賞を受賞した。

【キラキラドリームプロジェクト】



キラキラドリームプロジェクトは、学生が企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し学生の夢の実現を応援しています。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、好きになれるものを見つける機会となり、より充実した学生生活を送ってもらうことを目的として平成25年度から始まりました。今年度は4組の団体が公開審査会でプレゼンテーションをおこない、全事業が採択されました。

7月1日の募集説明会后、エントリーを希望する学生は、企画の発想法、商品化のプロセス、顧客ターゲットと商品コンセプト、企画書の作り方等を勉強会で学びます。また、各グループには指導教員が付き、企画立案と実行のサポートをおこないます。学生だけの力で実現できない場合、行政、地域の団体、民間企業とマッチングをおこない、支援をいただきながら活動をおこなっています。企画の多くが、地域問題を解決したり、地域活性化を目指したりする企画で、学生のヒラメキが地域のキラメキになっています。1年間の活動の後、この事業をきっかけにサークル化し活動を継続する団体が多くみられます。

（教務学生課主任：雪吹重之）

● 公開審査会の様子



プレゼンテーションに向けて、入念な準備をして挑みます。会場は熱気に包まれ、真剣そのものです。



プレゼンテーションの方法は自由。自分たちの想いを伝えるために、衣装にも力が入ります。



審査委員からは鋭い指摘と温かいアドバイスがあります。



自分たちの夢を語り、全てを出し切った後の安ど感で思わず笑みがこぼれます。

● 平成27年度採択プロジェクト（4団体）

◎ ドリーム枠（採択額20万円）

- ▶ ゴーストみやげ研究所「ゴーストみやげ第2・3弾」
～怪談をもっと美味しく、楽しくしたい～



小泉八雲ゆかりの怪談にまつわるおみやげを作るプロジェクトです。昨年度は企業とのコラボレーションで「ほういちの耳まんぢう」を作りました。今年度も、「小泉八雲」を知ってもらうための怪談にまつわる商品を作り、「怪談」＝「小泉八雲」＝「松江」をより定着させたいという想いで活動します。

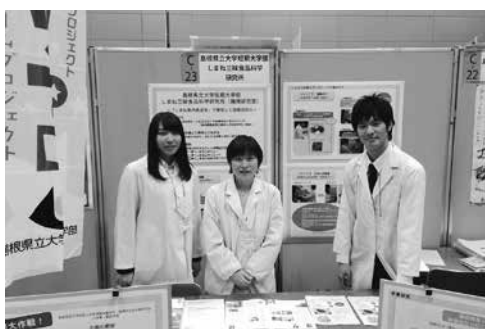
◎キラキラ枠（採択額 各団体10万円）

- ▶ 革命短大生「松江国際ライフサポートプロジェクト」
～国際×防災×松江～誰もが住みやすい町づくり～



松江に住む外国人の方々に、少しでも安心して過ごしてもらいたいという想いで、行政のサポートが届きにくい部分を補うように、防災教育と交流事業を実施します。日本語が不慣れな方々には、英語文化系での学びを活かして、英語で分かり易く伝えます。

- ▶ しまね三味食品科学研究所「ジビエ活用大作戦」
～ジビエの美味しい魅力を再発見して利用拡大！～



近年、全国的にイノシシやシカの捕獲数が増加しています。しかし、その捕獲されたものの1割程度しか食肉用として流通していない現状を知り、もっと有効利用できないかと考えました。そこで、健康栄養学科での学びを活かし、もっと美味しく食べてもらえるジビエの商品開発をおこなうことにしています。

- ▶ 松江市感幸隊（まつえしかんこうたい）「SHINY☆PROJECT」
～夜の松江に光を観（魅）せよう～



松江の観光施設を舞台に、照明・光を使ったアートで、夜の松江の観光活性化を図ります。松江の観光にプラスαの企画を提案し、若い年齢層を対象に「夜にふらっと立ち寄る」観光のきっかけ作りを考えています。

● 活動内容紹介

採択プロジェクトのうち、野生鳥獣の肉（ジビエ）を活用して商品開発をおこなった、しまね三味食品科学研究所「ジビエ活用大作戦」の活動内容を紹介します。当プロジェクトでは、健康栄養学科籠橋有紀子研究室の卒業研究における成果を活かし、島根県産農作物の未利用素材とジビエの特性を利用して、ガンボスープを開発しました。ガンボスープは、小泉八雲が新聞記者の時代に過ごしたアメリカ・ニューオーリンズで親しまれている郷土料理であり、食物繊維を豊富に含み、とろみと濃厚なうまみの特徴のエスニックなスープのことです。これを、小泉八雲が文献に残したレシピをもとに再現し、小泉凡教授等と試食を重ねて完成しました。

● 企画の動機

健康栄養学科の学生として鳥根県産の食肉について卒業研究を進めていくうちに私たちは禽獣の食肉としての利用が極端に少ないという現状を知りました。幼いころに地域のイベントで食べたイノシシ鍋がとてもおいしかった記憶があり、「なぜこんな状況なのか」と不思議に思い、「どうしたら変わるのだろうか」ということを考え、活動をしてきました。

県土の7割を山林が占める鳥根県にとって、禽獣による農作物への被害は小さいものではありません。もしも禽獣に価値が見いだされたとすれば、今までの「厄介者」が「ビジネスチャンス」へと変わるかもしれません。

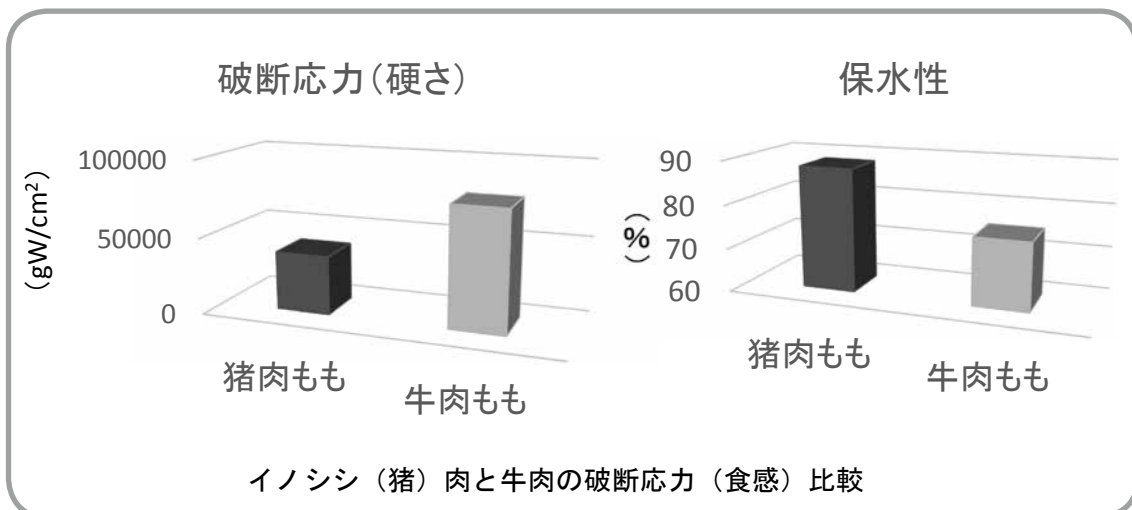
私たちは今回、鳥根県の害獣被害額の7割程を占めているイノシシについての研究、調理法の提案を行うことを目的としました。

● 活動内容

◎イノシシ肉の特性分析

プロジェクトの第一段階として、イノシシ肉の特性を知ることから始めました。卒業研究の一部として、イノシシ肉の水分含量、保水性、破断応力という観点から分析を行いました。まず、食感を数値化する機械（テンシプレッサー）を使って、破断応力を計測しました。その結果として、イノシシ肉は牛肉と比べてやわらかい、また脆さを示す値においても優れているという特徴から、つまり加熱調理を行っても肉がパサパサ、ホロホロになりにくいということがわかってきました。水分含量、保水性を分析した結果、両社ともイノシシ肉は牛肉に比べて優れていることがわかりました。そこで、それらの特徴を生かした調理法の提案をしたいと考えました。

イノシシ肉については八雲町のイノシシ肉生産組合の土屋さんにご協力いただき、処理施設の設置に関する解説をしていただき、解体の様子も見学させていただきました。本プロジェクトに使用するイノシシ肉は八雲町イノシシ肉生産組合より購入したものです。





卒業研究において
肉の破断応力（食感）分析している様子

イノシシ肉は

- ・やわらかい・保水性が高い。
- ☞もちもちして やわらかい食感



イノシシ肉の特徴について

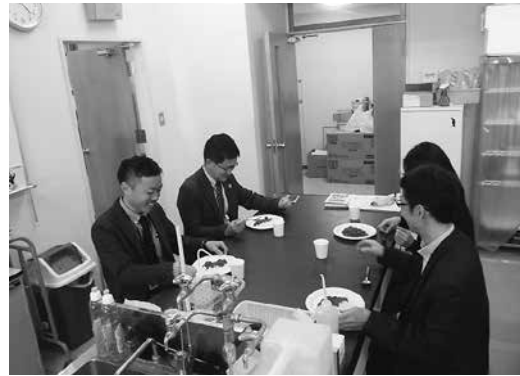
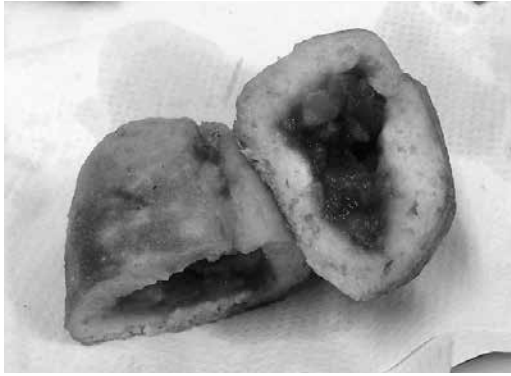
◎調理法の模索

イノシシ肉には加熱しても煮崩れにくいという特徴があり、それを生かすためには煮込み調理を行うことが良いのではないかと考えました。最初にイノシシ肉のミンチを用いたミートソースを作り、次にカレーを作りました。両方ともとてもおいしかったのですが、「私たちにしか作ることでできないレシピ」を目指して試行錯誤を続けました。そんな中、松江市内でエスニック料理店を営んでおられる柏井さんと出会い、イノシシ肉×エスニック料理という新しい分野へのヒントをいただくことが出来ました。柏井さんの協力の下でイノシシ肉をケバブの具材にしたりと、今までのイノシシ調理とは一線を画す料理ができました。

エスニック料理について調べていくうちに、松江市および本校とゆかりのある小泉八雲の愛した「ガンボスープ」という料理があることを知り、本校総合文化学科教授の小泉教授の協力の下で小泉八雲が愛した当時に近いとされるレシピでガンボスープを試作しました。ガンボスープは見た目にはカレーに近いものですがほかのどの料理とも異なる風味があり、イノシシ肉の特徴とも相性が良いのではないかと思います。

卒業研究の成果をもとに発案・試作を経て試食会（第一弾）





試作品（左上：サモサ、右上：米粉ピザ（イノシソース）、
左下：イノシケバブ、右下：学内試食会の様子）

今後の展開

「島根県産のイノシ肉×松江ゆかりの小泉八雲が愛した逸品」というコンセプトの下、ガンボスープの可能性を探っていくために2015年12月に開催されたオールしまねCOC+事業「しまね大交流会2015」イベントに参加し、様々な企業の方とお話をする機会を得ました。その中でレトルト食品として販売するのはどうかといった提案をしていただいたり、地域食材の利用する上ではどういう点に留意しなければならないのかについてアドバイスをいただいたり、多くの来場者の方の興味を引くことが出来たのではないかと思います。また、ガンボスープに入れるオクラについて、ガンボスープ発祥の地であり、松江市の姉妹都市であるニューオーリンズ市からいただいたオクラの種を育てたものを用いてはどうか、というアイデアをいただきました。ガンボスープを通じての国際交流という可能性を鑑み、これを機に松江市へ働きかけを行おうと考えました。3月に松浦市長に試食いただける席を設けていただいたので、その際に大きなインパクトを与えられるようにしたいと考えております。もしも、松江市とのコラボが実現すれば、学校給食としてのガンボスープを登場させることを目指したいと思います。



試作したガンボスープ！

● キラキラドリームプロジェクトに取り組んだ感想

【健康栄養学科2年 山本豪】

プロジェクトを始めた時はイノシ肉の利用率向上につながりやすい、一般家庭の食卓に上りやすいレシピを考案しようかと漠然と考えていました。しかし、プロジェクトを進めていくにつれて当初は全く頭になかったエスニック料理という選択肢が出てきたり、今まで面識のなかった小泉教授にご協力いただいたりと考えてもみなかった状況になり、ただただ驚いています。自分一人ではたどり着けなかったであろうこの状況を作り出したのは、森脇さんや指導教官の籠橋先生の力であったり、教務学生課の雪吹さんをはじめ、柏井さん、土屋さんなど、このプロジェクトに関わったすべての人たちのおかげであると感じています。改めて感謝申し上げます。

【健康栄養学科2年 森脇未貴】

今回のプロジェクトを通して、私の地元である島根県の野生鳥獣の問題について改めて考えることができました。私は今までイノシ肉を食べる機会がなく、知識もほとんどなかったため、イノシ肉は独特な風味があって食べにくいものだという偏見をもっていました。しかし、実験や試作を通して、イノシ肉は優れた特性を持ち、きちんと処理をしたものなら臭みがなく、どんな料理にも合うということがわかりました。COCイベントでさまざまな方とお話をさせていただいた際に、やはりイノシ肉は他の肉と比べて食べにくいと思っている方が多い印象を持ちました。現段階でゴールとはなりませんでしたが、これからも続くであろうこのプロジェクトを通してイノシ肉についてもっと知ってもらい、美味しいものだと認識してもらえたらと思います。また、新しいものを一から生み出すことや商品化をすることの難しさ、人とのつながりの大切さを感じることができ、とても貴重な経験になりました。今回、このような経験をすることができたのは、たくさんの方々のおかげだと思います。ありがとうございました。

【volcanoの活動】

平成27年度におけるボランティアサークル volcano（ぼるけーの）は、北野りんご園の作業と、浜乃木七丁目国尾自治会との連携活動を中心におこなった。自治会との交流は昨年度1月から開始したものであり、今年度は年間を通して本格的に活動に加わった。



国尾自治会グランドゴルフ大会

自治会との交流イベントや防災訓練などへの参加の体験をもとに、飛鳥祭では「あったかれっじ交流会」をおこなった。本部員と国尾自治会員、卒業生OBが集合し、学生が日頃どのようなボランティアに取り組んでいるかをパワーポイントで報告し、また自治会の方々との自由な意見交換をおこなった。

こうした自治会との活動や、学内でのボランティア啓発が評価され、平成27年度県民いきいき活動奨励賞（ユース部門）を受賞した。今後もこれらの活動を基軸としながら、学生の興味に応じたボランティア活動を実行していく予定である。

（総合文化学科講師：山村桃子）

*平成27年度volcanoの主な活動

- H27年 5・6月 北野りんご園（雲南市奥出雲町） 袋がけ
- 8月 国尾自治会 夏祭り
- 国尾自治会 ハゼ釣り
- 国尾自治会 グランドゴルフ大会
- 国尾自治会防災隊 防災訓練
- 10月 飛鳥祭 あったかれっじ交流会（国尾自治会との共催）
- 11月 北野りんご園 摘果
- H28年 1月 国尾自治会 とんど祭
- 国尾自治会 くにつこ昔あそび会（学生交流ネットワークとの共催）



北野りんご園摘果作業



飛鳥祭における「あったかれっじ交流会」

【ティンホイッスル・サークルの活動】

平成27年6月15日（月）にLIVE&BAR MIZで、山陰日本アイルランド協会のアイリッシュバンド「Ceol agus Craic」も参加し、セッション形式での演奏を行った。7月25日（土）白潟天満宮の夏の例大祭に合わせて行われた松江市市民活動センター主催「SITC市民活動おかげまつり・夏祭り」のステージで演奏、11月15日（日）には出雲市で開催された、出雲中心市街地にぎわい創出実行委員会主催「いずも多文化・にぎわいのある街づくり」交流広場での演奏を行った。12月21日（月）に松江市東出雲町揖屋駅に併設された「町の駅女寅」のクリスマスコンサートで演奏をし、地元の方との交流を行った。平成28年3月12日（土）・13日（日）に開催されたアイリッシュ・フェスティバル in 松江2016のセント・パトリックス・デイ・パレードで演奏を披露しながらパレードに参加するとともに、アイリッシュ・パブ「シャムロック」や屋台村の設営等、イベントのボランティア・スタッフとして協力した。

6. 教育機関等との連携一保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

【連携校協議】

平成27年7月3日に、幼保園のぎ、乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議を松江キャンパスで行った。また、平成27年5月15日と平成28年2月22日に、湖南中学校、松江商業高校、松江キャンパスの三者連携会議が、松江商業高校で行われた。なお、27年度は本学が当番校として三者連携会議を推進した。

このような緊密な教育上の連携をふまえて、「連携校教育研究会」が8月17日に本学2号館第7講義室で開催された。講師は島根県教育庁教育指導課学力育成スタッフの佐藤誠指導主事（兼）企画幹、テーマは「今なぜアクティブ・ラーニングか」。初等中等教育における主体的・協働的学習（アクティブ・ラーニング）の成り立ちと必要性を、体感しつつ学ぶ、有意義な研究会となった。出席者は、松江商業高校14名、湖南中学校11名、乃木小学校5名、幼保園のぎ1名、本学教員11名・本学職員10名、計52名であった。

平成27年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
出雲市立第3中学校	健康栄養学科 教授 名和田清子	食育授業	平成27年 11月27日		全生徒670名 教員10名 参加
松江市立乃木小学校	健康栄養学科 教授 直良博之 嘱託助手 葉迫靖子	食育授業 「生物リズムと食事」	平成27年 12月9日	健康栄養 2年生4名	5年生 157名参加
安来市立能義小学校	健康栄養学科 教授 直良博之 嘱託助手 葉迫靖子	食育授業 「生物リズムのお話」 「朝ご飯を食べよう」	平成28年 12月22日		3～6年生 46名、 保護者25名、 教員10名
鳥根県立江津高等学校	保育学科 講師 矢島毅昌	進学説明会	平成27年 11月9日		幼児教育・保 育学について の説明
松江市立湖南中学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	総合的学習の時間「地 域探検の魅力」	平成27年 6月15日		湖南中 1年生171名
松江市立出雲郷小学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	総合的学習の時間 「小泉八雲について」	平成27年 10月19日		出雲郷小 4年生72名
松江市立内中原小学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	英語活動の時間「小泉 八雲とアイルランド」	平成28年 1月21日		内中原小 4年生120名
揖屋保育園	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 5月21日	総文3名	
出雲郷保育園	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月8日	総文3名	
松江市スティックビル	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月14日	総文3名	
鹿島子育て支援センター	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月18日	総文3名	
松江市立幼保園のぎ	総合文化学科 教授 岩田英作 教授 マユアキ	3学科共通科目 「読み聞かせの実践」	平成27年5月～ 平成28年1月	総文32名 健康栄養3名 保育22名	
松江市立乃木小学校	総合文化学科 教授 岩田英作 教授 マユアキ	3学科共通科目 「読み聞かせの実践」	平成27年5月～ 平成28年1月	総文32名 健康栄養3名	
松江市立忌部小学校	総合文化学科 教授 岩田英作 教授 マユアキ	総合文化学科卒業プロ ジェクト 「おはなしゼミ」	平成27年5月～ 平成28年2月	総文11名	
松江市立女子高等学校	総合文化学科 准教授 工藤泰子	鳥根県立大学短期大学 部松江キャンパス交流 会「近代松江の観光」	平成27年 10月21日		1年生119名

出張講座（高大連携）の状況

（大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合）

相手先	日程	テーマ（会場）	時間	回数	担当者	参加者数
鳥根県立三刀 屋高等学校	平成27年 2月23日（火）	明日のしまねを担う高校生 キャリア教育推進事業図書館 がっつぐ学びの輪	14：00～17：00	1	岩田英作 （総合文化学科教授）	30
松江市立女子 高等学校	平成27年 5月25日（月）	「郷土理解」五感でとらえた明 治の松江～小泉八雲の世界～ 講義および現地研修	9：00～12：50	1	小泉 凡 （総合文化学科教授）	30

【健康栄養学科の教育機関連携】

松江市立乃木小学校での食育授業は、松江市立湖南中学校、松江市立乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに平成19年度から始まり、今年度で9年目を迎えた。健康栄養学科教員（直良博之教授、葉迫靖子嘱託助手）と学生4名が取り組み、生物リズムと食事について、朝ごはんを食べることの重要性を児童と一緒に考えながら実施した。



松江市立乃木小学校での食育授業

【保育学科の教育機関連携】

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成27年度「第42回ほいくまつり」は、平成27年6月27日（土）に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的で開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



平成27年6月27日 第42回ほいくまつり 保育学科一同

【総合文化学科の教育機関連携】

総合文化学科では、岩田英作教授・マユアキ教授とともに、「読み聞かせの実践」を履修する学生（全学科）、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。（「3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照）

また、総合文化学科の教員は、湖南中学校の「総合的な学習の時間」に協力した。詳細は以下の通りである。

* 湖南中学校1年生「総合的な学習の時間」への協力授業

総合文化学科の2名の教員は、湖南中学校における総合的な学習の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、昨年に引き続き協力授業を行った。小泉凡教授の授業は平成27年6月15日「地域探検の魅力」、高橋純教授の授業は10月1日「発表の仕方」であった。

7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

【健康栄養学科の実習施設・機関との連携】

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成27年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を鳥根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成27年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
鳥根	松江赤十字病院	2	8/31～9/4
	松江市立病院	4	8/24～8/28
	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター	2	9/7～9/11
	松江市立北学校給食センター	2	9/7～9/11
	松江市立南学校給食センター	3	9/7～9/11
	鳥根県立中央病院	3	8/31～9/4

地区	実習依頼先	実習人員	日程
島根	万田の郷	2	9/7～9/11
	出雲市立出雲学校給食センター	2	9/7～9/11
	出雲市立斐川学校給食センター	2	9/14～9/18
	安来市立十神小学校学校給食	1	9/7～9/11
	雲南市立三刀屋学校給食センター	2	9/7～9/11
	町立奥出雲病院	1	8/24～8/28
	大田市立大田市学校給食センター	1	8/31～9/4
	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター	2	9/7～9/11
	浜田市立三隅小学校	1	9/24～9/30
鳥取	米子市立学校給食センター	2	9/7～9/11
	鳥取市立気高中学校学校給食センター	1	9/7～9/11
広島	県立安芸津病院	1	9/14～9/18
	尾道市立市民病院	2	9/14～9/18
	福山市民病院	1	8/31～9/4
山口	山口市立さくら小学校	1	9/7～9/11
岡山	医療法人社団 清和会 笠岡第一病院	1	8/31～9/4
宮崎	医療法人社団 聖山会 川南病院	1	8/24～8/28
	医療法人久康会 平田東九州病院	1	8/17～8/21

【保育学科の実習施設・機関との連携】

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成27年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白濁保育所、松江市立掛屋保育園、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶきこども園、つわぶき保育園、なかよし保育園、みどり保育所、愛恵保育園、ふたば古志原保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、嵩見保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、あおぞら保育園、ふたば第三保育所、湯町保育所、松原保育園、育英保育園、たけかや保育園	1年前期・保育実習Ⅰ（保育所） 2年前期・保育実習Ⅱ（保育所）
	島根県出雲市	出雲市立直江保育園、ハマナス保育園、神門保育園、神門第2保育園、荘原保育園、ひかり保育園、出東保育園、たちばな保育園、平田保育所、さとがた保育園、出雲サンサン保育園、たいしゃ保育園	
	島根県雲南市	雲南市立三刀屋保育所、雲南市立大東保育園	

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県安来市	安来市立安来保育所、安来市立広瀬保育所	1年前期・ 保育実習Ⅰ (保育所) 2年前期・ 保育実習Ⅱ (保育所)
	島根県飯南町	赤名保育所	
	島根県大田市	大田市立鳥井保育園、サンチャイルド長久さわらび園、 あゆみ保育園	
	島根県江津市	のぞみ保育園	
	島根県美郷町	おおち保育園	
	島根県益田市	高津保育園、緑ヶ丘保育所	
	島根県隠岐の島町	隠岐の島町立原田認定こども園	
	鳥取県米子市	米子市立あがた保育園、米子市立南保育園、えんぜる保育 園、ひばり保育園、夜見保育園	
	鳥取県境港市	境港市立あがりみち保育園、梅檀保育園、あまりこ保育園	
	鳥取県倉吉市	倉吉市立上小鴨保育園	
	鳥取県鳥取市	むつみ保育園	
	鳥取県南部町	南部町立ひまわり保育園	
	鳥取県琴浦町	みどり保育園	
	広島県庄原市	高野保育所	
	広島県三次市	三次市立こうぬ保育所	
	広島県福山市	宮前保育所	
	愛媛県久万高原町	久万保育園	
	愛知県みよし市	みよし市立みどり保育園	
	東京都八王子市	白百合柵田保育園	
	山形県鶴岡市	鶴岡市立大東保育園	
福岡県福岡市	まごころ保育園		
長崎県長崎市	長崎市立中央保育所		
児童館 ・児童 クラブ	島根県松江市	東津田児童館、八雲児童センター、大庭地区第1児童クラ ブ、大庭地区第2児童クラブ、古志原地区第1児童クラブ、 古志原地区第2児童クラブ、津田第1児童クラブ、津田第 2児童クラブ	1年後期・ 保育実習Ⅲ
児童福祉 施設等	島根県松江市	松江赤十字乳児院、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、 国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、 しのめ寮	2年前期・ 保育実習Ⅰ (施設)
	島根県出雲市	さざなみ学園、児童心理療育センターみらい	
	島根県安来市	安来学園	
	島根県浜田市	聖喙寮、こくぶ学園	
	島根県隠岐の島町	仁万の里児童部	
鳥取県米子市	米子聖園天使園		
幼稚園	島根県松江市	松江市立幼保園のぞ、松江市立城西幼保園、松江市立古志 原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立母衣幼稚園、松 江市立雑賀幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立竹矢幼 稚園、松江市掛屋庭幼稚園、松江市立忌部幼稚園、松江市 八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園	2年前期・ 後期・教育 実習

区分	所在	施設・機関名	備考
幼稚園	島根県安来市	安来市立安来幼稚園、安来市立広瀬幼稚園	2年前期・後期・教育実習
	島根県出雲市	出雲市立出東幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立長浜幼稚園、出雲市立神西幼稚園、出雲市立荒木幼稚園、出雲市立湖陵幼稚園、認定こども園光幼稚園、北陵認定こども園北陵幼稚園	
	島根県雲南市	雲南市立海潮幼稚園	
	島根県大田市	大田市立大田幼稚園	
	島根県江津市	江津市立江津幼稚園	
	島根県浜田市	夕日ヶ丘聖母幼稚園	
	島根県益田市	益田幼稚園、益田天使幼稚園	
	鳥取県米子市	みずほ幼稚園、東みずほ幼稚園、かもめ幼稚園、良善幼稚園、認定こども園かいけ心正こども園	
	鳥取県境港市	聖心幼稚園	
	鳥取県湯梨浜町	湯梨浜町まつざきこども園	
	鳥取県北栄町	北栄町立北条こども園	
	鳥取県倉吉市	認定こども園倉吉幼稚園倉吉保育園	
	鳥取県鳥取市	小さき花園幼稚園、修立幼稚園	
	広島県三次市	三次中央幼稚園	
	広島県尾道市	新高山めぐみ幼稚園	
	愛媛県久万高原町	久万高原町立直瀬幼稚園	
	愛知県みよし市	ベル三好幼稚園	
	東京都町田市	境川幼稚園	
	山形県鶴岡市	羽陽学園短期大学附属大宝幼稚園	
長崎県長崎市	日見幼稚園		

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成27年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

8. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

【読み聞かせの活動】

幼保園のぎ、乃木小学校での実践は、保育学科、総合文化学科の1年生のうち、「読み聞かせの実践」を履修した51名が参加した。忌部小学校での読み聞かせ並びに本学おはなしレストランライブラリーで行なう「おはなしのじかん」は、総合文化学科2年生のうち、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の9名が参加した。「おはなしのじかん」は、常時30名前後の親子連れの来館があった。

とくに「おはなしのじかん」の特別企画として開催した7月の七夕会、10月の大学祭企画、12月のクリスマス会、そして3月の感謝祭では、100名を超える親子連れでにぎわった。

学外の保育所や図書館などからの要望を受けて読み聞かせに出かける「出前シェフ」は、平成27年度は合計12か所で活動を行なった。松江市内の保育所や子育て支援センター、公民館、島根県立美術館、大田市立中央図書館、三刀屋高校など県内各地で学生たちは多くの子どもたち、地域の人たちとの出会いを経験した。



島根県立美術館での読み聞かせ



クリスマス会

平成27年度 おはなしレストランの読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼保園のぎでの実践（5月～7月、11月～1月の毎週月曜日）
参加した学生数 56名
- ◆松江市立乃木小学校での実践（5月～7月、11月～1月の毎週水曜日）
参加した学生数 56名
- ◆松江市立忌部小学校での実践（4月～7月、10月～3月の毎週金曜日）
参加した学生数 8名
- ◆おはなしレストランライブラリーでの実践（4月～月の毎週日曜日）
参加した学生数 9名
- ◆出前シェフ（不定期）12カ所での実践
参加した学生数 11名

【おはなしレストランライブラリー】

保育学科の梶間奈保教授が企画した「音のレストラン」が、今年度から始まった。1回目は、ビオラの演奏者、生原幸太さん、2回目はマリンバの演奏者、瀧禎子さんをお招きし、絵本の読み聞かせに合わせ、楽器の演奏を披露していただいた。来館者からは「身近で楽器の生演奏を聴くことができて楽しかった」と好評だった。



音のレストラン

学外からの来館者数と貸出冊数ともに昨年度より大幅に増えた。特に夏休みは、たくさんの親子連れで賑わった。幼稚園や養護学校、児童クラブ等、団体での来館も定着しつつある。

おはなしレストランライブラリー
月平均の来館者人数・貸出冊数
(平成27年4月～平成28年2月)
学内：来館者324人、貸出378冊
学外：来館者1329人、貸出5053冊

【あまんきみこさん講演会・金沢での読み聞かせ・ボランティア活動】

おはなしレストランでは、平成27年10月31日（土）・11月1日（日）の両日、児童文学作家あまんきみこさんをお迎えし、初日はおはなしレストランライブラリー、2日目は大講義室で多くの学生・一般の方々であまんさんのおはなしをうかがった。

おはなしゼミでは夏に金沢市立玉川子ども図書館の見学&読み聞かせを体験し、「やまたのおろち」の紙芝居などを行った。おはなしレストランライブラリーを利用した、カンボジアの子どもたちに文具や衣類を送る活動も、市民の皆様と協力して本年度も行った。



あまんきみこさん講演会



金沢市立玉川子ども図書館での実践

平成27年度 公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

実施日	時間	講座名	講師	受講者	
6月10日	水 14:00~15:20	01. 総合文化講座 (全8回)	平和論を考える カント・西周・アレントの平和論を読む	村井洋 (浜田キャンパス)	47
6月24日			戦後70年 社会の動きとマスコミ報道～映画・TV・新聞の動向を中心に～	瓜生忠久 (浜田キャンパス)	43
7月15日			昭和の東京オリンピックと観光教育	工藤泰子	35
7月29日			ムスリム観光客の増加と異文化理解	塩谷もも	34
9月9日			小説の愉楽―漱石『夢一夜』を読む	岩田英作	43
9月16日			地域再生のまちづくりく住居編>	藤居由香	29
10月30日			文化とコミュニケーション	橋本由里 (出雲キャンパス)	27
11月11日			現代アイルランドとラフカディオ・ハーン ―アイルランド記念事業を終えて―	小泉凡	33
6月1日～12月7日	月 14:40~16:10	02. 源氏物語を読む―恋に殉じた青年の話<結編>― (全6回)	三保サト子 (本学名誉教授)	335	
6月26日	金 15:00~16:30	03. 風土記の語る神話・ 伝説―出雲国風土記を中心 に― (全5回)	播磨国風土記の語る神話	藤岡大拙 (本学元学長)	81
7月24日			風土記逸文の語る神話 (山城・尾張・伊勢など)		68
8月28日			中国地方の風土記逸文 (因幡・伯耆・備後など)		72
9月18日			風土記の語る著名な神話・伝説 (駿河・丹後など)		68
9月25日			風土記の語る温泉伝説 (出雲・伊予・伊豆など)		65
～7月31日	月～ 金 10:40~12:10	04. 英語絵本の音読を楽しもう (全5回)	小玉容子、 ダスティン・キッド	14	
5月18日～2月15日	月 14:00~16:00	05. 椿の道読書会 (全9回)	北井由香	121	
6月19日～7月3日	金 10:30~12:00	06. 子どもがいる家庭のための英語教育実践講座2015 (全3回)	ラング・クリス	15	
10月13日	火 14:00~15:30	07. ～続々～子育て・孫 育て世代のための子ども 理解講座 (全3回)	「子どもを理解する」という営みを考える	矢鳥毅昌	6
10月20日			「子育て」と「母親」「父親」との関係を考える		7
10月27日			「最近の子どもは…」と語る社会の姿を考える		8
8月11日	火 19:00~20:30	08. 健康栄養講座： 続高齢者の食と健康 (全7回)	高齢化と鳥根の食材①	籠橋有紀子	11
8月18日			高齢者の身体と特徴	直良博之	12
9月1日			高齢者の認知症予防	山下一也 (出雲 キャンパス)	13
9月8日			生活習慣病と上手に付き合うために	安藤彰朗	11
9月15日			ロコモティブ・シンドローム	伊藤智子 (出雲 キャンパス)	12
9月29日			高齢化と鳥根の食材②	赤浦和之	11
10月6日			骨粗しょう症、メタボ予防のための食事	名和田清子	12
7月8日～12月16日	水 19:00~21:00	09. 栄養士のためのステップアップ講座 (全12回)	健康栄養学科教員	60	
8月1日～9月6日	土日 10:30~16:15	09. 栄養士のためのステップアップ講座 (集中講義) (全4回)	健康栄養学科教員	5	
7月4日	土 13:00~15:00	10. 山陰民俗学会連携講 座：民俗の行方～山陰の フィールドから考える～ Part 3 (全4回)	民話「子育て幽霊」に見る母性愛	酒井薫美 (山陰民 俗学会会長)	10
7月11日			歳徳神の祭	品川知彦 (鳥根県立古代出 雲歴史博物館学芸 企画課長)	13
7月25日			法規の神や仏、祭り	福代宏 (鳥取県立 博物館学芸員)	10
8月8日			伝統行事の伝承と学校教育 ―石東地域における正月行事を事例に―	多田房明 (大田市 立鳥井小学校校長)	7
5月16日～12月5日	土 A講座/ 14:00~15:30 B講座/ 15:30~17:00	11. 民族音楽の楽しみ：ガムラン教室 (全12回)	瀬古康雄 (本学元教授)	73	
5月23日	土 13:30~15:00	12. 案外知っているよう で知らない「人」の話 (全3回)	私たちの住む世界って？―自分の世界は人と同じなの？	飯塚由美	18
5月30日			仲間、グループ、コミュニケーション		18
6月6日			人と人との絆―サポートネットワーク		19

実施日	時間	講座名	講師	受講者	
8月2日	土 14:00~16:00	13. 子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座：コミュニケーション・ペアレンティング（全7回）	わかりやすいコミュニケーション	藤原映久	1
8月9日			良い結果・悪い結果		2
8月23日			効果的な誉め方		1
8月30日			予防的教育法（休講）		0
9月6日			問題行動を正す教育法		2
9月13日			自分自身をコントロールする教育法		2
9月27日			フォローアップ		2
8月7日	金 16:00~20:30	14. 文化資源探求講座	松江ゴーストツアー：納涼堀川遊覧船と小泉八雲【怪談】の夕べ	小泉凡	19
11月3日	月 9:30~17:30		「奥出雲のたたら文化」を訪ねる	岡部康幸（NPO 法人出雲学研究所 会員）、小泉凡	36
					1531

平成27年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容（テーマ等）	日付
1	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市子育て支援センター	平成27年度子育て学習会講演「子どもと関わる上で大切なこと」	平成27年7月25日
2	山下由紀恵（保育学科教授）	鳥根県教育センター	平成27年度幼保小連携講座 「学びの芽生えから教科までをどうつなぐか」	平成27年7月30日
3	山下由紀恵（保育学科教授）	鳥根県健康福祉部	平成27年度市町村職員等専門研修（児童福祉司任用資格認定講習会）講師「母子関係理論と発達心理学」	平成27年8月7日 平成27年8月11日
4	山下由紀恵（保育学科教授）	川本町保育研究会	川本福祉会職員研修会講師 「日々の生活や遊びの中でみえてくる子どもの発達について」	平成27年10月31日
5	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市保育研究会	平成27年度保育研究会第5分科会指導助言	平成27年11月21日
6	山下由紀恵（保育学科教授）	川本町	川本町子育て学習会講師「子どもと関わる上で大切なこと」	平成27年12月19日
7	山下由紀恵（保育学科教授）	鳥根県社会福祉協議会	平成27年度保育士（再）就職支援セミナー 「HUG！くむセミナー」 講師「新しい保育保育課題への対応」「子どもの発達と保育」	平成28年2月20日 平成28年2月27日
8	岸本 強（保育学科教授）	大田市保育研究会	大田市保育研究会研修会 演題「子どもの遊びを通じた運動」	平成27年7月11日
9	藤原映久（保育学科准教授）	児童養護施設聖豊寮	施設内研修会講師 演題：子どもの性行動の理解と対策	平成27年7月13日
10	藤原映久（保育学科准教授）	松江赤十字乳児院	養育を考える会助言者	平成27年7月27日、 10月26日
11	藤原映久（保育学科准教授）	鳥根県健康福祉部	平成27年度 鳥根県市町村職員等専門研修会（児童福祉司任用資格認定講習会）講師 演題：児童福祉論（浜田・松江）	平成27年8月7日、 8月11日
12	藤原映久（保育学科准教授）	鳥根県児童館連絡協議会	平成27年度鳥根県児童厚生員等第2回研修会講師 演題：個別援助活動	平成27年12月6日
13	藤原映久（保育学科准教授）	岡山県保健福祉部	平成27年度岡山県基幹的職員研修会講師 演題：児童福祉施設における施設内暴力の理解と対応	平成27年12月16日
14	藤原映久（保育学科准教授）	鳥取県児童館連絡協議会	2015年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会講師 演題：放課後児童クラブの存在意義と基本的役割	平成28年1月18日
15	藤原映久（保育学科准教授）	鳥根県健康福祉部	基幹的職員研修講師 演題：組織的対応をアセスメントについて	平成28年3月16日
16	矢島毅昌（保育学科講師）	松江市保育研究会	第9回松江市保育研究大会 第3分科会（袖師保育所） 指導助言者	平成27年11月21日
17	山村桃子（総合文化学科講師）	鳥根県教育長文化財課古代文化センター	出雲国風土記連続講座 第二講 講師	平成27年9月26日
18	小泉凡（総合文化学科教授）	和歌山県広川町教育委員会 「稲むらの火の館」	第1回稲むらの火講座 「オープン・マインドで生きる —浜口梧陵と小泉八雲をめぐって—」	平成27年5月4日
19	小泉凡（総合文化学科教授）	近畿松江会	創立10周年記念大会講演 「松江の文化資源、小泉八雲を現代に活かす」	平成27年5月24日
20	小泉凡（総合文化学科教授）	日本ギリシャ協会	第42回総会講演 「ラフカディオ・ハーンを現代に活かす —ギリシャ発、文化資源化への試み—」	平成27年6月12日

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
21	小泉凡(総合文化学科教授)	松江市城東公民館	文化講演会 「ラフカディオ・ハーンを現代に活かす」	平成27年6月18日
22	小泉凡(総合文化学科教授)	朝日カルチャーセンター湘南	文化講座 「八雲のいたずらー小泉家に起こった不思議なお話」	平成27年7月25日
23	小泉凡(総合文化学科教授)	新宿歴史博物館	協働企画展 「熊本・新宿をつなぐ作家 漱石・八雲」 記念講演会 「小泉八雲を現代に活かす」	平成27年7月26日
24	小泉凡(総合文化学科教授)	焼津小泉八雲記念館	焼津小泉八雲記念館トークショー 「一つ目小僧の文化史」	平成27年8月2日
25	小泉凡(総合文化学科教授)	鳥取県日野町	日野町図書館開館20周年記念講演会 「地域資源として活かす小泉八雲と怪談」	平成27年8月8日
26	小泉凡(総合文化学科教授)	中国5県高等学校教頭・副校長会研究協議会	第29回中国5県高等学校教頭・副校長会研究協議会記念講演 「教育者 ラフカディオ・ハーン」	平成27年8月10日
27	小泉凡(総合文化学科教授)	第54回日本SF大会 実行委員会	第54回日本SF大会(米子)における異孝之慶応大学教授との対談 公開対談「小泉八雲とSF的想像力」	平成27年8月29日
28	小泉凡(総合文化学科教授)	日本ローエル協会	日本ローエル協会研究集会2015(松江) 基調講演 「文化資源としてのハーンとローエル」	平成27年9月5日
29	小泉凡(総合文化学科教授)	西日本不自由児施設 運営協議会	第60回西日本不自由児施設運営研究会 記念講演 「オープン・マインドで生きる!ー小泉八雲を現代に活かすー」	平成27年9月11日
30	小泉凡(総合文化学科教授)	松江怪喜宴実行委員会	松江怪談談義「怪談のふるさと松江で語る小泉八雲」講師	平成27年9月11日
31	小泉凡(総合文化学科教授)	鳥取県立生涯学習センター	平成27年度「未来をひらく鳥取学」国際化科目 講座講師 「オープン・マインドで生きる!ー小泉八雲を現代に活かす実践からー」	平成27年9月13日
32	小泉凡(総合文化学科教授)	関西成城会	関西成城会平成27年度総会 記念講演会 「ひ孫からみた小泉八雲と現代社会」	平成27年10月3日
33	小泉凡(総合文化学科教授)	The Little Museum of Dublin (Ireland)	Considering Lafcadio Hearn's Open Mind from the Point of View of One Descendant	平成27年10月8日
34	小泉凡(総合文化学科教授)	鳥根大学	鳥大ミュージアム学 講師 「文化資源としての小泉八雲」	平成27年10月23日
35	小泉凡(総合文化学科教授)	日野市郷土資料館	ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語ー勝五郎生誕200年記念展ー講演会 「文化資源としての人と物語ー小泉八雲の世界をめぐるー」	平成27年10月24日
36	小泉凡(総合文化学科教授)	平山郁夫美術館	朗読と尺八の世界 星空のファンタジア「八雲と賢治の出会い」講師 対談 小泉 凡×宮澤和樹	平成27年11月1日
37	小泉凡(総合文化学科教授)	中国地区高等学科王文化連盟	第17回高校生文芸道場中国ブロック大会(鳥根大会)講演会 「文化資源としての作家と文学」	平成27年11月6日
38	小泉凡(総合文化学科教授)	ヘルン先生鳥取倶楽部	ヘルン先生鳥取倶楽部 創立記念集会 講師 「文化資源として活かす小泉八雲」	平成27年11月8日
39	小泉凡(総合文化学科教授)	「草枕」国際俳句大会実行 委員会	第20回「草枕」国際俳句大会 記念講演会 「文化資源としての人と文学ー小泉八雲の世界からー」	平成27年11月21日
40	小泉凡(総合文化学科教授)	尾道市立大学	第7回尾道文学三昧 記念講演会 「文化資源としての人と文学ー小泉八雲をめぐるー」	平成27年12月5日
41	小泉凡(総合文化学科教授)	兵庫県教育委員会	ひょうご子ども読書推進フォーラム 講演会講師・シンポジウムパネリスト 「地域資源としての小泉八雲」	平成27年12月20日
42	小泉凡(総合文化学科教授)	愛知学院大学	愛知学院大学 旅の文化研究会 講師 「『小泉八雲』を旅する」	平成27年12月22日
43	小泉凡(総合文化学科教授)	明治学院大学	明治学院 ケルティッククリスマス 2015 講師 「ラフカディオ・ハーンとケルト口承文化の世界」	平成27年12月23日
44	小泉凡(総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	平成27年度「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「ハーンと防災教育ー ー「稲むらの火」と濱口梧陵を活かすとくみー」	平成27年12月26日
45	小泉凡(総合文化学科教授)	一般社団法人松江観光協会	平成27年度 ボランティアガイド研修会講師 「小泉八雲と現代ー松江からみる世界のハーンー」	平成28年2月17日
46	小泉凡(総合文化学科教授)	横浜あざみ野ロータリーク ラブ	国際ロータリー第2590地区 インターシティー・ミーティング 講演会 「オープン・マインドを現代に活かすー小泉八雲から考えるー」	平成28年2月27日

2 審議会委員等

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
1	籠橋有紀子(健康栄養学科准教授)	中国地域産学官連携コンソーシアム	中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議委員	平成25年4月1日～
2	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月～
3	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月～
4	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	平成23年8月～
5	山下由紀恵(保育学科教授)	鳥根県	鳥根県障がい者自立支援協議会委員	平成23年4月～
6	山下由紀恵(保育学科教授)	鳥根県	鳥根県障がい者施策審議会委員	平成23年4月～
7	山下由紀恵(保育学科教授)	鳥根県	鳥根県子ども・子育て支援推進会議幼保連携型認定こども園検討委員会委員長	平成25年10月～
8	山下由紀恵(保育学科教授)	鳥根県教育委員会	鳥根県しまねのふるまい推進連絡協議会会長	平成25年7月～
9	山下由紀恵(保育学科教授)	鳥根県社会福祉協議会	保育の就職支援プロジェクト会議委員	平成27年4月～
10	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市総合戦略推進会議委員	平成27年4月～
11	岸本 強(保育学科教授)	鳥根県教育委員会	鳥根県スポーツ推進審議会委員 副会長	平成22年8月～ 平成30年8月
12	岸本 強(保育学科教授)	鳥根県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ支援助成金審査委員	平成23年7月～ 平成29年6月
13	岸本 強(保育学科教授)	雲南市教育委員会	幼児期運動指針実践調査研究委員会委員	平成24年4月～ 平成29年3月
14	岸本 強(保育学科教授)	鳥根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会副会長	平成17年10月～ 平成29年9月
15	岸本 強(保育学科教授)	鳥根県体育協会	普及委員会副会長	平成24年5月
16	岸本 強(保育学科教授)	公益財団法人松江市スポーツ振興財団	理事	平成25年5月～ 平成29年4月
17	岸本 強(保育学科教授)	公益財団法人 ごうぎん鳥根文化振興財団	評議員	平成23年5月～ 平成29年4月
18	岸本 強(保育学科教授)	鳥根県バレーボール協会	統括アドバイザー	平成23年5月～ 平成29年4月
19	岸本 強(保育学科教授)	中国大学バレーボール連盟	理事	平成13年5月～ 平成29年4月
20	岸本 強(保育学科教授)	まつえ湖南学園地域推進協議会会長	地域推進協議会委員	平成27年4月～ 平成28年3月
21	藤原映久(保育学科准教授)	松江市	松江市障がい者総合支援協議会委員	平成27年8月19日～ 平成29年3月31日
22	藤原映久(保育学科准教授)	社会福祉法人鳥根県社会福祉協議会	社会福祉法人鳥根県社会福祉協議会評議員	平成26年6月1日～ 平成28年5月31日
23	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市観光振興部観光施設課	小泉八雲記念館顧問	平成27年4月～ 平成28年3月
24	小泉 凡(総合文化学科教授)	公益財団法人 エネルギー・文化スポーツ財団	公益財団法人エネルギー・文化スポーツ財団理事	平成27年5月～ 平成29年5月
25	小泉 凡(総合文化学科教授)	公益財団法人 池田記念スポーツ文化財団	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団理事	平成27年6月～ 平成29年6月
26	小泉 凡(総合文化学科教授)	鳥根県立美術館	鳥根県立美術館協議会委員	平成25年5月～ 平成27年5月
27	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市観光振興部国際観光課	アイリッシュ・フェスティバル in 松江実行委員会委員長	平成27年10月～ 平成28年3月
28	マユアキ(総合文化学科教授)	鳥根県	鳥根県個人情報保護審査会委員	平成26年4月～
29	マユアキ(総合文化学科教授)	鳥根県	鳥根県情報公開審査会委員	平成26年4月～
30	マユアキ(総合文化学科教授)	松江市	松江市総合計画検証委員会委員(副委員長)	平成22年8月～
31	藤居由香(総合文化学科准教授)	鳥根県	しまね景観賞審査委員会委員	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
32	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市都市計画審議会委員	平成27年4月1日～ 平成28年1月28日
33	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市都市計画審議会会長	平成27年1月29日～ 平成28年3月31日
34	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市緑地及び自然環境保全審議会委員	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日

NO.	教員氏名	委嘱（依頼）者	役職名	期間
35	藤居由香（総合文化学科准教授）	松江市	松江市歴史まちづくり協議会委員	平成27年4月1日～平成28年3月31日
36	藤居由香（総合文化学科准教授）	島根県建築住宅センター	一般財団法人島根県建築住宅センター評議員	平成27年4月1日～平成28年3月31日
37	工藤泰子（総合文化学科准教授）	松江市	松江歴史館運営協議会委員	平成26年11月～平成28年11月
38	工藤泰子（総合文化学科准教授）	松江市	平成27年度松江市立女子高等学校学校評議員	平成27年4月～平成28年3月
39	工藤泰子（総合文化学科准教授）	松江市	アイリッシュ・フェスティバル in 松江実行委員会委員	平成25年11月～
40	工藤泰子（総合文化学科准教授）	島根県	島根県河川整備計画検討委員会委員	平成26年10月～
41	山村桃子（総合文化学科講師）	島根県教育長文化財課古代文化センター	出雲国風土記校訂・注釈本作成指導委員会非常勤オブザーバー	平成28年2月
42	山村桃子（総合文化学科講師）	島根県教育長文化財課古代文化センター	古典に登場する名勝地調査指導委員	平成27年10月～
43	山村桃子（総合文化学科講師）	島根県教育長文化財課古代文化センター	古代歴史文化賞作業チーム会議アドバイザー	平成27年5月～
44	山村桃子（総合文化学科講師）	島根県教育長文化財課古代文化センター	島根県古代文化センター企画運営委員	平成26年11月～
45	山村桃子（総合文化学科講師）	松江市	松江市個人情報保護審議会委員	平成27年9月～

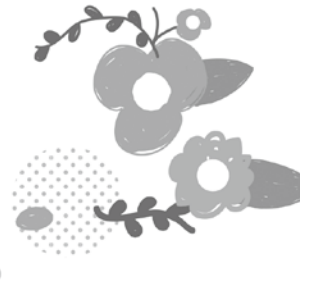
3 その他地域連携（貢献）活動等

NO.	教員氏名	相手方	内容	日付（期間）
1	酒元誠治（健康栄養学科教授）	日本栄養改善学会	教育講演座長－講師：名古屋大学大学院医科学研究科地域在宅医療学・老年科学 教授 葛谷雅文「超高齢社会における高齢者栄養の課題」	平成27年9月25日
2	酒元誠治（健康栄養学科教授）	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター	NST40時間研修として「高齢者におけるBMIの推計と地域における高齢者の栄養管理に関する取り組みについて」と題した講演を行った。内容としては、これまで行ってきた在宅高齢者への介入研究と平成27年度の松江キャンパス紀要に報告した、ふくらはぎ周囲長(CC)から推定BMI (e-BMI) の算出や、栄養介入効果について講演。	平成27年12月1日

Ⅲ. 縁結びプラットフォーム事業

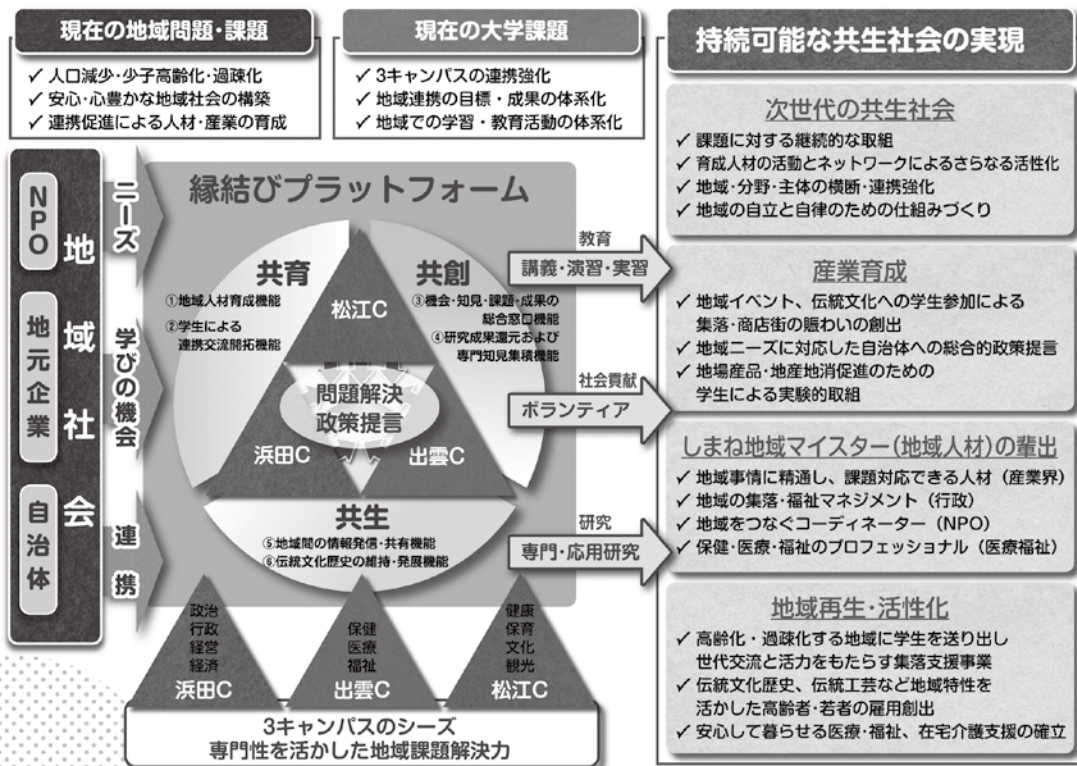
1.事業概要

3キャンパス共通の事業概要



公立大学法人島根県立大学は、総合政策学部(浜田市)、看護学部(出雲市)、短期大学部(松江市)の3キャンパスを有し、各キャンパスの専門分野を活かした地域貢献に取り組んでいます。本事業では、島根県の人口減少、少子高齢化、過疎化という地域共通問題へ対応するため、地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る「縁結びプラットフォーム」という「場」を構築します。

地域と大学の共育・共創・共生に向けた 縁結びプラットフォーム



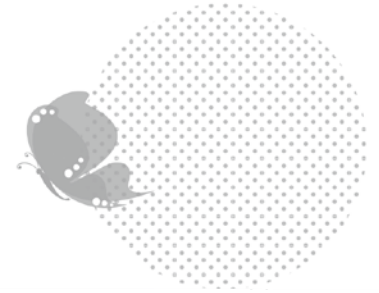
「共育・共創・共生」 とは

- 「共育」…地域とともに人材を育む
- 「共創」…知見を集積し、住みよい地域の姿を創造する
- 「共生」…地域の良さを活かし、持続的・自律的に発展する

教育・研究・社会貢献活動での3キャンパスの連携事業を発展強化させ、全学の専門性と総合力を存分に活かした効果的な課題対応等を展開していきます。

地域課題に接近しつつ教育では、過疎先進地島根県で高い専門性と実践力を有する人材を育成するために「しまね地域マイスター」認定制度(島根県立大学)、「履修証明プログラム」(島根県立大学短期大学部)を新設します。各学部で実施されてきた教育・研究・社会貢献活動を段階的に整理し、その目標・成果を全学で体系化するとともに、共通問題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を支援して、地域に開かれた大学として、地域社会へ貢献しています。

2.事業の主な具体的取組



島根県立大学

1 共育 (教育)

- 人材育成の目標:島根県における地域問題に対して様々な取組を通じて、
- ①地域事情に精通し、
 - ②地域主体を繋げるコーディネート力のある人材を育成し、
 - ③熱意をもち課題解決に取り組める実践力を持った人材を育成する。

○「しまね地域マイスター」認定制度の創設

本制度は、島根地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する、本学独自の制度です。卒業時には、自ら課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができることを目標にしています。

2 共創 (研究等)

本事業では、研究等について以下に掲げる内容を目標として取り組みます。

- ①「縁結びプラットフォーム」を通じて、学内の教員同士、地域と大学との連携を強化する。
- ②広域的、分野横断的な地域研究の実施を促進する。
- ③域内での研究成果の共有化を図る。

○地域研究費の拡充

- ・「しまね地域共育・共創研究助成金」

3 共生 (社会貢献)

本事業では、島根県内に分散立地する各キャンパスを拠点とし、社会貢献の目標を以下のとおり掲げています。

- ①生涯学習機能の拡充に取り組む。
- ②ボランティアの広域的対応に取り組む。

○生涯学習機能の拡充

- ・COC²-Netを活用した遠隔講義の実施を通じた市民の受講機会の拡大

カリキュラムマップ

CURRICULUM MAP

学年	1年	2年	3年	4年
演習科目				地域共生卒業研究
		地域共生演習		
専門科目	選択専門科目			
		地域課題総理解		
基礎科目	しまね地域共生学入門		ステップアップ!!	

島根県立大学短期大学部

1 共育 (教育)

学生に対する「地域志向」教育改善は、

- ①「しまね地域共生学入門」と「地域志向」科目による地域課題への基礎教育構築。
- ②「地域共生専門コース」履修証明プログラムの選択履修による問題意識の深化。
- ③卒業研究における学域共同研究への一部参加による課題解決への展望。

○現場専門職者向け「地域共生専門コース」新設

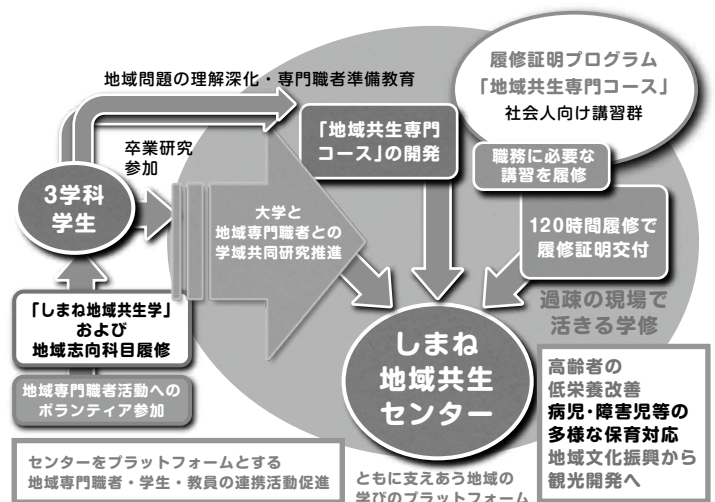
現場専門職の社会人向けの、極めて実践的かつ具体的な個別的課題の解決に結びつく知見と技術の集積としてのプログラムです。少子高齢化集落の職務に必要な講習の履修、ならびに120時間コース履修による履修証明の交付(履修証明プログラム)をおこないます。

2 共創 (研究等)

- 「しまね地域共生センター」における共同研究の推進
- 「しまね地域共生センター紀要」の発行

3 共生 (社会貢献)

- 社会人向け「地域共生専門コース」での人材育成
- 生涯学習機能の拡充
- ボランティアの広域的対応



IV. その他の地域活動

1. 地域貢献プロジェクト助成事業

本学では、中期目標に掲げる「地域活性化に対する支援」を推進するため、平成20年度から北東アジア地域学術交流研究助成金に「地域貢献プロジェクト助成事業」を創設している。

包括協力協定を締結した浜田市、松江市、出雲市及び益田市との共同事業のほか、本学教員が地域協力者（自治体、NPO、自治会、郷土研究者等）とともに行う、大学の地域貢献活動（調査・研究等）に対して助成するものである。年間6件程度のプロジェクトを採択し、各種事業の実施や成果の還元等を通じて、地域振興への取組を支援している。

平成27年度の地域貢献プロジェクト助成事業 交付決定状況

代表者氏名 (所属キャンパス)	プロジェクト 協力者氏名	研究課題名	交付金額
赤浦 和之 (松江)	—	西条ガキ熟柿ピューレを用いた 食品の開発	622千円
籠橋有紀子 (松江)	—	島根県産米の特性分析 ～理化学分析による検討～	800千円
酒元 誠治 (松江)	—	浜田市高齢者健康栄養調査	800千円
山下由紀恵 (松江)	—	島根県川本町におけるインク ルーシブ相談支援プロジェクト	800千円

2. 鳥根県との連携

鳥根県立大学と鳥根県は、地域の振興に貢献するため、これまでも様々な分野で連携事業を実施してきたが、情報の共有化を図り連携をより一層推進するため、平成24年から連携企画会議及び連携調整会議を開催し、定期的に意見交換を行っている。

平成27年度からは、9月連携会議での連携調整内容も踏まえた上で、次年度の連携事業計画に反映できるように、年2回の開催から年度前半だけの開催とした。

1. 第6回鳥根県・鳥根県立大学連携調整会議

(1) 日時 平成27年6月5日（金）14：00～16：00

(2) 場所 市町村振興センター大会議室2

(3) 概要

① 連携現状の報告

② 県立大学の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」実施状況の報告

③ 連携を期待する事項についての提案

・若者の投票率の向上に関する方策

・大学の企画運営する「子ども・子育て新制度」関係研修会への連携協力

・放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修と「履修プログラム」の連携

・安全・安心な児童福祉施設環境の構築に向けた連携

3. 隠岐の島町との連携に関する協定書締結

隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学は、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的として、平成27年7月14日（火）に連携協定を締結しました。

こちらは4月20日（月）に隠岐の島町及び隠岐広域連合立隠岐病院との意見交換会の中で、隠岐の島町松田和久町長から連携のお話をいただいたことにより、この度の締結の運びとなりました。

この締結により、以下のような課題に取り組んでまいります。

- (1) 隠岐地域の看護師確保対策
- (2) 隠岐地域に勤務する看護師の研修環境の整備
- (3) 隠岐の島町、隠岐病院等の連携による地域医療のあり方検討



隠岐の島町 松田和久町長（左）
公立大学法人島根県立大学 本田雄一理事長（右）



連携調印式の様子

4. 公益社団法人島根県看護協会との連携に関する覚書

公益社団法人島根県看護協会と島根県立大学は、実習指導者養成講習会の実施や、復職を目指す看護師の研修の実施など、看護人材の養成において、また、島根の地域医療に関する種々の課題解決に向けた取り組みにおいて、密接に連携してまいりました。

また本学は、平成28年4月に大学院看護学研究科の開設、認定看護師教育課程を開設することとなり、これにより本学と公益社団法人島根県看護協会とは今後、より一層、連携を密に行っていく必要があることから、連携して実施する事業について覚書を、平成27年9月19日（土）に締結いたしました。

この締結により、以下のような課題に取り組んでまいります。

- (1) 島根県内看護職の人材育成や生涯教育の推進
- (2) 島根県における保健医療や看護教育に関する施策等についての情報交換及び連絡調整



公益社団法人島根県看護協会 春日順子会長（左）
公立大学法人島根県立大学 本田雄一理事長（右）



連携調印式の様子

おわりに

本報告書は、平成25年度に採択された文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」に関するものではあるが、従前から実施してきた地域連携活動もまた、本学の地域の「知の拠点」としての活動に含まれると思われることから、これも含めたものとしてとりまとめを行っているところである。浜田、出雲、松江それぞれのキャンパスの活動概要も記されており、重複にもなるので、要点のみを記しておきたい。

大学COC事業に基づく活動として、まず記しておくべきことは、「縁結びプラットフォーム」のより実際的なマッチングの場として開催している「9月連携会議」をテーマ別分科会方式に変更したことであろう。まずは関係団体や地域のみならず地域課題の全体像を共有したうえで、課題解決の筋道を考え、大学のシーズとのマッチングを試みる、そのような思いで取り組んだところである。一定の成果をあげたものの、運営の仕方など、万全であったとはいえないので、次年度以降改良していきたい。これと連動するように、取組成果の発表の場である「全域フォーラム」もテーマ別セッション形式とした。そこには、全域フォーラムは取組成果の共有の場でもあるという思いが根底にある。結果的に、計180名の参加者を得ることができ、地域のみならず直接の評価や反応もいただくことができたと考えている。

大学COC事業による教育改革としては、全学共通科目となる新設科目の「しまね地域共生学入門」を浜田キャンパス（総合政策学部）において先行して開講した点が特筆されるであろう。受講者は浜田キャンパスの学生のみではあったが、出雲、松江キャンパスの教員の出講も得て実施した。COC²-Net（講義中継システム）を利用してキャンパス間を結んだ中継も試行し、3キャンパスの学生が受講する次年度に向けての準備が進んだ。

その他、大学COC事業の平成27年度の事業計画は十分に実施することができたものと考えている。

大学COC事業と峻別しがたい面はあるが、従前から実施してきた地域連携活動についても、公開講座を主体とする生涯学習の取組、学生による地域貢献（ボランティア）活動、地域をフィールドとした教育活動、高等学校をはじめとする教育機関等との連携、学校等のキャンパス見学への対応、教員による講演会等への出講や審議会等の委員への就任など、多様で多数の実践がなされた。

しかしながら、大学COC事業による教育改革の完成は補助期間終了後の平成30年以降にならざるを得ないし、その他の地域連携の取組も常に改善していくべきであろう。3つのキャンパスの特長を活かしながら協力体制も強め、連携いただいている地域のみならずの声も参考にさせていただき、いっそうの充実をめざしたいものである。

地域連携推進センター

センター長 林 秀 司

参 考

島根県立大学は、21世紀をになうべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、2007年4月、既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）、島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学した。

ここに島根県立大学は、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、島根県立大学憲章を定めることとした。

島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

1. 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

2. 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

3. 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

4. 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

5. 自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学
理事長

浜田市
浜田市長

宇野重昭



宇津徹男



松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

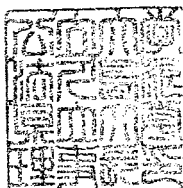
松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭



出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

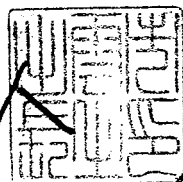
平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

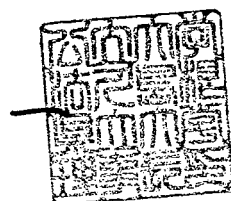
出雲市長

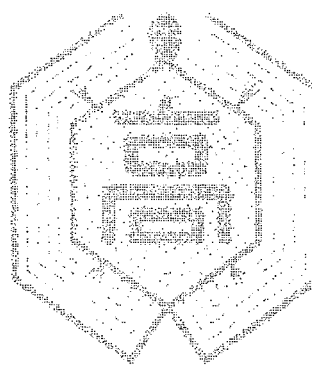
長岡秀人



理事長

本田 雄





島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

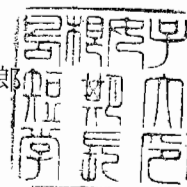
第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

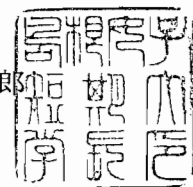
第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子



島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

（事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

（本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

（事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

（著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

（協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

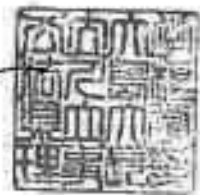
この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口1089-4
石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅禎



看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定書

島根県病院局（以下「甲」という。）と公立大学法人島根県立大学（以下「乙」という。）とは、看護連携型ユニフィケーション事業（以下「ユニフィケーション事業」という。）の実施に関し、次のとおり基本協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この基本協定書は、甲及び乙が協働で実施するユニフィケーション事業に関して、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 ユニフィケーション事業は、甲が設置運営する臨床の場である「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」と、乙が設置運営する教育の場である「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」が協働して実施することにより、看護ケアの質の向上及び看護教育の向上並びに両施設の機能を向上させることを目的とする。

（事業の範囲）

第3条 ユニフィケーション事業の範囲は以下のとおりとする。

- 1) 看護の学習会に関する事
- 2) 患者や家族のケアに関する事
- 3) 看護教育に関する事
- 4) 看護研究に関する事

（実施場所）

第4条 ユニフィケーション事業の実施場所は、甲が設置運営する「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」及び乙が設置運営する「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」とする。

（協議会の設置）

第5条 ユニフィケーション事業を運営する機関として、甲及び乙の職員を構成員とする「看護連携型ユニフィケーション事業協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（実施要領）

第6条 ユニフィケーション事業の実施および協議会の構成、運営に係る細目等は、「実施要領」として別に定めるものとする。

(実施計画の策定)

第7条 ユニフィケーション事業の実施に当たっては、協議会においてユニフィケーション事業に係る事項を明記した「看護連携型ユニフィケーション事業実施計画」を策定し、事業実施2か月前に甲及び乙に提出し、承認を得るものとする。

(活動企画書の作成)

第8条 主担当者は、前条の実施計画に基づき、活動内容、実施場所、従事者、日時等を記載する「看護連携型ユニフィケーション活動企画書」を協議会に提出し、承認を得るものとする。

(個人情報の保護)

第9条 ユニフィケーション事業の実施に当たっての個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守するものとする。

(基本協定の変更)

第10条 この基本協定書及び第6条の実施要領に関して、疑義又は定めのない事項が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定は、締結の日からその効力を発揮するものとし、甲又は乙が文書を持って協定の終了を通知しない限りその効力を持続するものとする。

本協定の証として本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成23年1月6日

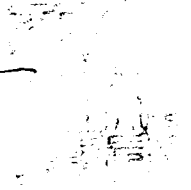
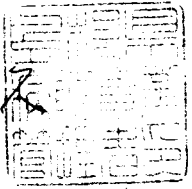
甲 島根県出雲市姫原4-1-1

島根県病院事業管理者

乙 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学理事長

中川正
本田雄一



公立大学法人島根県立大学と益田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と益田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成25年5月27日

公立大学法人島根県立大学
理事長

本田 雄一



益田市
益田市長

山本 浩



公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園（以下「学園」という。）が連携し、生徒・学生の科学的思考と発表力の段階的育成を行い、もって創造性豊かな国際的に通用する人材の育成を図ることを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) 学園の実施するスーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH事業」という。）における連携
- (2) 教育についての情報交換及び交流
- (3) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な実施については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、平成26年4月1日からSSH事業が終了する平成30年3月31日までとする。ただし、SSH事業の指定期間が延長された場合、その終了日までとする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成26年3月27日

公立大学法人島根県立大学

学校法人大多和学園

理事長

本田 雄一



理事長

大多和 聡宏



公立大学法人島根県立大学と中村元記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と中村元記念館が連携し、広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と中村元記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 広報および情報提供に関する事項
- (2) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

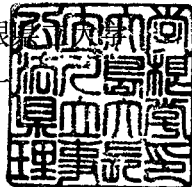
第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成27年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末までに、島根県立大学と中村元記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

- 2 島根県立大学と中村元記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成26年10月6日

公立大学法人島根
理事長 本田雄一



中村元記念館
館長

剛田 専学



公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成27年7月14日

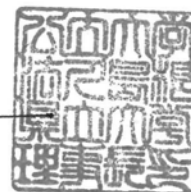
隠岐の島町
町長

松田和久



公立大学法人島根県立大学
理事長

本田 雄



公立大学法人島根県立大学と公益社団法人島根県看護協会が
連携して実施する事業に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と公益社団法人島根県看護協会（以下「乙」という。）とは、甲乙が連携して実施する事業について、次のとおり覚書を締結するものとする。

（連携して実施する事業）

第1条 連携して実施する事業は次の各号に定めるものとする。

- (1) 島根県内看護職の人材育成や生涯教育の推進
- (2) 島根県における保健医療や看護教育に関する施策等についての情報交換及び連絡調整
- (3) その他、甲乙双方が協議して実施する事業

（事業の実施方法及び定義）

第2条 事業は次の各号の方法により実施する。

- (1) 受託事業
- (2) 連携事業

2 第1項第1号の受託事業は次の定義による。

受託事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、乙が当該事業にかかる経費の全額を負担するものとする。

3 第1項第2号の連携事業は次の定義による。

連携事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定するものとする。

（受託事業）

第3条 受託事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 全て乙の負担とし、契約締結後、甲の請求に基づき乙が支払う。
- (3) 施設設備 事業を島根県立大学出雲キャンパス（以下「県大出雲」という。）で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲は、受託事業実施後に実施報告書を作成し、乙に提出する。

(連携事業)

第4条 連携事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 契約書において事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定し、甲乙それぞれが当該事業経費を負担する。
- (3) 施設設備 事業を県大出雲で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲が乙と協議の上実施報告書を作成する。

(協議)

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成27年9月19日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長 本田 雄



乙 島根県松江市袖師町7番11号
公益社団法人島根県看護協会

会長

長 日 順 子



お問い合わせ先

浜田キャンパス（地域連携推進センター）
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL:0855-24-2396 FAX:0855-23-7352
E-mail:tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス（しまね看護交流センター）
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL:0853-20-0220 FAX:0853-20-0227
E-mail:kango@izm.u-shimane.ac.jp

松江キャンパス（しまね地域共生センター）
〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2
TEL:0852-28-8322 FAX:0852-28-8366
E-mail:kyousei@matsue.u-shimane.ac.jp

平成27年度 地(知)の拠点整備事業 成果報告書 (地域連携活動報告書)

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL:0855-24-2396 FAX:0855-23-7352
E-mail:tiiki@adomin.u-shimane.ac.jp



マスコットキャラクター
「オロリン」



The University of Shimane

